ワークスペース環境管理™ 2109

Workspace Environment Management は、インテリジェントなリソース管理およびプロファイル管理テクノロジーを使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops™ の展開向けに最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーション応答時間を提供します。これはソフトウェアのみの、ドライバー不要のソリューションです。

新機能

2109の新機能

Workspace Environment Management 2109 には、以下の新機能が含まれています。バグ修正については、修正された問題を参照してください。

Windows 11のサポート

特に記載がない限り、このリリースでWindows 10 OSをサポートするCitrixのコンポーネント、機能、テクノロジーは、Windows 11もサポートするようになりました。詳細については、Windows 11のサポートを参照してください。

FIPSモードでのWorkspace Environment Management™の実行のサポート

FIPS環境でWorkspace Environment Management (WEM) を実行できるようになりました。WEMにおけるFIPS関連の構成、アップグレード、およびエージェントに関する考慮事項については、FIPSのサポートを参照してください。

修正された問題

Workspace Environment Management™ 2109には、Workspace Environment Management 2106と比較して、以下の修正された問題が含まれています。

- フィルターに基づいてユーザーにプリンターを割り当て、その割り当てがフィルター条件を満たしている場合、WEMエージェントはユーザーにプリンターを割り当てます。しかし、割り当てがフィルター条件を満たしていない場合でも、ユーザーが次回ログオンしたときにエージェントは引き続きプリンターをユーザーに割り当てます。
- エージェントホストマシンでWindows PowerShellスクリプト実行ポリシーが**署名済みスクリプトのみを許可**に設定されている場合、WEMはプロファイル管理のヘルスチェックを実行できません。ポリシーが**ローカルスクリプトとリモート署名済みスクリプトを許可**または**すべてのスクリプトを許可**に設定されている場合、WEMはプロファイル管理のヘルスチェックを実行できますが、エラー情報をWindowsイベントログに書き込みます。

- 英語以外のMicrosoft Windowsオペレーティングシステムでは、ユーザーが環境で問題に遭遇していなくても、ログオン中にWEMエージェントがWindowsイベントログにエラーを書き込みます。
- アクショングループを介してユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てた場合、管理コンソールで**無効**に設定されていても、そのアクションは引き続き有効になります。
- WEMエージェントは、VUEMRSAV.exe（**Workspace Environment Management Resultant Actions Viewer**）をインストールします。これは、管理者が定義したWEM構成をユーザーが表示できるようにするユーティリティです。しかし、このユーティリティの**エージェント設定**タブでは、管理コンソールで構成された**アクション処理を高速化するためにキャッシュを使用**オプションに関連付けられた設定をユーザーは確認できません。
- 異なるスキーマ（**dbo**ではない）をデフォルトスキーマとして指定した場合、WEMデータベースをバージョン2003以前からバージョン2009以降にアップグレードしようとすると失敗する可能性があります。
- 動的トークンを使用してobjectsid属性を抽出すると、WEMエージェントは対応するADオブジェクトの属性を抽出できません。
- フィルター条件（フィルター条件タイプとして**クライアントOS**を使用）の一致結果としてWindows Server 2022を構成しようとすると、**一致結果**メニューにWindows Server 2022がないことがわかります。
- WEMエージェントが、特定の文字（例：スラッシュ、プラス記号、等号）を含む名前のOUまたはグループに属している場合、エージェントは構成セットに登録できない可能性があります。その結果、エージェントは**管理コンソール > 管理 > エージェント > 登録**タブに表示されません。
- 管理コンソールを使用してデスクトップの壁紙を設定すると、WEMエージェントは壁紙を塗りつぶし、フィット、またはタイル表示できません。

既知の問題

- Windows 10マシンでは、管理コンソールで構成した環境設定など、特定の機能が動作しない場合があります。
- 環境設定を保存するために**適用**をクリックすると、管理コンソールが予期せず終了する場合があります。この問題は、**環境設定 > スタートメニュー > 壁紙の設定**の**スタイル**設定が空のままになっているために発生します。（以前に**スタイル**を**塗りつぶし**または**フィット**に設定していた場合、管理コンソールをバージョン2109にアップグレードした後、設定が空になりました。）回避策：**スタイル**設定を空のままにしないでください。

- WEMを使用して特定のアプリケーションをタスクバーにピン留めすると、正常にピン留めされない場合があります。この問題は、WindowsマルチセッションOSマシンで発生します。

サードパーティ通知

Workspace Environment Management™ の現在のリリースには、以下のドキュメントに定義されている条件に基づいてライセンスされているサードパーティ製ソフトウェアが含まれている場合があります。

Workspace Environment Management サードパーティ通知

非推奨

この記事のお知らせは、廃止されるプラットフォームおよびWorkspace Environment Management™の機能について事前に通知することを目的としています。これにより、お客様は適切なビジネス上の意思決定を行うことができます。Citrix®は、お客様の使用状況とフィードバックを監視し、それらがいつ廃止されるかを決定します。お知らせは、その後のリリースで変更される可能性があり、すべての非推奨の機能や機能性を含まない場合があります。

製品ライフサイクルサポートの詳細については、製品ライフサイクルサポートポリシーを参照してください。

非推奨および削除

次の表は、非推奨または削除されたプラットフォームおよびWorkspace Environment Management (WEM) の機能を示しています。

*非推奨*の項目は、すぐに削除されるわけではありません。Citrixは、このリリースでは引き続きサポートしますが、将来のCurrent Releaseで削除されます。アスタリスク（*）が付いている項目は、次回のCitrix Virtual Apps and Desktops Long Term Service Release (LTSR) リリースまでサポートされます。

*削除済み*の項目は、Workspace Environment Managementで削除されるか、サポートされなくなります。

項目	発表時期	削除時期	代替
キャッシュ同期ポートのサポート (Workspace Environment	2012	**2103**	Workspace Environment Management 1912以降にアップグレード

項目	発表時期	削除時期	代替
Management 1909以前に適用。Workspace Environment Management 1912以降では「Cached data synchronization port」に置き換えられました)。			してください。注：Workspace Environment Management 2103以降を使用している場合は、Workspace Environment Managementエージェントを1912以降にアップグレードしてください。
VMware Persona設定のサポート。	1906	**1909**	
以下のOSプラットフォームでのWEMインフラストラクチャサービスのサポート: Windows Server 2008 R2 SP1、およびWindows Server 2012。	4.7	**1808**	
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート: Windows Vista SP2 32ビットおよび64ビット、Windows 7 SP1 32ビットおよび64ビット、Windows 8.x 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2 SP1、および Windows Server 2012。	4.7	**1808**	

項目	発表時期	削除時期	代替
以下のOSプラットフォームでのWEMエージェントのサポート: Windows Vista SP2 32ビットおよび64ビット、およびWindows Server 2008 SP2。	4.7	**1808**	
WEM 3.0、3.1、3.5、3.5.1からWEM 4.xへのインプレースアップグレード。*	4.5	WEM 3.5.2にアップグレードしてから、WEM 4.xにアップグレードします。	
Windows XP SP3 32ビットおよび64ビットでのすべてのWEMコンポーネントのサポート。	4.5	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用する。
以下のOSプラットフォームでのWEMエージェントのサポート: Windows XP SP3 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 R2 32ビットおよび64ビット	4.5	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用する。
GPOを介してサイトに既存の (バージョン4.3以前の) エージェントを割り当ておよびバインドするサポート。	4.3		エージェントをWorkspace Environment Management 4.3以降にアップグレードする。

項目	発表時期	削除時期	代替
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート: Windows XP SP3 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 R2 32ビットおよび64ビット	4.2	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用する。
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート：Windows Vista SP1 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2	4.2	4.5	
Microsoft .NET Framework 4.0、4.5.0、または4.5.1でのすべてのWEMコンポーネントのサポート。	4.2	4.5	Microsoft .NET Framework 4.5.2へのアップグレード。

クイックスタートガイド

このガイドでは、Workspace Environment Management™ (WEM) のインストールと構成の方法について説明します。段階的なインストールと構成の手順、および推奨されるベストプラクティスが記載されています。

概要

WEMは、ユーザーに最高のワークスペースエクスペリエンスを提供できるように設計された、ユーザー環境管理ソリューションです。これは、ソフトウェアのみで、ドライバー不要のソリューションです。

前提条件

環境にWEMをインストールする前に、すべてのシステム要件を満たしていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

インストールと構成

Citrix®は、WEMの最新バージョンをインストールすることを推奨します。WEMの展開は、インフラストラクチャサービス、管理コンソール、エージェントの3つのコアコンポーネントのインストールと構成で構成されます。以下の手順では、これらのコンポーネントのインストールと構成方法について詳しく説明します。

- インフラストラクチャサービス
- 管理コンソール
- エージェント

> **注：**

> - 上記のコンポーネントをドメインコントローラーにインストールしないでください。
> - インフラストラクチャサービスは、Delivery Controller™がインストールされているサーバーにはインストールしないでください。

ステップ1：インフラストラクチャサービスをインストールする

1. Citrix Virtual Apps and Desktops AdvancedまたはPremium Edition Componentsのダウンロードページから最新のWEMインストーラーをダウンロードします `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>`。zipファイルを任意のフォルダーに展開します。

2. インフラストラクチャサーバーで **Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe** を実行します。
3. **「Install」** をクリックします。

4. **「Next」** をクリックします。

5. 「I accept the terms in the license agreement」を選択し、**「Next」** をクリックします。

6. ユーザー名と組織を入力し、**「Next」** をクリックします。

7. **「Complete」** を選択し、**「Next」** をクリックします。

   > **注：**
   >
   > インストールフォルダーを変更したり、SDKのインストールを防止したりするには、**「Custom」** を選択します。

8. 「プログラムのインストール準備完了」ページで、**「インストール」**をクリックします。

   インフラストラクチャサービスのインストール 06(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-installing-infrastructure-services-06.png)

9. 「**完了**」をクリックし、手順2に進みます。

> **注：**
>
> デフォルトでは、「**データベース管理ユーティリティの起動**」オプションが選択されており、ユーティリティが自動的に起動します。また、**Citrix** \> **Workspace Environment Management** \> **WEM Database Management Utility** の順に選択して、**スタート**メニューからユーティリティを起動することもできます。

インフラストラクチャサービスのインストール 07(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-installing-infrastructure-services-07.png)

手順2：WEMデータベースを作成する

1. データベース管理ユーティリティで、「**データベースの作成**」をクリックして、展開用のWEMデータベースを作成します。データベース作成ウィザードが表示されます。

> **注：**
>
> SQL ServerでWindows認証を使用している場合は、システム管理者権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行してください。

WEMデータベースの作成 01(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-creating-a-wem-database-01.png)

2. ようこそページで、「**次へ**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 02(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-creating-a-wem-database-02.png)

3. データベース情報ページで、必要な情報を入力し、「**次へ**」をクリックします。

> **注：**
>
> - サーバー名とインスタンス名には、マシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。

- ファイルパスには、データベース管理者が指定した正確なパスを入力します。自動入力されたファイルパスが正しいことを確認してください。

WEMデータベースの作成 03(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-creating-a-wem-database-03.png)

4. 「データベースサーバーの資格情報」ページで、必要な情報を入力し、「**次へ**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 04(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-creating-a-wem-database-04.png)

5. 「VUEM管理者」で、「**選択**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 05(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-creating-a-wem-database-05.png)

6. 「グループの選択」ウィンドウで、管理コンソールへの管理権限を持つユーザーグループを入力し、「**名前の確認**」をクリックしてから「**OK**」をクリックします。

   WEMデータベースの作成 06(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-creating-a-wem-database-06.png)

7. 「データベースセキュリティ」で、「**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**」を選択し、「**選択**」をクリックします。

注：

- 「**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**」も「**vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**」も選択しない場合、SQLユーザーアカウントがデフォルトで使用されます。
- 独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを使用する場合（たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合）は、「**vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**」を選択します。

WEMデータベースの作成 07(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-creating-a-wem-database-07.png)

8. 「ユーザーの選択」ウィンドウで、インフラストラクチャサービスアカウントの名前を入力し、「**名前の確認**」をクリックしてから「**OK**」をクリックします。



9. 「**次へ**」をクリックします。



10. 「データベース情報サマリー」ページで、「**データベースの作成**」をクリックします。



11. 「**OK**」をクリックします。



12. 「データベース情報サマリー」ページで、「**完了**」をクリックします。



13. 「**WEMデータベース管理ユーティリティ**」を閉じます。



14. 「アプリケーションの終了」ダイアログで、「**はい**」をクリックします。

> **注:**
>
> データベースの作成中にエラーが発生した場合は、詳細について、インフラストラクチャサービスのインストールフォルダーにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。



ステップ 3: インフラストラクチャサービスを構成する

1. **スタート**メニューから**WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を開きます。
2. **データベース設定**タブで、必要な情報を入力します。



3. **詳細設定**タブで、**Windowsアカウントの偽装を有効にする**を選択し、**参照**をクリックします。

> **注：**
>
> ステップ2でのWEMデータベース作成時に行った選択に応じて、**Windowsアカウントの偽装を有効にする**または**vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**を選択します。
>
> 

4. ユーザー名を入力し、**名前の確認**をクリックしてから、**OK**をクリックします。

5. インフラストラクチャサービスアカウントのパスワードを入力します。

6. **デバッグモードを有効にする**を選択します。

7. **ライセンス**タブで、**グローバルライセンスサーバーのオーバーライド**を選択し、ライセンス情報を入力してから、**構成の保存**をクリックします。

   > **注:**
   >
   > - Citrix License Server名には、ライセンスサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
   > - Citrix License Serverポートの場合、デフォルトポートは27000です。
   >
   > 

8. **はい**をクリックします。

9. **WEM Infrastructure Service Configuration**ユーティリティを閉じます。

手順4: 管理コンソールをインストールする

1. **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** を実行します。

2. ようこそページで、**次へ**をクリックします。

3. ライセンス契約ページで、「ライセンス契約の条項に同意します」を選択し、**次へ**をクリックします。

4. 顧客情報ページで、必要な情報を入力し、**次へ**をクリックします。

「管理コンソールのインストール 03」(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-installing-the-administration-console-03.png)

5. 「セットアップの種類」ページで、**「Complete」** を選択し、**「Next」** をクリックします。

「管理コンソールのインストール 04」(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-installing-the-administration-console-04.png)

6. 「プログラムをインストールする準備ができました」ページで、**「Install」** をクリックします。

「管理コンソールのインストール 05」(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-installing-the-administration-console-05.png)

7. **「Finish」** をクリックしてウィザードを終了します。

「管理コンソールのインストール 06」(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-installing-the-administration-console-06.png)

ステップ 5: 構成セットを構成する

1. **「スタート」** メニューから **「WEM Administration Console」** を開き、**「Connect」** をクリックします。

「構成セットの構成 01」(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-configuring-configuration-sets-01.png)

2. 「新しいインフラストラクチャサーバー接続」ウィンドウで情報を確認し、**「Connect」** をクリックします。

> **注：**

- インフラストラクチャサーバー名には、WEMインフラストラクチャサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
- 管理ポートのデフォルトポートは8284です。

「構成セットの構成 02」(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-configuring-configuration-sets-02.png)

3. 「**ホーム**」タブのリボンで、「**作成**」をクリックして構成セットを作成します。



4. 「構成セットの作成」ウィンドウで、構成セットの名前と説明を入力し、「**OK**」をクリックします。



5. リボンで、「**構成セット**」の下にある新しく作成した構成セットを選択します。



6. リボンで、「**バックアップ**」の下にある「**復元**」をクリックします。復元ウィザードが表示されます。



7. 「復元する項目の選択」ページで、「**設定**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。



8. 「設定の復元」ページで、「**次へ**」をクリックします。



9. 「ソース」ページで、「**参照**」をクリックします。



10. 「フォルダーの参照」ウィンドウで、「**Default Recommended Settings**」フォルダー (Workspace Environment Management に付属) を参照し、「**OK**」をクリックします。

    「構成セットの構成 10」(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-configuring-configuration-sets-10.png)

11. 「ソース」ページで、**「システム最適化設定」**、**「エージェント構成設定」**、**「システム監視設定」を選択し、**「次へ」**をクリックします。

「構成セットの構成 11」(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-configuring-configuration-sets-11.png)

12. 「設定の復元処理」ページで、「設定の復元」の下にある**「設定の復元」**をクリックします。

    「構成セットの構成 12」(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-configuring-configuration-sets-12.png)

13. **「はい」**をクリックします。

    「構成セットの構成 13」(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-configuring-configuration-sets-13.png)

14. **「完了」**をクリックします。

    「構成セットの構成 14」(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-configuring-configuration-sets-14.png)

ステップ 6: グループポリシーテンプレートを追加する（オプション）

必要に応じて、グループポリシーを構成できます。WEMエージェントパッケージで提供される**「エージェントグループポリシー」**管理用テンプレートは、「エージェントホスト構成」ポリシーを追加します。

1. WEMインストールパッケージに付属の**「エージェントグループポリシー」**フォルダをWEMドメインコントローラにコピーします。
2. .admxファイルを追加します。
    a. **「Agent Group Policies > ADMX」**フォルダに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx* および *CitrixBase.admx*）をコピーします。
    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions` フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
3. .admlファイルを追加します。
    a. **Agent Group Policies > ADMX > en-US**フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admlとCitrixBase.adml*）をコピーします。

c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

4. グループポリシー管理エディターウィンドウで、**コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート > Citrix Components > Workspace Environment Management > Agent Host Configuration**に移動し、**インフラストラクチャサーバー**をダブルクリックします。

   グループポリシー管理エディター(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-group-policy-man-editor2.png)

5. インフラストラクチャサーバーウィンドウで、**有効**を選択し、オプションの下にインフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューターのIPアドレスを入力し、**適用**と**OK**をクリックします。

   グループポリシーの構成 - インフラストラクチャサーバー(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-configure-infra-server-group-policy.png)

6. エージェントホストに移動し、コマンドラインを開いて`gpupdate /force`と入力します。

   グループポリシーの更新(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-update-group-policy.png)

手順7：エージェントをインストールする

> **重要：**
>
> WEMエージェントをインフラストラクチャサーバーにインストールしないでください。

1. お使いのマシンで**Citrix Workspace Environment Management Agent.exe**を実行します。

2. 「**ライセンス条項と条件に同意します**」を選択し、「**インストール**」をクリックします。

3. 「ようこそ」ページで、「**次へ**」をクリックします。

4. 「インストール先フォルダー」ページで、「**次へ**」をクリックします。

5. 「展開の種類」ページで、該当する展開の種類を選択し、「**次へ**」をクリックします。この場合は、「**オンプレミス展開**」を選択します。

6. 「インフラストラクチャサービス構成」ページで、「**インフラストラクチャサービスを構成する**」を選択し、インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、「**次へ**」をクリックします。

   > **注：**
   >
   > エージェントサービスポートのデフォルトポートは8286です。キャッシュされたデータ同期ポートのデフォルトポートは8288です。詳細については、「ポート情報」を参照してください。

7. 「詳細設定」ページで、「**次へ**」をクリックします。

8. 「インストールの準備完了」ページで、「**インストール**」をクリックします。
9. インストールウィザードを終了するには、「**完了**」をクリックします。

ステップ8：作成した構成セットにエージェントを追加する

1. 「**スタート**」メニューから「**WEM Administration Console**」を開き、「**Active Directory Objects**」をクリックし、その後「**追加**」をクリックします。

   構成セットにエージェントを追加する 01(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-adding-the-agent-to-the-configuration-set-01.png)

2. 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウで名前を入力し、「**名前の確認**」をクリックし、その後「**OK**」をクリックします。

   構成セットにエージェントを追加する 02(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-adding-the-agent-to-the-configuration-set-02.png)

3. 「**マシン**」をクリックします。

   構成セットにエージェントを追加する 03(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-adding-the-agent-to-the-configuration-set-03.png)

4. 「**マシン**」タブで、「**OUの追加**」または「**オブジェクトの追加**」をクリックして、管理するマシンを作成した構成セットに追加します。

システム要件

ソフトウェアの前提条件

.NET Framework 4.7.1 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management エージェントに必要です。まだインストールされていない場合、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。ただし、エージェントをインストールする前に、この前提条件を手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

Microsoft SQL Server 2012 以降。Workspace Environment Management がデータベースを作成するには、SQL Server インスタンスへの **sysadmin** アクセスが必要です。また、データベースを使用するには、データベースへの **読み取り/書き込み** アクセスが必要です。データベース作成中、Workspace Environment Management は SQL ログインを作成し、そのログインにデータベースユーザーマッピングを追加します。ユーザーには、データベースへの読み取り/書き込みアクセスが*自動的に*付与されます。SQL Server インスタンスは、大文字と小文字を区別しない照合順序を使用する必要があります。そうでない場合、データベースの作成またはアップグレードは失敗します。

> **注：**
>
> アップグレードの場合、**sysadmin** サーバーロールを持つユーザーアカウントを使用することをお勧めします。

> **Microsoft Active Directory**。Workspace Environment Management™ は、構成された設定をユーザーにプッシュするために、Active Directory への **読み取りアクセス** を必要とします。

> **注：**

- WEM のグローバルカタログは、フォレスト内のすべての Active Directory オブジェクトのコピーを保存しますが、*外部信頼*関係はサポートしていません。代わりに、*フォレスト信頼*関係などの他の関係タイプを使用する必要があります。
- WEM は、フォレスト間の片方向フォレスト信頼関係もサポートしていません。

Citrix License Server 11.14。Workspace Environment Management には Citrix ライセンスが必要です。Citrix ライセンスは、Citrix License Server で管理および保存されます。

Citrix Virtual Apps and Desktops。Workspace Environment Management のこのリリースには、Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Desktops の サポートされているバージョン が必要です。

Citrix Workspace™ app for Windows。Workspace Environment Management 管理コンソールから構成された Citrix StoreFront™ ストアリソースに接続するには、Citrix Workspace app for Windows が管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにインストールされている必要があります。以下のバージョンがサポートされています。

- 管理コンソールマシン上：
  - Citrix Receiver for Windows のバージョン：4.9 LTSR、4.10、4.10.1、4.11、および 4.12
  - Windows向けCitrix Workspaceアプリ1808以降
- エージェントホストマシン上:
  - Windows向けCitrix Receiverのバージョン: 4.4 LTSR CU5、4.7、4.9、4.9 LTSR CU1、および4.10
  - Windows向けCitrix Workspaceアプリ1808以降

Transformerキオスク対応マシンでは、Windows向けCitrix Workspaceアプリをシングルサインオンを有効にしてインストールし、パススルー認証用に構成する必要があります。詳細については、Citrix Workspaceアプリのドキュメントを参照してください。

オペレーティングシステムの前提条件

注:

Workspace Environment Managementおよび関連コンポーネントは、製造元によってサポートされているオペレーティングシステムのバージョンでのみサポートされます。オペレーティングシステムの製造元から拡張サポートを購入する必要がある場合があります。

インフラストラクチャサービス

サポートされているオペレーティングシステム:

- Windows Server 2022 スタンダードおよびデータセンターエディション
- Windows Server 2019 スタンダードおよびデータセンターエディション
- Windows Server 2016 スタンダードおよびデータセンターエディション
- Windows Server 2012 R2 スタンダードおよびデータセンターエディション

注:

異なるオペレーティングシステムバージョンのサーバープール（インフラストラクチャサーバー）でWorkspace Environment Managementインフラストラクチャサービスを実行することがサポートされています。インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

管理コンソール

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10 バージョン1607以降、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション

エージェント

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10 バージョン1607以降、32ビットおよび64ビット
- Windows 8.1 Professional および Enterprise Editions、32ビットおよび64ビット

- Windows 7 SP1 Professional、Enterprise、および Ultimate Editions、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2022 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2019 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2016 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2012 R2 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2012 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2008 R2 SP1 スタンダード、エンタープライズ、および データセンター エディション*

* Transformer 機能は、マルチセッションオペレーティングシステムではサポートされていません。

WEM 4.4 では、Windows XP がサポートされていました。

> **注:**
>
> Microsoft の Dynamic Fair Share Scheduling (DFSS) が有効になっている場合、マルチセッションオペレーティングシステムで実行されている Citrix Workspace Environment Management エージェントは正しく動作しません。DFSS を無効にする方法については、CTX127135 を参照してください。

SQL Server オールウェイズオン

Workspace Environment Management は、Microsoft SQL Server に基づくデータベースの高可用性のために、Always On 可用性グループ (Basic および Advanced) をサポートしています。Citrix® は、Microsoft SQL Server 2017 を使用してこれをテストしました。

Always On 可用性グループを使用すると、プライマリ SQL Server のハードウェアまたはソフトウェアに障害が発生した場合にデータベースが自動的にフェールオーバーされ、Workspace Environment Management が期待どおりに動作し続けることが保証されます。Always On 可用性グループ機能では、SQL Server インスタンスが Windows Server フェールオーバークラスター (WSFC) ノードに存在する必要があります。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/availability-groups/windows/always-on-availability-groups-sql-server?view=sql-server-ver15>` を参照してください。

Always On 可用性グループで Workspace Environment Management (WEM) を使用するには:

1. **WEM Database Management Utility** を開き、WEM データベースを作成します。
   - 「**vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定**」オプションを選択し、vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを入力してください。データベースを可用性グループに追加する際に、このパスワードを指定する必要があります。
   - 「サーバーとインスタンス名」に、プライマリSQL Serverの名前を入力します。

   > **注：**
   >
   > WEMデータベースはプライマリSQL Server上に作成されます。

2. プライマリSQL Serverに移動し、作成したWEMデータベースをバックアップします。
   - 「**可用性グループへのデータベースの追加 > データベースの選択**」ページでWEMデータベースを選択するには、パスワード（手順1で作成したパスワード）を入力する必要があります。これを行うには、パスワード列の対応する空白領域を右クリックし、パスワードを入力して、**更新**をクリックします。
   - データベースバックアップのリカバリモデルとして「**完全**」を選択します。
3. SQL Serverで、WEMデータベースを可用性グループに追加し、可用性グループリスナーを構成します。
4. WEMインフラストラクチャサービスマシンに移動し、「**WEM Infrastructure Service Configuration**」ユーティリティを開きます。
   - **データベースサーバーとインスタンス**。可用性グループリスナーの名前を入力します。
   - **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。空のままにします。
   - **データベース名**。データベースの名前を入力します。

ハードウェアの前提条件

インフラストラクチャサービス：4 vCPU、8 GB RAM、80 GBの空きディスク容量。インフラストラクチャサービスの規模とサイズに関する考慮事項については、「展開の規模とサイズに関する考慮事項」を参照してください。

管理コンソール：最小デュアルコアプロセッサ、2 GB RAM、40 MBの空きディスク容量（インストール中は100 MB）。

エージェント: 平均RAM消費量は10 MBですが、安全のため20 MBを確保することをお勧めします。利用可能なディスク容量は40 MB（インストール中は100 MB）です。

データベース: Workspace Environment Managementデータベース用に最低75 MBの利用可能なディスク容量。

サービス依存関係

Netlogon。エージェントサービス（「Norskale Agent Host service」）は、ログオンが行われる前にエージェントサービスが実行されていることを確認するために、Net Logon Dependenciesリストに追加されます。

ウイルス対策の除外

デフォルトでは、Workspace Environment Managementエージェントおよびインフラストラクチャサービスは、次のフォルダにインストールされます。

- エージェント
  - C:\\Program Files (x86)\\Citrix\\Workspace Environment Management Agent（64ビットOSの場合）
  - C:\\Program Files\\ Citrix\\Workspace Environment Management Agent（32ビットOSの場合）
- インフラストラクチャサービス
  - C:\\Program Files (x86)\\Norskale\\Norskale Infrastructure Services

エージェントの「Citrix」インストールフォルダ全体、およびインフラストラクチャサービスの「Norskale」インストールフォルダ全体に対して、オンアクセススキャンを無効にする必要があります。これが不可能な場合は、次のプロセスをオンアクセススキャンから除外する必要があります。

インフラストラクチャサービスのインストールディレクトリ内

- ノルスケール ブローカー サービス.exe
- ノルスケール ブローカー サービス コンフィギュレーション ユーティリティ.exe
- Norskale データベース管理ユーティリティ.exe

エージェントのインストールディレクトリ内

- Citrix.Wem.Agent.Service.exe
- Citrix.Wem.Agent.LogonService.exe
- VUEMUIAgent.exe
- エージェントログパーサー.exe
- AgentCacheUtility.exe
- AppsMgmtUtil.exe
- PrnsMgmtUtil.exe
- VUEMAppCmd.exe
- VUEMAppCmdDbg.exe
- VUEMAppHide.exe
- VUEMCmdAgent.exe
- VUEMMaintMsg.exe
- VUEMRSAV.exe

インストールと構成

次のコンポーネントをインストールして構成します。

- インフラストラクチャサービス(/ja-jp/workspace-environment-management/2109/install-and-configure/infrastructure-services.html)
- 管理コンソール(/ja-jp/workspace-environment-management/2109/install-and-configure/admin-console.html)
- エージェント(/ja-jp/workspace-environment-management/2109/install-and-configure/agent-host.html)

インフラストラクチャサービス

Windowsインフラストラクチャサービスは1つあります。**Norskale Infrastructure Service** (NT SERVICE\\Norskale Infrastructure Service) です。これはWorkspace Environment Management (WEM) インフラストラクチャサービスを管理します。アカウント: LocalSystem、またはインフラストラクチャサービスが実行されるインフラストラクチャサーバー上の管理者ユーザーグループに属する指定されたユーザーアカウント。

インフラストラクチャサービスをインストールする

重要:

- インフラストラクチャサービスはドメインコントローラーにインストールできません。Kerberos認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが機能しません。
- Delivery Controller™ がインストールされているサーバーには、インフラストラクチャサービスをインストールしないでください。

使用状況データ収集に関する通知:

- デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは毎晩WEMの使用状況に関する匿名の分析データを収集し、HTTPS経由でGoogle Analyticsサーバーに即座に送信します。分析データの収集は、Citrixプライバシーポリシーに準拠しています。
- インフラストラクチャサービスをインストールまたはアップグレードすると、データ収集はデフォルトで有効になります。オプトアウトするには、WEM Infrastructure Service Configurationダイアログの**Advanced Settings**タブで、**Do not help improve Workspace Environment Management™ using Google Analytics**オプションを選択します。

インフラストラクチャサービスをインストールするには、インフラストラクチャサーバーで**Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe**を実行します。「Complete」セットアップオプションでは、デフォルトでPowerShell SDKモジュールがインストールされます。「Custom」セットアップオプションを使用して、SDKのインストールを防止したり、インストールフォルダーを変更したりできます。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます: C:\\Program Files (x86)\\Norskale\\Norskale Infrastructure Services。デフォルトでは、PowerShell SDKモジュールは次のフォルダーにインストールされます: C:\\Program Files (x86)\\Norskale\\Norskale Infrastructure Services\\SDK。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

次の引数を使用してインストールをカスタマイズできます。

AgentPort: インフラストラクチャサービスのセットアップは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトを実行します。AgentPort引数を使用すると、開くポートを構成できます。デフォルトのポートは8286です。任意の有効なポートが受け入れられます。

AgentSyncPort: インフラストラクチャサービスのセットアップは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトを実行します。AgentSyncPort引数を使用すると、開くポートを構成できます。デフォルトのポートは8285です。任意の有効なポートが受け入れられます。

AdminPort: インフラストラクチャサービスのセットアップは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトを実行します。AdminPort引数を使用すると、開くポートを構成できます。デフォルトのポートは8284です。任意の有効なポートが受け入れられます。

これらのインストール引数の構文は次のとおりです。

`"path:\\to\\Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services Setup.exe" /v"argument1=\\"value1\\" argument2=\\"value2\\""`

インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。構文は次のとおりです。

- .\setup.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"
  - `setup.exe`。インストーラーのファイル名に置き換えることができます。
  - `/s`。サイレントモードを示します。
  - `/v`。msiexec に引数を渡します。
  - `/qn`。インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
  - `CLOUD=0`。オンプレミス展開を示します。
- 例:
  - .\Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"

サービスプリンシパル名を作成する

重要:

- 同じフォレスト内にある別々のドメインに対して、複数のサービスプリンシパル名 (SPN) を作成しないでください。環境内のすべてのインフラストラクチャサービスは、同じサービスアカウントを使用して実行する必要があります。
- **ロードバランシング**を使用する場合、インフラストラクチャサービスのすべてのインスタンスは、同じサービスアカウント名を使用してインストールおよび構成する必要があります。
- **Windows認証**は、AD を使用する SQL インスタンスの特定の認証方法です。もう1つのオプションは、代わりに SQL アカウントを使用することです。

インストーラーの完了後、インフラストラクチャサービス用のSPNを作成します。WEMでは、エージェント、インフラストラクチャサービス、ドメインコントローラー間の接続と通信はKerberosによって認証されます。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。インフラストラクチャサービスインスタンスのログオンアカウントとSPNに登録されているアカウントの間で関係

> を構成する必要があります。したがって、Kerberos認証要件に準拠するために、環境に適したコマンドを使用して、WEM SPNを既知のADアカウントに関連付けるように構成します。

- Windows認証または負荷分散を使用しない場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn -C -S Norskale/BrokerService**

  ここで、 はインフラストラクチャサーバーの名前です。
- Windows認証または負荷分散（Windows認証が必要な場合）を使用する場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn -U -S Norskale/BrokerService**

  ここで、 はWindows認証に使用されているサービスアカウントの名前です。
- gMSAソリューションを使用する場合は、次のコマンドを使用します。
  - **setspn -C -S Norskale/BrokerService $**

  ここで、 はgMSAアカウントの名前です。

SPNでは大文字と小文字が区別されます。

グループ管理サービスアカウント

WEMにグループ管理サービスアカウント（gMSA）ソリューションを実装できます。gMSAソリューションを使用すると、新しいgMSAプリンシパルに対してサービスを構成でき、パスワード管理はWindowsによって処理されます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/group-managed-service-accounts-overview>` を参照してください。gMSAがサービスプリンシパルとして使用される場合、Windowsオペレーティングシステムは、管理者がパスワードを管理する代わりに、アカウントのパスワードを管理します。これにより、後でアカウントのパスワードを変更した場合に、インフラストラクチャサービス用に構成したWindowsアカウントの偽装設定を変更する必要がなくなります。WEMにgMSAソリューションを実装するには、次の手順に従います。

1. ドメインコントローラーでgMSAを作成します。gMSAの作成の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/getting-started-with-group-managed-service-accounts>` を参照してください。
2. Citrix WEM SPNをアカウントにバインドします。WEM SPNの詳細については、サービスプリンシパル名の作成 を参照してください。
3. SQL Serverの設定を構成して、アカウントがデータベースにアクセスできるようにします。

a. プライマリSQL Serverで、**Security > Logins** に移動し、**Logins** を右クリックして、**New Login** を選択します。

b. **Login - New** ウィンドウで、**Search** をクリックします。

c. **Select User or Group** ウィンドウで、次のように設定を構成し、**OK** をクリックしてウィンドウを閉じます。

- **Object Types**。**Service Accounts** のみを選択します。
- **Locations**。**Managed Service Accounts** を選択します。
- オブジェクト名。ステップ1で作成したアカウント名を入力します。

d. **User Mapping** ページで、gMSAを適用するデータベースを選択し、そのデータベースのロールメンバーシップとして **db-owner** を選択します。

e. **Status** ページで、**Grant** と **Enabled** オプションが選択されていることを確認します。

f. **OK** をクリックして、**Login - New** ウィンドウを閉じます。

4. 追加したサービスアカウントを使用して、Norskale Infrastructure Serviceを開始します。

a. インフラストラクチャサーバーで、Windowsサービスマネージャーを開き、Norskale Infrastructure Serviceを右クリックして、**Properties** を選択します。

b. **Log On** ページで、**This account** を選択し、**Browse** をクリックして、ステップ3の3番目のサブステップで説明されているように設定を構成します。

c. **OK** をクリックして、**Norskale Infrastructure Service Properties** ウィンドウを閉じます。

d. Windowsサービスマネージャーで、Norskale Infrastructure Serviceを再起動します。

ロードバランシングを構成する

> **ヒント:**

> Citrix ADC を使用したロードバランシング の記事では、WEM 管理コンソールと WEM エージェントからの受信要求をロードバランシングするように Citrix ADC アプライアンスを構成する方法の詳細が説明されています。

> ロードバランシングサービスで WEM を構成するには:

1. WEM インフラストラクチャサービスが WEM データベースに接続するための Windows インフラストラクチャサービスアカウントを作成します。
2. WEM データベースを作成するときは、**インフラストラクチャサービスデータベース接続に Windows 認証を使用** オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウント名を指定します。詳細については、「Workspace Environment Management データベースの作成」を参照してください。
3. 各インフラストラクチャサービスを、SQL 認証ではなく Windows 認証を使用して SQL データベースに接続するように構成します。**Windows アカウントの偽装を有効にする** オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウントの資格情報を指定します。詳細については、「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。
4. WEM インフラストラクチャサービスの SPN を、インフラストラクチャサービスアカウント名を使用するように構成します。詳細については、「サービスプリンシパル名の作成」を参照してください。

   > **重要:**
   >
   > WEM 環境を展開する前に、サービスアカウントを使用するかマシンアカウントを使用するかを決定してください。WEM 環境がすでに展開されている場合、元に戻すことはできません。たとえば、マシンアカウントをすでに使用している後に受信要求のロードバランシングを行う場合は、サービスアカウントではなくマシンアカウントを使用する必要があります。

5. VIP の背後に配置するインフラストラクチャサーバーの数をカバーする仮想 IP アドレス (VIP) を作成します。VIP でカバーされるすべてのインフラストラクチャサーバーは、エージェントが VIP に接続するときに利用可能です。
6. エージェントホスト構成 GPO を構成するときは、インフラストラクチャサーバーの設定を個々のインフラストラクチャサーバーのアドレスではなく VIP に設定します。詳細については、「エージェントのインストールと構成」を参照してください。
7. 管理コンソールとインフラストラクチャサービス間の接続にはセッション永続性が必要です。（エージェントとインフラストラクチャサービス間のセッション永続性は不要です。）各管理コンソールは、VIP を使用するのではなく、インフラストラクチャサービスサーバーに直接接続することをお勧めします。

Workspace Environment Management データベースを作成する

ヒント:

WEM PowerShell SDKモジュールを使用してデータベースを作成することもできます。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

注：

- SQL ServerでWindows認証を使用している場合は、sysadmin権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行してください。
- Citrix®は、WEMデータベースのプライマリファイル（.mdfファイル）をデフォルトサイズ50 MBで構成することをお勧めします。

データベースを作成するには、**WEM Database Management Utility**を使用します。これはインフラストラクチャサービスのインストールプロセス中にインストールされ、その後すぐに起動します。

1. Database Management Utilityがまだ開いていない場合は、**スタート**メニューから**Citrix>Workspace Environment Management>WEM Database Management Utility**を選択します。

2. **Create Database**をクリックし、次に**Next**をクリックします。

3. 以下のデータベース情報を入力し、**Next**をクリックします。

   - **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされるSQL Serverのアドレス。このアドレスは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。サーバーとインスタンス名は、マシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスとして入力します。完全なインスタンスアドレスは**serveraddress,port\ \instancename**として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトのSQLポート番号（1433）が使用されます。
   - **データベース名**。作成するSQLデータベースの名前。

   注：

> データベース名には、ハイフン（-）やスラッシュ（/）などの特殊文字は使用できません。

- **データファイル**：SQL Server上の**.mdf**ファイルの場所へのパス。
- **ログファイル**: SQL Server上の**.ldf**ファイルの場所へのパス。

> **注:**
>
> データベース管理ユーティリティは、データファイルとログファイルのデフォルトの場所についてSQL Serverにクエリを実行できません。それらは、MS SQL Serverのデフォルトインストールにおけるデフォルト値に設定されます。これらの2つのフィールドの値がMS SQL Serverのインストールに対して正しいことを確認してください。そうしないと、データベース作成プロセスが失敗します。

☐

4. ウィザードがデータベースの作成に使用できるデータベースサーバーの資格情報を入力し、**次へ**をクリックします。これらの資格情報は、インフラストラクチャサービスがデータベース作成後にデータベースに接続するために使用する資格情報とは独立しています。これらは保存されません。

   統合接続を使用オプションは、デフォルトで選択されています。これにより、ウィザードは実行中のIDのWindowsアカウントを使用してSQLに接続し、データベースを作成できます。このWindowsアカウントにデータベースを作成するための十分な権限がない場合、十分な権限を持つWindowsアカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをクリアして十分な権限を持つSQLアカウントを指定することができます。

   ☐

5. VUEM管理者とデータベースセキュリティの詳細を入力し、**次へ**をクリックします。ここで指定する資格情報は、データベース作成後にインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用されます。これらはデータベースに保存されます。

   - **初期管理者グループ**。このユーザーグループは、管理コンソールのフルアクセス管理者として事前設定されています。Workspace Environment Management管理者として構成されたユーザーのみが管理コンソールを使用できます。有効なユーザーグループを指定しないと、管理コンソールを自分で使用できなくなります。

- **インフラストラクチャサービスのデータベース接続にWindows認証を使用**。このオプションがクリアされている場合（デフォルト）、データベースはインフラストラクチャサービスが*vuemUser* SQLユーザーアカウントを使用して接続することを想定しています。vuemUser SQLユーザーアカウントはインストールプロセスによって作成されます。これには、SQLインスタンスで混合モード認証が有効になっている必要があります。

このオプションが選択されている場合、データベースはインフラストラクチャサービスがWindowsアカウントを使用して接続することを想定しています。この場合、選択するWindowsアカウントは、SQLインスタンスにすでにログインがあってはなりません。言い換えれば、データベースの作成に使用したのと同じWindowsアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用することはできません。

- **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定**。デフォルトでは、vuemUser SQLアカウントは、大文字と小文字、数字、句読点を使用する8文字のパスワードで作成されます。独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを入力したい場合（たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合）は、このオプションを選択します。

> **重要:**
>
> - SQL Server Always On可用性グループにWorkspace Environment Managementデータベースを展開する予定がある場合は、vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する必要があります。
> - ここでパスワードを設定した場合は、インフラストラクチャサービスを構成するときに同じパスワードを指定することを忘れないでください。

6. 「概要」ペインで、選択した設定を確認し、問題がなければ「**データベースの作成**」をクリックします。
7. データベースの作成が正常に完了したという通知を受け取ったら、「**完了**」をクリックしてウィザードを終了します。

   データベースの作成中にエラーが発生した場合は、インフラストラクチャサービスのインストールディレクトリにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。

インフラストラクチャサービスを構成する

> **ヒント:**

Workspace Environment Management PowerShell SDKモジュールを使用して、インフラストラクチャサービスを構成することもできます。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

インフラストラクチャサービスを実行する前に、ここで説明するように、**WEM Infrastructure Service Configuration**ユーティリティを使用して構成する必要があります。

1. **スタート**メニューから、**Citrix>Workspace Environment Management>WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を選択します。
2. **データベース設定**タブで、次の詳細を入力します。

   - **データベースサーバーとインスタンス**。Workspace Environment Managementデータベースがホストされ ているSQL Serverインスタンスのアドレス。これは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに正確に到達可能である必要があります。完全なインスタンスアドレスを「serveraddress,port\\instancename」として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトのSQLポート番号（1433）が使用されます。
   - **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。データベースミラーリングを使用している場合は、ここにフェールオーバーサーバーアドレスを指定します。
   - **データベース名**。SQLインスタンス上のWorkspace Environment Managementデータベースの名前。

3. **ネットワーク設定**タブで、インフラストラクチャサービスが使用するポートを入力します。

   - **管理ポート**。このポートは、管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するために使用されます。
   - **エージェントサービスポート**。このポートは、エージェントホストがインフラストラクチャサービスに接続するために使用されます。
   - **キャッシュ同期ポート**。このポートは、エージェントサービスがキャッシュをインフラストラクチャサービスと同期するために使用されます。
   - **WEM監視ポート**。

4. **詳細設定**タブで、偽装と自動更新の設定を入力します。

- **Windowsアカウントの偽装を有効にする**。デフォルトでは、このオプションはオフになっており、インフラストラクチャサービスは混合モード認証を使用してデータベースに接続します（データベース作成時に作成されたSQLアカウント *vuemUser* を使用）。代わりにデータベース作成時にWindowsインフラストラクチャサービスアカウントを選択した場合は、このオプションを選択し、接続時にインフラストラクチャサービスが偽装する同じWindowsアカウントを指定する必要があります。選択するアカウントは、インフラストラクチャサーバーのローカル管理者である必要があります。
- **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**。データベース作成時に *vuemUser* SQLユーザー用に構成されたカスタムパスワードをインフラストラクチャサービスに通知できます。このオプションは、データベース作成時に独自のパスワードを指定した場合にのみ有効にしてください。
- **インフラストラクチャサービスのキャッシュ更新遅延**。インフラストラクチャサービスがキャッシュを更新するまでの時間（分）。インフラストラクチャサービスがSQLに接続できない場合、キャッシュが使用されます。
- **インフラストラクチャサービスSQL状態監視遅延**。インフラストラクチャサービスがSQLサーバーをポーリングしようとする各試行間の時間（秒）。
- **インフラストラクチャサービスSQL接続タイムアウト**。インフラストラクチャサービスがSQLサーバーとの接続を確立しようとするときに、試行を終了してエラーを生成するまでに待機する時間（秒）。
- **デバッグモードを有効にする**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは詳細ログモードに設定されます。
- **オンラインでもキャッシュを使用する**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは常にキャッシュからサイト設定を読み取ります。
- **パフォーマンスチューニングを有効にする**。接続されているエージェントの数が特定のしきい値（デフォルトでは200）を超えたシナリオでパフォーマンスを最適化できます。その結果、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するまでの時間が短縮されます。
    - **ワーカー スレッドの最小数**。スレッドプールがオンデマンドで作成するワーカー スレッドの最小数を指定します。ワーカー スレッドの数を30～3000の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、ワーカー スレッドの最小数は200です。
    - **非同期I/Oスレッドの最小数**。スレッドプールがオンデマンドで作成する非同期I/Oスレッドの最小数を指定します。非同期I/Oスレッドの数を30～3000の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、非同期I/Oスレッドの最小数は200です。

> **重要:**
>
> エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスから断続的に切断される場合に、この機能は特に役立ちます。

> **注:**
>
> パフォーマンスチューニングを有効にするフィールドで設定した値は、新しいリクエストが行われたとき、およびスレッドの作成と破棄を管理するアルゴリズムに切り替える前に使用されます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/api/system.threading.threadpool.setminthreads?view=netframework-4.8>`および`<https://support.microsoft.com/en-sg/help/2538826/wcf-service-may-scale-up-slowly-under-load>`を参照してください。

- **Google Analyticsを使用してWorkspace Environment Managementの改善に協力する**。選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データをGoogle Analyticsサーバーに送信します。
- **Google Analyticsを使用してWorkspace Environment Managementの改善に協力しない**。選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データをGoogle Analyticsサーバーに送信しません。

5. **データベースメンテナンス**タブを使用して、データベースメンテナンスを構成できます。
   - **スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にする**。有効にすると、この設定は古い統計レコードをデータベースから定期的に削除します。
   - **統計保持期間**。ユーザーおよびエージェントの統計が保持される期間を決定します。デフォルトは365日です。
   - **システム監視保持期間**。システム最適化統計が保持される期間を決定します。デフォルトは90日です。
   - **エージェント登録保持期間**。データベースにエージェント登録ログが保持される期間を決定します。デフォルトは1日です。
   - **実行時間**。データベースメンテナンスアクションが実行される時間を決定します。デフォルトは02:00です。

> **ヒント**
>
> ベストプラクティスとして、データベースサイズを削減し、最高のパフォーマンスを達成するために、スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にすることをお勧めします。単一のWEM展開に複数のインフラストラクチャサービスがある場合は、1つのインフラストラクチャサービスのみで有効にしてください。

インフラストラクチャサービス構成データベースメンテナンス(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-infra-service-config-dbasemaint.png)

6. インフラストラクチャサービス構成中に、オプションで**ライセンス**タブを使用してCitrixライセンスサーバーを指定できます。指定しない場合、管理コンソールが新しいWorkspace Environment Managementデータベースに初めて接続するときに、管理コンソールリボンの**バージョン情報**タブでCitrixライセンスサーバーの資格情報を入力する必要があります。どちらの場合も、Citrixライセンスサーバー情報はデータベース内の同じ場所に保存されます。

   - **グローバルライセンスサーバーのオーバーライド**。このオプションを有効にすると、Workspace Environment Managementで使用されるCitrixライセンスサーバーの名前を入力できます。ここに入力した情報は、Workspace Environment Managementデータベースに既に存在するCitrixライセンスサーバー情報をすべて上書きします。

   インフラストラクチャサービス構成ライセンス(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-infra-service-config-licensing.png)

インフラストラクチャサービスが希望どおりに構成されたら、**構成の保存**をクリックしてこれらの設定を保存し、インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを終了します。

管理コンソール

管理コンソールのインストール

> **注:**
>
> 管理コンソールからWorkspace Environment ManagementでCitrix StoreFrontストアに公開されているリソースをアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにCitrix Workspaceアプリfor Windowsがインストールされていることを確認してください。詳細については、「システム要件」(/ja-jp/

> workspace-environment-management/2109/system-requirements.html)を参照してください。

> 管理者コンソール環境で**Citrix Workspace Environment Management Console.exe**を実行します。

次の引数を使用してインストールをカスタマイズできます。

AgentPort: 管理コンソールのセットアップは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトを実行します。この引数を使用すると、開かれるポートを構成できます。指定しない場合、デフォルトポート8286が使用されます。有効なポートであれば、どの値でも受け入れられます。

AdminPort: 管理コンソールのセットアップは、エージェントのネットワークトラフィックがブロックされないように、ローカルでファイアウォールポートを開くスクリプトを実行します。この引数を使用すると、開かれるポートを構成できます。指定しない場合、デフォルトポート8284が使用されます。有効なポートであれば、どの値でも受け入れられます。

これらのインストール引数の構文は次のとおりです。

```
"path:\\to\\Citrix Workspace Environment Management Console.exe " /v"argument=\\"value\\""
```

管理コンソールのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。構文は次のとおりです。

- .\setup.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"
  - `setup.exe`。インストーラーのファイル名に置き換えることができます。
  - `/s`。サイレントモードを示します。
  - `/v`。msiexecに引数を渡します。
  - `/qn`。インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
  - `CLOUD=0`。オンプレミス展開を示します。
- 例:
  - .\Citrix Workspace Environment Management Console.exe /s /v\`"/qn CLOUD=0\`"

インフラストラクチャサーバー接続を作成する

スタートメニューで、**Citrix®>Workspace Environment Management™>WEM Administration Console**を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。

リボンで、**接続**をクリックして、新しいインフラストラクチャサーバー接続ウィンドウを開きます。



次の値を入力し、**接続**をクリックします:

インフラストラクチャサーバー名。Workspace Environment Management インフラストラクチャサーバーの名前です。管理コンソール環境から、入力したとおりに解決される必要があります。

管理ポート。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートです。

新しいデータベースに初めて接続するとき、有効なライセンスを持つCitrixライセンスサーバーがまだ構成されていないため、次のメッセージが表示されます:



データベースをライセンスサーバーで構成する

データベースをライセンスサーバーで構成するには、管理コンソールのリボンで**バージョン情報**をクリックし、**ライセンスサーバーの構成**をクリックして、Citrixライセンスサーバーの詳細を入力します。Citrixライセンスサーバーのアドレスは、管理コンソール環境から入力されたとおりに解決される必要があります。



クイックスタート設定のインポート

Workspace Environment Managementには、Workspace Environment Managementデータベースをすぐに概念実証に利用できるように事前構成するために使用できるXMLファイルが含まれています。XMLファイルは、Workspace Environment Managementインストーラーパッケージの「Configuration Templates」フォルダーにあります。

クイックスタート設定ファイルをインポートするには、**ホーム**リボンで**復元**をクリックします。



復元ウィザードで、**設定**を選択し、**次へ**をクリックします。



「**復元ウィザード**」で、クイックスタート設定ファイルが含まれている「Configuration Templates」フォルダーを選択し、すべての設定の種類を選択します。

エージェント

エージェントのインストールと構成

> **注：**
>
> - インフラストラクチャサーバーにWorkspace Environment Management™ (WEM) エージェントをインストールしないでください。
> - WEMエージェントと管理コンソールを同じマシンにインストールしないでください。
> - Citrix StoreFrontストアで公開されているリソースを、管理コンソールからWEMのアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールとエージェントホストマシンにCitrix Workspaceアプリ for Windowsがインストールされていることを確認してください。詳しくは、「システム要件」を参照してください。

手順1：グループポリシーの構成（オプション）

オプションで、**Agent Group Policies**管理用テンプレートを使用してエージェントのグループポリシーを構成できます。WEMインストールパッケージにはこのテンプレートが含まれています。テンプレートファイルは.admxファイルと、言語固有の.admlファイルに分かれています。グループポリシーはドメインコントローラーで構成することをお勧めします。

Agent Host Configurationポリシーを追加するには、次の手順を実行します。

1. WEMインストールパッケージに含まれている**Agent Group Policies**フォルダーをWEMドメインコントローラーにコピーします。
2. .admxファイルを追加します。
    a. **Agent Group Policies > ADMX**フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx*および*CitrixBase.admx*）をコピーします。
    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
3. .admlファイルを追加します。

a. 「**Agent Group Policies > ADMX > en-US**」フォルダーに移動します。

b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.adml* および *CitrixBase.adml*）をコピーします。

c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

グループポリシー管理エディターを使用して、次の設定でGPOを構成します。



インフラストラクチャサーバー。WEMインフラストラクチャサーバーのアドレス。インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンの名前またはIPアドレスを入力します。

エージェントサービスポート。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。エージェントサービスポートは、インフラストラクチャサービスの構成中にエージェントサービスポートとして構成したポートと同じである必要があります。指定しない場合、ポートはデフォルトで8286になります。

キャッシュデータ同期ポート。(Workspace Environment Management 1912以降に適用。Workspace Environment Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換えます。) エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続してエージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するポート。キャッシュデータ同期ポートは、インフラストラクチャサービスの構成中にキャッシュデータ同期ポート（**WEM Infrastructure Service Configuration > Network Settings**）として構成したポートと同じである必要があります。ポートはデフォルトで8288であり、`CachedDataSyncPort`コマンドライン引数に対応します。または、WEMエージェントのサイレントインストールでコマンドラインオプションを使用してポートを指定することもできます。例:

- `citrix_wem_agent_bundle.exe /quiet CachedDataSyncPort=9000`

Citrix Cloud™ Connectors。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態は**未構成**のままにします。

エージェントプロキシ構成。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態は**未構成**のままにします。

VUEMAppCmdの追加同期遅延。エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）がCitrix Virtual Apps and Desktops公開リソースが開始される前に待機する時間をミリ秒単位で指定します。これにより、必要なエージェント作業が最初に完了することが保証されます。推奨値は100～200です。デフォルト値は0です。

ステップ2：エージェントをインストールする

> **重要:**
>
> エージェントのインストール中に.NET Frameworkが自動的にインストールされることもありますが、エージェントをインストールする前に手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

ユーザー環境で **Citrix Workspace™ Environment Management Agent** を実行できます。コマンドラインを使用してエージェントをインストールすることもできます。デフォルトでは、エージェントはオペレーティングシステムに応じて、次のいずれかのフォルダーにインストールされます。

- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64ビットOSの場合)
- C:\Program Files\ Citrix\Workspace Environment Management Agent (32ビットOSの場合)

エージェントを対話形式でインストールするには、次の手順を実行します。

1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。
2. を選択し、 をクリックします。
3. ページで、 をクリックします。

   > **注:**
   >
   > ページが表示されるまでに時間がかかる場合があります。この遅延は、必要なソフトウェアが不足しており、バックグラウンドでインストールされている場合に発生します。

4. ページで、 をクリックします。
   - デフォルトでは、宛先フォルダーフィールドにはデフォルトのフォルダーパスが自動的に入力されます。エージェントを別のフォルダーにインストールする場合は、 をクリックしてそのフォルダーに移動し、 をクリックします。

- WEMエージェントをすでにインストールしている場合、宛先フォルダーフィールドには既存のインストールフォルダーパスが自動的に入力されます。

5. ページで、該当する展開の種類を選択し、 をクリックします。この場合は、 を選択します。



6. ページで、エージェントが接続するインフラストラクチャサービスを指定し、 をクリックします。

- **構成をスキップ**。グループポリシーを使用して設定をすでに構成している場合は、このオプションを選択します。
- **インフラストラクチャサービスを構成**。インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、インフラストラクチャサービスを構成できます。
- **エージェントサービスポート**。デフォルト値は8286です。
- **キャッシュデータ同期ポート**。デフォルト値は8288です。

WEMエージェントのインストール02(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-agent-cloud-service-config-page.png)

7. ページで、エージェントの詳細設定を構成し、**次へ**をクリックします。

- **代替キャッシュの場所（オプション）**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。**参照**をクリックして、該当するフォルダに移動します。または、レジストリを介して行うこともできます。これを行うには、まずCitrix WEM Agent Host Serviceを停止し、次のレジストリキーを変更します。

  HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェントホスト

  名前: AgentCacheAlternateLocation

  種類: REG_SZ

  値: 空

  デフォルトでは、値は空です。デフォルトのフォルダは`<WEM agent installation folder path>\Local Databases Set`です。必要に応じて、別のフォルダパスを指定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。変更が有効になると、フォルダに次のファイルが表示されます: **LocalAgentCache.db** および **LocalAgentDatabase.db**。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディタの誤った使用によって生じる問題が解決できることを保証できません。レジストリエディタは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **VUEMAppCmd追加同期遅延（オプション）**。エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）が公開リソースの開始前に待機する時間を指定できます。この遅延を設定することで、必要なエージェント作業が最初に完了することを保証します。デフォルト値は0です。

> **注:**
>
> 追加の同期遅延間隔に入力する値は、ゼロ以上の整数である必要があります。



8. インストールの準備完了ページで、**インストール**をクリックします。
9. **完了**をクリックして、インストールウィザードを終了します。

または、WEMエージェントのサイレントインストールを選択できます。そのためには、次のコマンドラインを使用します。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`

> **ヒント:**
>
> - オンプレミスのWEM展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=0`と入力します。WEMサービス展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=1`と入力します。
> - エージェントのインストールをトラブルシューティングするために、ログファイルを参照することをお勧めします。デフォルトでは、インストール中に発生するすべてのアク

> ションを記録するログファイルは%TEMP%に作成されます。`/log log.txt`コマンドを使用して、ログファイルを保存する特定の場所を指定できます。

> コマンドラインオプションを使用してカスタム引数を指定することもできます。これにより、インストールプロセス中にエージェントとシステム設定をカスタマイズできます。詳細については、Good to knowを参照してください。

インストール後、エージェントは*Citrix WEM Agent Host Service*（旧Norskale Agent Host Service）および*Citrix WEM Agent User Logon Service*として実行されます。エージェントは*LocalSystem*アカウントとして実行されます。このアカウントの変更はサポートしていません。このサービスには、**ローカルシステムとしてログオン**する権限が必要です。

ステップ3: インストールを完了するためにマシンを再起動する

前提条件と推奨事項

WEMエージェントが適切に機能するように、次の前提条件と推奨事項に注意してください。

前提条件

以下の要件が満たされていることを確認してください。

- Windowsサービス「**System Event Notification Service**」が起動時に自動的に開始するように構成されていること。
- WEMエージェントサービス「**Citrix WEM Agent Host Service**」と「**Citrix WEM User Logon Service**」が起動時に自動的に開始するように構成されていること。
- エージェントキャッシュは、可能な限り永続的な場所に配置してください。非永続的なキャッシュの場所を使用すると、キャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。

推奨事項

エージェントの展開を成功させるには、このセクションの推奨事項に従ってください。

- ログオンまたはスタートアップスクリプトを使用して、**Citrix WEM Agent Host Service** を手動で操作しないでください。**Citrix WEM Agent Host Service** の停止や再起動などの操作は、Netlogonサービスが機能しなくなる原因となり、他のアプリケーションに問題を引き起こす可能性があります。

- ログオンスクリプトを使用して、UIモードまたはCMDモードのエージェントを起動しないでください。そうしないと、一部の機能が動作しなくなる可能性があります。

エージェントの起動動作

- **Citrix WEM Agent Host Service** は、サービス開始後、グループポリシーを通じて構成されたCloud Connector設定を自動的に再ロードします。
- **Citrix WEM Agent User Logon Service** は、最初のログオン時にエージェントホストサービスが起動しない場合、**Citrix WEM Agent Host Service** を自動的に起動します。この動作により、ユーザー構成が適切に処理されることが保証されます。
- **Citrix WEM Agent Host Service** は、起動時に以下のローカルデータベースファイル（`LocalAgentCache.db` および `LocalAgentDatabase.db`）に対して自動的にチェックを実行します。仮想マシンがプロビジョニングされており、ローカルデータベースファイルがベースイメージからのものである場合、データベースファイルは自動的にパージされます。
- **Citrix WEM Agent Host Service** が起動すると、エージェントのローカルキャッシュが最近更新されたかどうかを自動的に確認します。キャッシュが設定されたキャッシュ同期時間間隔の2倍以上更新されていない場合、キャッシュは直ちに同期されます。たとえば、デフォルトのエージェントキャッシュ同期間隔が30分であるとします。過去60分間にキャッシュが更新されていない場合、**Citrix WEM Agent Host Service** の起動直後に同期されます。
- インストール中に、WEMエージェントインストーラーはWindowsサービス「**System Event Notification Service**」が自動的に開始するように構成します。
- WEMエージェントのアップグレードが完了すると、WEMエージェントインストーラーはNetlogonサービスを自動的に開始します。

エージェントキャッシュユーティリティのオプション

Citrix WEM Agent Host Service は、設定の更新とキャッシュの同期を自動的に処理します。エージェントキャッシュユーティリティは、設定を即座に更新し、キャッシュを同期する必要があるシナリオでのみ使用してください。

エージェントのインストールフォルダーでコマンドラインを使用して *AgentCacheUtility.exe* を実行します。実行可能ファイルは、次のコマンドライン引数を受け入れます。

- `-help`: 許可されている引数のリストを表示します。
- `-RefreshCache` または `-r`: キャッシュの構築または更新をトリガーします。
- `-RefreshSettings` または `-S`: エージェントホストの設定を更新します。

- `-Reinitialize` または `-I`: `-RefreshCache` オプションと組み合わせて使用すると、エージェントキャッシュを再初期化します。

コマンドラインの使用方法の詳細については、以下の例を参照してください。

- エージェントホストの設定を更新:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`
- エージェントホストの設定とエージェントキャッシュを同時に更新:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings -RefreshCache`
- エージェントキャッシュを再初期化:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache -Reinitialize`

知っておくと良いこと

エージェント実行可能ファイルは、「エージェント設定」および「システム設定」セクションで説明されているカスタム引数を受け入れます。

エージェント設定

WEMエージェント設定には以下が含まれます。

- **AgentLocation**。エージェントのインストール場所を指定できます。有効なフォルダーパスを指定してください。
- **AgentCacheLocation**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。設定されている場合、エージェントのローカルキャッシュファイルは、エージェントのインストールフォルダーではなく、指定された場所に保存されます。
- **AgentCacheSyncPort**。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するポートを指定できます。
- **AgentServicePort**。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポートを指定できます。
- **InfrastructureServer**。インフラストラクチャサービスが実行されているインフラストラクチャサーバーのFQDNまたはIPアドレスを指定できます。
- **VUEMAppCmdDelay**。エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）がCitrix Virtual Apps and Desktops公開リソースの起動前に待機する時間を指定できます。デフォ

ルト値は0（ミリ秒）です。追加の同期遅延間隔として入力する値は、0以上の整数である必要があります。

次の点に注意してください。

- コマンドラインを通じて設定を構成する場合、WEMエージェントインストーラーは構成された設定を使用します。
- コマンドラインを通じて設定を構成せず、以前に構成された設定がある場合、インストーラーは以前に構成された設定を使用します。
- コマンドラインを通じて設定を構成せず、以前に構成された設定がない場合、インストーラーはデフォルト設定を使用します。

システム設定

エージェントホストマシンに関連付けられているシステム設定には、次のものがあります。

- **GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**。インストール中に作成されるGpNetworkStartTimeoutPolicyValueレジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ログオン時のポリシー処理中にグループポリシーがネットワーク可用性通知を待機する時間を指定します。引数は、1（最小）から600（最大）の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は120です。
- **SyncForegroundPolicy**。エージェントのインストール中にSyncForegroundPolicyレジストリ値を構成できます。このポリシー設定は、グループポリシー処理が同期であるかどうかを決定します。許容される値：0、1。値が設定されていない場合、または値を0に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceはログオンを遅延させず、ユーザーグループポリシー設定はバックグラウンドで処理されます。値を1に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceは、ユーザーグループポリシー設定の処理が完了するまでログオンを遅延させます。デフォルトでは、インストール中に値は変更されません。

> **重要:**
>
> グループポリシー設定がバックグラウンドで処理される場合、すべてのポリシー設定が処理される前にWindows Shell（Windowsエクスプローラー）が起動する可能性があります。そのため、ユーザーが初めてログオンしたときに一部の設定が有効にならない場合があります。ユーザーが初めてログオンしたときにすべてのポリシー設定を処理したい場合は、値を1に設定してください。

- **WaitForNetwork**。インストール中に作成される**WaitForNetwork**レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、エージェントホストがネットワークが完全に初期化され、利用可能になるまで待機する時間を指定します。引数は、0（最小）から300（最大）の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は30です。

前述の3つのキーは、Windowsログオン画面が表示される前にWEMエージェントサービスが起動することを保証します。これら3つのキーはすべて、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Winlogon**の下に作成されます。これらのキーはまた、ログオン前にユーザー環境がインフラストラクチャサーバーアドレスGPOを受信することを保証します。Active Directoryまたはドメインコントローラーサーバーの応答が遅いネットワーク環境では、ログオン画面が表示される前に追加の処理時間が発生する可能性があります。影響を与えるためには、**GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**キーの値を最低30に設定することをお勧めします。

- **ServicesPipeTimeout**。ServicesPipeTimeoutレジストリキーの値を構成できます。このキーは、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control**の下に作成されます。このレジストリキーは、サービスコントロールマネージャーがWEMエージェントサービスの状態を報告できるようになる前に遅延を追加します。この遅延により、ネットワークが初期化される前にエージェントサービスが起動するのを防ぎ、エージェントの障害を防ぎます。この引数は、ミリ秒単位の任意の値を受け入れます。指定しない場合、デフォルト値の60000（60秒）が使用されます。

> **注:**
>
> コマンドラインを使用して前述の設定を構成しない場合、WEMエージェントインストーラーはインストール中にそれらを処理しません。

例

次のコマンドライン形式を使用して設定を構成できます。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" <key=value>`

例:

- WEMエージェントのサイレントインストールまたはアップグレードを選択します
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`
- ユーザーログオンネットワーク待機時間を60秒に設定します

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" WaitForNetwork=60`

デプロイの規模とサイズに関する考慮事項

Workspace Environment Management™ (WEM) は、大規模なエンタープライズ展開向けに設計されています。WEM のサイジングとスケーラビリティを評価する際には、データベースのパフォーマンス、Active Directory のセットアップ、ファイアウォール規則などを考慮する必要があります。

WEM のスケーラビリティは、エージェントとユーザーの数に基づいています。利用可能なインフラストラクチャサーバーが多いほど、WEM はより多くのエージェントとユーザーをサポートできます。インフラストラクチャサーバーは、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server および Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソールおよびエージェント) と同期します。

インフラストラクチャサーバーが稼働しているマシンが以下の仕様を使用していると仮定します。

- 4 vCPU、8 GB RAM、80 GB の利用可能なディスク容量。

展開に必要なインフラストラクチャサーバーの数を計算するには、次の式を使用できます。この式は、特定の顧客に関連する統計に基づいて開発されています。

- インフラストラクチャサーバーの数 = (エージェントの数/1,000) + (ユーザーの数/3,000)

> **注:**

> - NTLM 認証を使用するシナリオでは、Workspace Environment Management 2006 以前で特定のパフォーマンスの問題が確認されています。Kerberos 認証を使用する場合は、これらの問題は確認されていません。
> - Workspace Environment Management 2006 以降では、NTLM 認証と Kerberos 認証の間でパフォーマンスの違いは確認されていません。

デプロイをアップグレードする

はじめに

新しいマシンやサイトを最初にセットアップすることなく、Workspace Environment Management™ (WEM) のデプロイを新しいバージョンにアップグレードできます。これはインプレースアップグレードと呼ばれます。

Workspace Environment Management 4.7より前のバージョンからバージョン1808以降へのインプレースアップグレードはサポートされていません。それらの以前のバージョンからアップグレードするには、まずバージョン4.7にアップグレードしてから、ターゲットバージョンにアップグレードする必要があります。詳細については、次の表を参照してください。

元のバージョン	移行先	インプレースアップグレードのサポート
4.6以前	4.7	はい
4.6以前	1808以降	いいえ (ターゲットバージョンにアップグレードする前にバージョン4.7にアップグレードしてください)
4.7	1808以降	はい

注：

WEMデータベース、インフラストラクチャサービス、および管理コンソールはすべて同じバージョンである必要があります。

Workspace Environment Managementコンポーネントは、次の順序でアップグレードする必要があります。

1. インフラストラクチャサービス
2. データベース

3. インフラストラクチャサービスの再構成
4. 管理コンソール
5. エージェント

ステップ1：インフラストラクチャサービスをアップグレードする

Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスをアップグレードするには、インフラストラクチャサーバーで新しいWorkspace Environment Managementインフラストラクチャサービスセットアップを実行します。アップグレード手順は、それ以外はインストール手順と同じです。

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードする

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

> **注：**

> Windows Server 2022にアップグレードした後、WEMインフラストラクチャサービスが応答しなくなる場合があります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEMデータベースに接続するように構成してください。

ステップ2: データベースのアップグレード

> **重要:**

> データベースのアップグレードプロセスは元に戻せません。アップグレードプロセスを開始する前に、有効なデータベースバックアップがあることを確認してください。

> **ヒント:**

Workspace Environment Management PowerShell SDKモジュールを使用してデータベースをアップグレードすることもできます。SDKドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

データベースを更新するには、**WEM Database Management Utility**を使用します。これは、インフラストラクチャサービスのインストールプロセス中に、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサーバーにインストールされます。

注:

SQL ServerにWindows認証を使用している場合は、sysadmin権限を持つIDでデータベースアップグレードユーティリティを実行してください。

1. **スタート**メニューから、**Citrix®>Workspace Environment Management > WEM Database Management Utility**を選択します。
2. **Upgrade Database**をクリックします。
3. データベースアップグレードウィザードで、必要な情報を入力します。

   - **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされているSQL Server\\インスタンスのアドレス。インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。
   - **データベース名**。アップグレードするデータベースの名前。
   - **インフラストラクチャサービスはWindows認証を使用します**。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。この場合、インフラストラクチャサービスはvuemUser SQLユーザーアカウントを使用してデータベースに接続します。（vuemUser SQLユーザーアカウントはインストールプロセス中に作成されます。）SQLインスタンスで混合モード認証が有効になっていることを確認してください。

     選択すると、インフラストラクチャサービスはWindowsアカウントを使用してデータベースに接続します。この場合、選択したWindowsアカウントは、SQLインスタンスにすでにログインがあってはなりません。つまり、データベースの作成に使用したWindowsアカウントと同じWindowsアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用しないでください。

- **統合接続を使用する**。デフォルトでは、このオプションが選択されています。このオプションを使用すると、ウィザードは、ウィザードが実行されているIDのWindowsアカウントを使用してSQL Serverに接続し、データベースを作成できます。このWindowsアカウントにデータベースを作成するための十分な権限がない場合は、十分な権限を持つWindowsアカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをクリアして、代わりに十分な権限を持つSQLアカウントを入力してください。

4. データベースのアップグレードプロセスを開始するには、**アップグレード**をクリックします。データベースのアップグレードが正常に完了したら、ウィザードを終了します。

データベースのアップグレード中にエラーが発生した場合は、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスのインストールフォルダにある**VUEM Database Management Utility Log**ファイルを確認してください。

ステップ3：インフラストラクチャサービスを再構成する

WEMインフラストラクチャサービス構成ユーティリティを使用して、インフラストラクチャサービスを再構成します。「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください(/ja-jp/workspace-environment-management/2109/install-and-configure/infrastructure-services.html)。

ステップ4：管理コンソールをアップグレードする

管理コンソールで構成されたすべてのWorkspace Environment Management設定はデータベースに保存され、アップグレード中も保持されます。

管理コンソールをアップグレードするには、管理コンソールのセットアップ実行可能ファイルを実行します。それ以外の手順は、インストール手順と同じです。

ステップ5：エージェントをアップグレードする

> **重要：**

> - エージェントをアップグレードする前に、ユーザーがログインしていないことを確認してください。これにより、アップグレードプロセスがそのマシンのファイルを変更できるようになります。

- WEMインフラストラクチャサービスのバージョンは、WEMエージェントのバージョン以上である必要があります。Citrixでは、最新の機能を使用できるように、エージェントを最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

エージェントをアップグレードするには、ターゲットマシンで新しいエージェントセットアップ実行可能ファイルを実行します。

ユーザーエクスペリエンス

管理コンソールの起動

1. 「**スタート**」メニューから「**Citrix \> Workspace Environment Management \> WEM Administration Console**」を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。
2. 管理コンソールのリボンで「**接続**」をクリックします。
3. 「新しいインフラストラクチャサーバー接続」ウィンドウで、インフラストラクチャサーバーのアドレスを入力し、「**接続**」をクリックします。

インストールの構成

管理コンソールで：

1. 左下のペインにあるメニュー項目をクリックして、その上のペインにサブセクションを表示します。
2. サブセクション項目をクリックして、メインウィンドウ領域に適切なコンテンツを表示します。
3. 必要に応じて構成を変更します。使用できる設定の詳細については、ユーザーインターフェイスのリファレンスを参照してください。

ユーザーインターフェイスリファレンス

リボン

ホームタブ

ホームタブには、次のコントロールが含まれています。

接続。管理コンソールを指定されたインフラストラクチャサーバーに接続します。**新しいインフラストラクチャサーバー接続**ダイアログで、以下を指定します。

- **インフラストラクチャサーバー名**。接続するインフラストラクチャサーバーの名前。
- **管理ポート**。インフラストラクチャサービスに接続するポート。デフォルト値の8284が事前に入力されています。

切断。管理コンソールを現在のインフラストラクチャサービスから切断します。これにより、管理者は1つのサービスから切断し、別のサービスに接続することで、単一のコンソールから複数のインフラストラクチャサービスを管理できます。

構成セット。あるWorkspace Environment Management™ (WEM) サイト（構成セット）から別のサイトに切り替えます。

作成。構成セットの作成ウィンドウを開きます。複数のWEMサイト（構成セット）を構成できます。

- **名前**。リボンの構成セットリストに表示されるサイト（構成セット）の名前。
- **説明**。サイト編集ウィンドウに表示されるサイト（構成セット）の説明。
- **サイトの状態**。サイト（構成セット）が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、WEMエージェントはサイト（構成セット）に接続できません。

編集。構成セットの編集ウィンドウを開きます。構成セットの作成ウィンドウと同様のオプションがあります。

削除。サイト（構成セット）を削除します。「Default site」はWEMが機能するために必要であるため、削除できません。ただし、名前を変更することはできます。

更新。サイト（構成セット）リストを更新します。

注記:

サイトが異なる管理コンソールから作成された場合、リストは自動的に更新されません。

バックアップ。**バックアップ**ウィザードを開き、現在の構成のバックアップコピーをWEM管理コンソールマシンに保存します。アクション、設定、セキュリティ設定、およびActive Directory (AD) オブジェクトをバックアップできます。

- **アクション**。選択したWEM アクションをバックアップします。各タイプのアクションは個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **設定**。選択したWEM設定をバックアップします。各タイプの設定は個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **セキュリティ設定**。セキュリティタブに存在するすべての設定をバックアップします。各タイプのルールは個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **ADオブジェクト**。WEMが管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位をバックアップします。**バックアップ**ウィザードでは、バックアップするADオブジェクトのタイプを指定できます。ADオブジェクトには次の2種類があります。
  - ユーザー。単一ユーザーおよびユーザーグループ
  - マシン。単一マシン、マシングループ、およびOU
- **構成セット**。選択したWEM構成セットをバックアップします。各タイプの構成セットは個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。現在の構成セットのみをバックアップできます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。
  - アクション
  - AppLocker
  - 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
  - フィルター
  - ユーザー
  - 設定 (WEM 設定)

  以下はバックアップできません。
  - マシンに関連するADオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
  - 監視データ（統計およびレポート）

    - 構成セットに登録されているエージェント

復元。**復元**ウィザードを開き、WEMサービス構成の以前にバックアップされたバージョンに戻します。プロンプトが表示されたら、バックアップコピー（.XMLファイル）を含む該当するフォルダーを選択します。

- **セキュリティ設定**。セキュリティタブに存在するすべての設定を復元します。バックアップファイル内の設定は、現在のサイトの既存の設定を*置き換えます*。**セキュリティ**タブに切り替えるか更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。これらのルールは自動的に削除され、エクスポート可能なレポートダイアログに一覧表示されます。

  アプリケーションセキュリティルールの割り当ての確認ダイアログで、**はい**または**いいえ**を選択して、**復元**ウィザードでアプリケーションセキュリティルールの割り当てをどのように処理するかを示します。

    - **はい**を選択すると、現在のサイトのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当ての復元が試行されます。再割り当ては、バックアップされたユーザーまたはグループが現在のサイトまたはADに存在する場合にのみ成功します。不一致のルールは復元されますが、割り当てられないままであり、CSV形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。
    - **いいえ**を選択すると、バックアップ内のすべてのルールは、サイト内のユーザーおよびユーザーグループに割り当てられることなく復元されます。

- **ADオブジェクト**。バックアップされたADオブジェクトを既存のサイトに復元します。**復元**ウィザードでは、インポートするADオブジェクトをきめ細かく制御できます。**復元するADオブジェクトを選択**ページで、復元するADオブジェクトと、既存のWEM ADオブジェクトを上書き（置き換え）するかどうかを指定できます。
- **構成セット**。バックアップされた構成セットをWEMに復元します。一度に1つの構成セットのみを復元できます。復元した構成セットがWEM管理コンソールに反映されるまでに時間がかかる場合があります。復元された構成セットを表示するには、リボンの構成セットメニューから選択します。構成セットを復元する際、同じ名前の構成セットが既に存在する場合、WEMは自動的にその名前を`<configuration set name>_1`に変更します。

> **注:**
>
> - 復元されたアクションは、既存のサイトアクションに*追加されます*。
> - 復元された設定は、既存のサイト設定を*置き換えます*。

- 復元されたADオブジェクトは、復元ウィザードのADオブジェクトページで**上書きモード**を選択したかどうかに応じて、既存のサイトADオブジェクトに*追加*されるか、*置き換え*られます。
- **上書きモード**を選択した場合、復元プロセスが開始される前に、既存のADオブジェクトはすべて削除されます。

移行。**移行**ウィザードを開き、Group Policy Objects (GPO) のzipバックアップをWEMに移行します。

重要:

- **移行**ウィザードは、WEMがサポートする設定 (GPO) のみを移行します。
- 移行プロセスを開始する前に、既存の設定をバックアップすることをお勧めします。

GPOをバックアップするには、次の手順を実行することをお勧めします。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシー管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

注:

WEMは、複数のGPOバックアップフォルダを含むzipファイルの移行もサポートしています。

GPOのバックアップが正常に完了したら、**移行**をクリックしてGPOをWEMに移行します。**移行するファイル**ページで、**参照**をクリックし、該当するファイルに移動します。

- **上書き**。競合がある場合に既存のWEM設定 (GPO) を上書きします。
- **変換**。GPOをWEMへのインポートに適したXMLファイルに変換します。インポートする設定を詳細に制御したい場合は、このオプションを選択します。変換が正常に完了したら、**復元**ウィザードを使用してXMLファイルを手動でインポートします。

> **注:**
>
> 出力フォルダーに名前を付けることはできますが、保存するファイルの名前を指定することはできません。

タブ

タブには、次のコントロールが含まれています。

ライセンスサーバーの構成。Citrixライセンスサーバーのアドレスを指定できます。これがないと、管理コンソールで設定を変更できません。または、Infrastructure Services Configurationユーティリティの****タブを使用して、これらの資格情報を指定することもできます。どちらの場合も、Citrixライセンスサーバーの情報はデータベース内の同じ場所に保存されます。

ヘルプの表示。WebブラウザーウィンドウでCitrix製品ドキュメントのWebサイトを開きます。

オプション。****ダイアログを開きます。これらのオプションは、管理コンソールのこのローカルインスタンスに固有のものです。

- **管理者の自動ログオン**。有効にすると、管理コンソールは起動時に最後に接続したインフラストラクチャサービスに自動的に接続します。
- **デバッグモードを有効にする**。管理コンソールの詳細ログを有効にします。ログは、現在のユーザーの「Users」フォルダーのルートに作成されます。
- **コンソールスキン**。管理コンソール専用のさまざまなスキンから選択できます。
- **ポート番号**。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートをカスタマイズできます。このポートは、インフラストラクチャサービス構成で構成されているポートと一致する必要があります。

バージョン情報。管理コンソールの現在のバージョン、ライセンス (ライセンスの種類、登録、数)、および法的情報が表示されます。

アクション

Workspace Environment Management™は、使いやすいアクションを提供することで、ワークスペース構成プロセスを効率化します。アクションには、アプリケーション、プリンター、ネットワークドライブ、外部タスクなどの管理が含まれます。割り当てを使用して、ユーザーがアクションを利用できるようにすることができます。Workspace Environment Managementは、割り当てをコンテキスト化するためのフィルターも提供します。

- アクションには、次の管理が含まれます。
    - アクショングループ
    - グループポリシー設定
    - アプリケーション
    - プリンター
    - ネットワークドライブ
    - 仮想ドライブ
    - レジストリエントリ
    - 環境変数
    - ポート
    - Iniファイル
    - 外部タスク
    - ファイルシステム操作
    - ユーザーDSN
    - ファイル関連付け
- フィルター
- 割り当て

アクション グループ

アクション グループ機能を使用すると、まずアクションのグループを定義し、次にアクション グループ内の定義済みアクションをすべて、単一のステップでユーザーまたはユーザー グループに割り当てることができます。この機能により、**アクション**ペインに表示される各アクションを1つずつ割り当てる必要がなくなります。その結果、複数のアクションを単一のステップで割り当てることができます。

ヒント:

動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アクション グループ リスト

アクション グループ

既存のアクション グループのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前、表示名、または説明でリストをフィルタリングします。

アクション

重要:

- アクション グループには、各アクション カテゴリ（アプリケーション、プリンター、ネットワーク ドライブなど）にすでに存在するアクションのみが含まれます。たとえば、**アプリケーション リスト**タブでアプリケーションを追加していない限り、**アクション グループ リスト**タブのアクション グループには、**アプリケーション**の下に割り当て可能なアプリケーションは表示されません。
- 割り当てられたアクション グループ内のアクションのオプションを構成した場合（**アクション グループ リスト > 名前 > 構成済み**）、構成されたオプションは、そのアクション グループが割り当てられているユーザーには影響しません。

アクションセクションには、利用可能なアクションが表示されます。次の操作を実行できます。

- **追加**。ユーザーまたはユーザー グループに割り当てるすべてのアクションを含むアクション グループを作成できます。
- **編集**。既存のアクション グループを編集できます。
- **コピー**。既存のアクション グループからアクション グループを複製できます。
- **Delete**。既存のアクション グループを削除できます。

アクション グループを作成するには、以下の手順に従います。

1. 「**Administration Console > Actions > Action Groups > Action Group List**」タブで、「**Add**」をクリックします。
2. 「**New Action Group**」ウィンドウで、必要な情報を入力し、ドロップダウンから該当するオプションを選択して、「**OK**」をクリックします。

アクション グループを編集するには、リストから該当するグループを選択し、「**Edit**」をクリックします。

アクション グループを複製するには、複製するグループを選択し、「**Copy**」をクリックします。「**Copy**」をクリックすると、複製が自動的に作成されます。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。「**Edit**」をクリックして名前を変更できます。

> **注:**
>
> アクション グループを複製する場合、「**Allow Drive Letter Reuse in assignment process**」オプションが有効になっていない限り、ネットワーク ドライブおよび仮想ドライブに関連付けられているアクション (存在する場合) は複製されません。このオプションを有効にするには、「**Advanced Settings > Configuration > Console Settings**」タブに移動します。

> アクション グループを削除するには、リストから該当するグループを選択し、「**Delete**」をクリックします。

> **注:**
>
> 既に割り当てられているアクション グループを削除または編集すると、その変更はグループが割り当てられているすべてのユーザーに影響します。

フィールドとコントロール

Name。アクション グループ リストに表示されるアクション グループの表示名です。

Description。アクション グループに関する追加情報を指定できます。

Action Group State。アクション グループを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効になっている場合、そのアクション グループをユーザーまたはユーザー グループに割り当てたとしても、エージェントはアクション グループに含まれるアクションを処理しません。

構成

割り当てたい、または構成済みの特定のアクションを検索できます。検索機能を使用して、名前、表示名、または説明でオプションをフィルタリングします。

利用可能。これらは、作成したアクション グループに追加できるアクションです。

特定のアクション カテゴリの下にあるアクションを展開するには、プラス記号をクリックします。アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てまたは割り当て解除を行います。

> **注:**
>
> - 既にユーザーに割り当てられているアクション グループにアクションを追加すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーに割り当てられます。
> - 既にユーザーに割り当てられているアクション グループからアクションを削除すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーから割り当て解除されます。

構成済み。これらは、作成したアクション グループに既に割り当てられているアクションです。個々のアクションを展開して構成できます。また、各特定のアクションのオプションを構成することもできます。たとえば、アプリケーションのショートカットの場所、既定のプリンター、ドライブ文字などです。

割り当て

> **重要:**
>
> **アクション割り当て**タブの割り当て済みペインで、割り当て済みアクション グループ内のアクションのオプションを構成すると、構成されたオプションは、そのアクション グループが割り当てられているユーザーに自動的に影響します。

アクション > アクション グループ > アクション グループ リストタブでアクション グループのアクションの構成を完了したら、構成済みのアクションを該当するユーザーまたはユーザー グループに割り当てることをお勧めします。そのためには、**割り当て > アクション割り当て > アクション割り当て**タブに移動します。そのタブで、ユーザーまたはユーザー グループをダブルクリックすると、作成したアクション グループを含む**利用可能**ペインにアクション グループ ノードが表示されます。アクション グループ ノードの横にあるプラス記号をク

> リックすると、作成したアクション グループを表示できます。アクション グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てまたは割り当て解除を行います。アクションを割り当てるときは、そのアクションをコンテキスト化するために使用するルールを選択するよう求められます。

割り当ての仕組みの詳細については、割り当てを参照してください。

アクション グループを割り当てる際には、注意すべきいくつかのシナリオがあります。

- アクション グループを割り当てると、その中に含まれるすべてのアクションが割り当てられます。
- 1つまたは複数のアクションが異なるアクショングループで重複する場合があります。重複するアクショングループの場合、最後に処理されたグループが、以前に処理されたグループを上書きします。
- アクショングループ内のアクションが処理された後、別のアクショングループと重複するアクションを割り当てることを検討してください。この場合、未割り当てのアクションは以前に処理されたアクションを上書きし、その結果、後で処理されたアクションは未割り当てになります。他のアクションは変更されません。

例のシナリオ

たとえば、アクショングループ機能を使用して2つのアプリケーション (iexplore.exeとcalc.exe) を一度にユーザーに割り当てるには、以下の手順に従います。

1. **Administration Console > Actions > Applications > Application List**タブに移動し、アプリケーション (iexplore.exeとcalc.exe) を追加します。

   アプリケーションリスト(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/application-list.png)

2. **Administration Console > Actions > Action Groups > Action Group List**タブに移動し、**Add**をクリックしてアクショングループを作成します。

   アクショングループリスト 01(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/action-group-list-01.png)

3. **Action Group List**タブで、作成したアクショングループをダブルクリックして、**Available**ペインと**Configured**ペインにアクションリストを表示します。

   アクショングループリスト 02(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/action-group-list-02.png)

4. **Available**ペインで、各アプリケーションをダブルクリックして**Configured**ペインに移動します。アプリケーションを選択し、右矢印をクリックすることでも移動できます。

   アクショングループリスト 03(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/action-group-list-03.png)

5. **Configured**ペインで、各アプリケーションのオプションを構成します。この例では、**Create Desktop**と**Pin To TaskBar**を有効にします。

   アクショングループリスト 04(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/action-group-list-04.png)

6. **Administration Console \> Assignments \> Action Assignment**タブに移動し、該当するユーザーをダブルクリックして、**Available**ペインと**Assigned**ペインにアクショングループを表示します。

7. 「**利用可能**」ペインで、作成したアクショングループ (この例では、アクショングループ 1) をダブルクリックして、「**割り当て済み**」ペインに移動します。アクショングループを選択し、右矢印をクリックして移動することもできます。

8. 「**フィルターの割り当て**」ウィンドウで、「**常にTrue**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

9. 「**管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**」タブに移動し、「**更新**」をクリックします。

10. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで「**ワークスペースエージェントの更新**」を選択します。
11. エージェントが実行されているマシン (エージェントホスト) で、構成されたアクションが有効になっていることを確認します。

この例では、2つのアプリケーションがエージェントホストに正常に割り当てられ、そのショートカットがデスクトップに追加され、タスクバーにピン留めされています。

グループポリシー設定

> **重要:**

> WEMは現在、`HKEY_LOCAL_MACHINE`および`HKEY_CURRENT_USER`レジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

> 以前のリリースでは、グループポリシー基本設定 (GPP) のみをWorkspace Environment Management (WEM) に移行できました。詳細については、リボンの**移行**ウィザードの説明を参照してください。WEMにグループポリシー設定 (レジストリベースの設定) をインポートすることもできるようになりました。

設定をインポートした後、どのGPOを割り当てるかを決定する前に、各GPOに関連付けられた設定を項目別に表示できます。他のアクションを割り当てるのと同じように、GPOを異なるADグループに割り当てることができます。GPOを個々のユーザーに直接割り当てた場合、設定は有効になりません。グループにはユーザーとマシンを含めることができます。関連するマシンがグループに属している場合、マシンレベルの設定が有効になります。現在のユーザーがグループに属している場合、ユーザーレベルの設定が有効になります。

> **ヒント:**

> マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーはログオフして再度ログオンする必要があります。

グループポリシー設定

> **注:**

> WEMエージェントがグループポリシー設定を適切に処理するには、Citrix WEM User Logon Serviceが有効になっていることを確認してください。

> **グループポリシー設定の処理を有効にする**。WEMがグループポリシー設定を処理できるようにするかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。無効の場合:

- グループポリシー設定を構成できません。

- WEMは、グループポリシー設定がすでにユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合でも、それらを処理しません。

グループポリシーオブジェクトリスト

既存のGPOのリストを表示します。**検索**を使用して、名前または説明でリストをフィルタリングします。

- **更新**。GPOリストを更新します。
- **インポート**。**グループポリシー設定のインポート**ウィザードを開きます。これにより、グループポリシー設定をWEMにインポートできます。
- **編集**。既存のGPOを編集できます。
- **削除**。選択したGPOを削除します。

グループポリシー設定のインポート

グループポリシー設定をインポートする前に、ドメインコントローラーでグループポリシー設定をバックアップしてください。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシーの管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。オプションで、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

> **注：**
>
> WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルのインポートもサポートしています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. WEMサービスの**管理**タブのメニューにある**アップロード**を使用して、GPOのzipファイルをCitrix Cloudのデフォルトフォルダーにアップロードします。

2. 「**Administration Console > Actions > Group Policy Settings**」タブに移動し、「**Enable Group Policy Settings Processing**」を選択して、「**Import**」をクリックし、インポートウィザードを開きます。
3. インポートウィザードの「**File to Import**」ページで、「**Browse**」をクリックし、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力して「**Find**」をクリックし、ファイルを見つけることもできます。

    - **以前にインポートしたGPOを上書きします**。既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。

4. 「**Start Import**」をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. インポートが完了したら、「**Finish**」をクリックします。インポートされたGPOは「**Group Policy Settings**」タブに表示されます。

グループポリシー設定の編集

リストからGPOをダブルクリックすると、その設定の項目別ビューが表示され、必要に応じて設定を編集できます。

GPOを複製するには、GPOを右クリックし、メニューから「**Copy**」を選択します。「**Copy**」をクリックすると、クローンが自動的に作成されます。クローンは元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。「**Edit**」を使用して名前を変更できます。

「**Edit**」をクリックすると、「**Edit Group Policy Object**」ウィンドウが表示されます。

名前。GPOリストに表示されるGPOの名前です。

説明。GPOに関する追加情報を指定できます。これはGPOリストに表示されます。

レジストリ操作。GPOに含まれるレジストリ操作を表示します。

> **警告:**

> レジストリベースの設定を誤って編集、追加、削除すると、ユーザー環境で設定が適用されなくなる可能性があります。

- **追加**。レジストリキーを追加できます。
- **編集。** レジストリキーを編集できます。
- **削除。** レジストリキーを削除できます。

レジストリキーを追加するには、右側の **追加** をクリックします。次の設定が利用可能になります。

- **順序。** レジストリキーの展開順序を指定できます。
- **アクション。** レジストリキーのアクションの種類を指定できます。
  - **値の設定。** レジストリキーの値を設定できます。
  - **値の削除。** レジストリキーの値を削除できます。
  - **キーの作成。** ルートキーとサブパスの組み合わせで指定されたキーを作成できます。
  - **キーの削除。** レジストリキーの下のキーを削除できます。
  - **すべての値の削除。** レジストリキーの下のすべての値を削除できます。
- **ルートキー。** サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
- **サブパス。** ルートキーを含まないレジストリキーの完全なパス。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows` がレジストリキーの完全なパスである場合、`Software\Microsoft\Windows` がサブパスです。
- **値。** レジストリ値の名前を指定できます。次の図で強調表示されている項目全体がレジストリ値です。

- **種類。** 値のデータ型を指定できます。
  - **REG_SZ**。このタイプは、人間が判読できるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
  - **REG_EXPAND_SZ**。このタイプは、アプリケーションによって呼び出されたときに置き換えられる変数を含む拡張可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」はオペレーティングシステム内のフォルダーの実際の場所に置き換えられます。
  - **REG_BINARY**。任意の形式のバイナリデータ。
  - **REG_DWORD**。32ビットの数値。このタイプは、ブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効、「1」は有効を意味します。
  - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の32ビット数値。
  - **REG_QWORD**。64ビットの数値。
  - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の64ビット数値。

  - **REG_MULTI_SZ**。このタイプは、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用される複数文字列です。各エントリはヌル文字で区切られます。

- **データ**。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力する必要がある場合があります。

変更が有効になるまでに時間がかかる場合があります。次の点に注意してください。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE` レジストリハイブに関連付けられた変更は、**Citrix WEM Agent Host Service**が開始されたとき、または指定された**SQL Settings Refresh Delay**がタイムアウトしたときに有効になります。
- `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連付けられた変更は、ユーザーがログオンしたときに有効になります。

グループポリシー設定のコンテキスト化

フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにすることができます。フィルターは、ルールと複数の条件で構成されます。WEMエージェントは、実行時にユーザー環境でルールのすべての条件が満たされた場合にのみ、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。それ以外の場合、エージェントはフィルターを適用する際にそれらの設定をスキップします。

グループポリシー設定を条件付きにする一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソールで、**フィルター > 条件** に移動し、条件を定義します。詳細については、「条件」を参照してください。

   > **重要:**
   >
   > 利用可能なフィルター条件の完全なリストについては、「フィルター条件」を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザー設定とマシン設定で構成されます。一部のフィルター条件はユーザー設定にのみ適用されます。これらのフィルター条件をマシン設定に適用すると、WEMエージェントはフィルター条件を無視し、マシン設定を適用します。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されないフィルター条件」を参照してください。

2. **フィルター > ルール** に移動し、フィルタールールを定義します。手順1で定義した条件をそのルールに含めることができます。詳細については、「ルール」を参照してください。
3. **アクション > グループポリシー設定** に移動し、グループポリシー設定を構成します。

4. **管理コンソール > 割り当て > アクション割り当て** に移動し、以下を完了します。

    a. 設定を割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

    b. アプリケーションを選択し、右矢印 (\>) をクリックして割り当てます。

    c. **フィルターの割り当て** ウィンドウで、手順2で定義したルールを選択し、**OK** をクリックします。設定は、**利用可能** ペインから **割り当て済み** ペインに移動します。

    d. **割り当て済み** ペインで、設定の優先度を構成します。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど、優先度が高くなります。優先度の高い設定は後で処理され、競合や依存関係がある場合に有効になるようにします。

マシン設定に適用されないフィルター条件

フィルター名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアントIPアドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCU で始まるレジストリ値を構成した場合、**レジストリ値の一致**フィルターはマシン設定に適用しても機能しません。
ユーザーの国の一致	いいえ
ユーザーのUI言語の一致	いいえ
ユーザーのSBCリソースタイプ	いいえ
Active Directoryパスの一致	いいえ
Active Directory属性の一致	いいえ
クライアント名不一致	いいえ
クライアントIPアドレスが一致しません	いいえ
レジストリ値が一致しません	いいえ
ユーザーの国が一致しません	いいえ
ユーザーのUI言語が一致しません	いいえ
Active Directoryパスが一致しません	いいえ

フィルター名	マシン設定に適用可能
Active Directory属性が一致しません	いいえ
クライアントのリモートOSが一致	いいえ
クライアントリモートOS不一致	いいえ
Active Directoryグループ一致	いいえ
Active Directoryグループ不一致	いいえ
公開リソース名	いいえ

アプリケーション

アプリケーションショートカットの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> - Citrix Studio を使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe** は、Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが開始される前に、Workspace Environment Management エージェントが環境の処理を完了するようにします。詳細については、「Citrix Studio を使用したアプリケーション設定の編集」を参照してください。
> - 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アプリケーションリスト

既存のアプリケーションリソースのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

アプリケーションを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新規アプリケーション**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

全般

- **名前**。アプリケーションリストに表示される、アプリケーションショートカットの表示名です。
- **説明**。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。
- **アプリケーションの種類**。ショートカットが起動するアプリケーションの種類で、**インストール済みアプリケーション**、**ファイル/フォルダ**、**URL**、または**StoreFrontストア**のいずれかです。選択に応じて、次の値が必要です。
  - **コマンドライン**。クライアントマシンから見たアプリケーション実行可能ファイルのパス。「**参照**」ボタンを使用すると、ローカルにインストールされている実行可能ファイルを参照できます。
  - **作業ディレクトリ**。ショートカットの作業ディレクトリ。実行可能ファイルを参照すると、自動的に入力されます。
  - **パラメータ**。アプリケーションの起動パラメータ。
  - **ターゲット**。(ファイル/フォルダ) アプリケーションが開くターゲットファイルまたはフォルダの名前。
  - **ショートカットURL**。(URL) 追加するアプリケーションショートカットのURL。
  - **ストアURL**。(StoreFront™ストア) ショートカットから起動したいリソースを含むStoreFrontストアのURL。
  - **ストアリソース**。(StoreFrontストア) ショートカットから起動したいStoreFrontストア上のリソース。「**参照**」ボタンを使用すると、リソースを参照して選択できます。

    > **ヒント:**
    >
    > StoreFrontストアに基づいたアプリケーションを追加するには、有効な資格情報を提供する必要があります。ストアリソースを表示するために初めて「**参照**」をクリックすると、ダイアログが表示されます。このダイアログでは、Citrix Workspace™ app for Windowsにログオンするために使用する資格情報を入力するよう求められます。その後、ストアリソースウィンドウが表示され、WEM管理コンソールマシンで実行されているCitrix Workspace app for Windowsによって取得された公開アプリケーションのリストが表示されます。

- **スタートメニュー統合**。スタートメニューでアプリケーションショートカットを作成する場所を選択します。デフォルトでは、新しいショートカットは「プログラム」に作成されます。

オプション

- **アイコンの選択**。アイコンファイルを参照して、アプリケーションのアイコンを選択できます。デフォルトでは、この設定はアプリケーション実行可能ファイルのアイコンを使用しますが、任意の有効なアイコンを選択できます。アイコンはデータベースにテキストとして保存されます。
    - **高解像度アイコンのみ**。選択ボックスにHDアイコンのみを表示します。
- **アプリケーションの状態**。アプリケーションショートカットが有効になっているかどうかを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。
- **メンテナンスモード**。アクティブな場合、この設定はユーザーがアプリケーションショートカットを実行するのを防ぎます。ショートカットアイコンは、アイコンが利用できないことを示す警告サインを含むように変更され、ユーザーが起動しようとすると、アプリケーションが利用できないことを知らせる短いメッセージが表示されます。これにより、アプリケーションショートカットリソースを無効にしたり削除したりすることなく、公開アプリケーションがメンテナンス中であるシナリオを積極的に管理できます。
- **表示名**。ユーザーの環境に表示されるショートカットの名前。
- **ホットキー**。ユーザーがアプリケーションを起動するためのホットキーを指定できます。ホットキーは大文字と小文字を区別し、次の形式で入力します (例): Ctrl + Alt + S。
- **アクションの種類**。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

詳細設定

- **自動自己修復を有効にする**。選択すると、ユーザーがアプリケーションショートカットを移動または削除した場合に、エージェントは更新時に自動的にショートカットを再作成します。
- **アイコンの場所を強制する**。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットの正確な場所を指定できます。値はピクセル単位です。
- **ウィンドウのスタイル**。エンドポイントでアプリケーションが最小化、通常、または最大化されたウィンドウで開くかどうかを制御します。
- **セルフサービスに表示しない**。セッションエージェントがUIモードで実行されているときに、エンドユーザーが利用できるステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスからアプリケーションを非表示にします。これには、コンテキストメニューの「マイアプリケーション」アイコンリスト、および「アプリケーションの管理」フォームでの非表示が含まれます。
- **ユーザーのお気に入りフォルダーにショートカットを作成する**。エンドユーザーのお気に入りフォルダーにアプリケーションショートカットを作成します。

StoreFrontストアに基づいたアプリケーションエントリを追加するには、WEM管理コンソールマシンにインストールされているCitrix Workspace app for Windowsによって公開アプリケーションのリストを取得できるように、有効な資格情報を提供する必要があります。

スタートメニュービュー

スタートメニュー内のアプリケーションショートカットリソースの場所をツリービューで表示します。

更新。アプリケーションリストを更新します。

移動。アプリケーションショートカットの移動先を選択できるウィザードを開きます。

編集。アプリケーション編集ウィザードを開きます。

削除。選択したアプリケーションショートカットリソースを削除します。

Citrix Studio を使用したアプリケーション設定の編集

Workspace Environment Management (WEM) は、発生した問題のトラブルシューティングを行うためのクライアント側ツールを提供します。VUEMAppCMD ツール (**VUEMAppCmd.exe**) は、Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが起動する前に、WEM エージェントが環境の処理を完了するようにします。これはエージェントのインストールフォルダにあります: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。

> **注:**
>
> 64 ビット OS の場合は、代わりに `%ProgramFiles(x86)%` を使用してください。

> Citrix Studio を使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。これを行うには、次の手順を完了します。

1. Citrix Studio の **>** ページに移動します。

2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。

   - 次のように入力します: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。

3. 開くアプリケーションを指定するコマンドライン引数を入力します。

   - **VUEMAppCmd.exe** を介して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲むようにしてください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe** を介して **iexplore.exe** を起動したいとします。これを行うには、次のように入力します: `"%ProgramFiles%\Internet Explorer\iexplore.exe"` 。

プリンター

このタブでは、プリンターのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用してWorkspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークプリンターリスト

既存のプリンターリソースのリストで、一意のIDが付いています。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでプリンターリストをフィルタリングできます。リボンにある**ネットワーク印刷サーバーのインポート**を使用してプリンターをインポートできます。

プリンターを追加するには

1. **ネットワークプリンターリスト**タブで、**追加**をクリックするか、空白領域を右クリックしてコンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいネットワークプリンター**ウィンドウで、必要な情報を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。プリンターリストに表示されるプリンターの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるプリンターへのパスです。

プリンターの状態。プリンターが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。プリンターに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自己修復。エージェントが更新されたときに、プリンターをユーザー向けに自動的に再作成するかどうかを切り替えます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。「**デバイスマッピングプリンターファイルを使用**」の場合、ターゲットパスとしてXMLプリンターリストファイルへの絶対パスを指定します（XMLプリンターリスト構成を参照）。エージェントが更新されると、このXMLファイルを解析して、アクションキューに追加するプリンターを特定します。

プリンターをインポートするには

1. リボンで「**ネットワーク印刷サーバーのインポート**」をクリックします。
2. 「**ネットワーク印刷サーバーからインポート**」ダイアログに詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

フィールドとコントロール

印刷サーバー名。プリンターをインポートする印刷サーバーの名前。

代替資格情報を使用。デフォルトでは、インポートは管理コンソールが現在実行されているWindowsアカウントの資格情報を使用します。このオプションを選択すると、印刷サーバーへの接続に異なる資格情報を指定できます。

ネットワークドライブ

ネットワークドライブのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークドライブリスト

既存のネットワークドライブのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

ネットワークドライブを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいネットワークドライブ**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ネットワークドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるネットワークドライブへのパスです。

ネットワークドライブの状態。ネットワークドライブを有効または無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。ネットワークドライブに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自動自己修復を有効にする。エージェントが更新されたときに、ネットワークドライブがユーザー向けに自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

ホームドライブとして設定。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。デフォルトは「ネットワークドライブの割り当て」です。

仮想ドライブ

仮想ドライブのマッピングを制御します。仮想ドライブとは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名です。

> **ヒント:**
>
> (/ja-jp/workspace-environment-management/2109/reference/dynamic-tokens.html)を使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

仮想ドライブリスト

既存の仮想ドライブのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

仮想ディスクを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. **管理コンソール > アクション > 仮想ドライブ > 仮想ドライブリスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。または、空白の領域を右クリックし、コンテキストメニューで**追加**を選択します。**新しい仮想ドライブ**ウィンドウが表示されます。

a. **全般**タブで、必要な情報を入力し、仮想ドライブをホームドライブとして設定するかどうかを選択します。

b. **OK**をクリックして変更を保存し、**新しい仮想ドライブ**ウィンドウを終了します。

2. **管理コンソール > 割り当て > アクションの割り当て**タブに移動します。

a. 仮想ドライブを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

b. 仮想ドライブを選択し、右矢印 (>) をクリックして割り当てます。

c. **フィルターとドライブ文字の割り当て**ウィンドウで、**常にTrue**を選択し、ドライブ文字を選択して、**OK**をクリックします。仮想ドライブは、**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

割り当てが有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで**SQL設定の更新遅延**に指定した値に応じて時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Administration Console > Administration > Agents > Statistics**タブに移動し、**Refresh**をクリックします。
2. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで「**Refresh Workspace Agent(s)**」を選択します。

フィールドとコントロール

タブ

名前。仮想ドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。仮想ドライブに関する追加情報を指定できます。この情報は、編集または作成ウィザードにのみ表示されます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決される仮想ドライブへのパスを入力します。

仮想ドライブの状態。仮想ドライブを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。

ホームドライブとして設定。ホームドライブとして設定するかどうかを選択できます。

タブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリエントリ

レジストリエントリの作成を制御します。

ヒント:

動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

レジストリ値リスト

既存のレジストリエントリのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

レジストリエントリを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいレジストリ値**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。レジストリエントリリストに表示される、レジストリエントリの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

レジストリ値の状態。レジストリエントリが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。レジストリエントリが作成されるレジストリの場所です。Workspace Environment Managementは現在のユーザーのレジストリエントリのみを作成できるため、値の前に%ComputerName%\HKEY_CURRENT_USERを付ける必要はありません。これは自動的に行われます。

ターゲット名。レジストリに表示されるレジストリ値の名前です（例: NoNtSecurity）。

ターゲットタイプ。作成されるレジストリエントリのタイプ。

ターゲット値。レジストリエントリが作成された後の値（例：0 または C:\Program Files）

1回実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにレジストリエントリを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management はレジストリエントリを更新ごとにではなく、最初の更新時にのみ1回作成します。これにより、特にユーザーに多くのレジストリエントリが割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションタイプ。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリファイルのインポート

1. 管理コンソールで、**アクション** > **レジストリエントリ** に移動します。
2. リボンで、**レジストリファイルのインポート** をクリックします。
3. **レジストリファイルからのインポート** ウィンドウで、**参照** をクリックして該当するレジストリファイルに移動します。
4. **スキャン** をクリックしてレジストリファイルのスキャンを開始します。スキャンが正常に完了すると、レジストリ設定のリストが表示されます。
5. インポートするレジストリ設定を選択し、**選択した項目をインポート** をクリックしてインポートプロセスを開始します。
6. **OK** をクリックして、**レジストリファイルからのインポート** ウィンドウを終了します。

フィールドとコントロール

レジストリファイル名。**.reg** ファイルに移動して **開く** をクリックすると、自動的に入力されます。**.reg** ファイルには、WEMにインポートするレジストリ設定が含まれています。**.reg** ファイルは、インポートしたいレジストリ設定のみが適用されたクリーンな環境から生成されている必要があります。

スキャン。**.reg** ファイルをスキャンし、そのファイルに含まれるレジストリ設定のリストを表示します。

レジストリ値リスト。インポートする **.reg** ファイルに含まれるすべてのレジストリ値をリスト表示します。

インポートされたアイテムを有効にする。無効になっている場合、新しくインポートされたレジストリキーはデフォルトで無効になります。

インポートされたアイテム名にプレフィックスを付ける。選択すると、このウィザードを通じてインポートされたすべてのレジストリアイテムの名前にプレフィックスが追加されます (例: 「XP ONLY」または「finance」)。これにより、レジストリエントリの識別と整理が容易になります。

> **注:**
>
> ウィザードは、同じ名前のレジストリエントリをインポートできません。**.reg** ファイルに同じ名前のレジストリエントリが複数含まれている場合 (レジストリ値リストに表示されると

おり)、これらのエントリのいずれかを選択してインポートしてください。他のエントリをインポートしたい場合は、名前を変更してください。

環境変数

環境変数の作成を制御します。

ヒント

動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

環境変数リスト

既存の環境変数の一覧です。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

環境変数を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい環境変数**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。環境変数リストに表示される変数の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

環境変数の状態。環境変数が有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

変数名。環境変数の機能名です。

変数値。環境変数の値です。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

実行順序。

ポート

ポート機能を使用すると、クライアントCOMポートとLPTポートのマッピングが可能になります。Citrix Studioポリシーを使用して、COMポートとLPTポートの自動接続を有効にすることもできます。詳細については、「ポートリダイレクトポリシー設定」を参照してください。

ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix StudioでクライアントcomポートリダイレクトまたはクライアントLPTポートリダイレクトポリシーを有効にすることを忘れないでください。デフォルトでは、COMポートリダイレクトとLPTポートリダイレクトは禁止されています。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ポートリスト

既存のポートのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいポート**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ポートリストに表示されるポートの表示名です。

説明。編集/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートの状態。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名です。

ポートターゲット。ターゲットポート。

オプションタブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

例えば、ポート設定を次のように構成できます。

- **ポート名**: 「COM3:」を選択します
- **ポートターゲット**: `\\Client\COM3:`を入力します:



Ini ファイル

.ini ファイル操作の作成を制御し、**.ini** ファイルを変更できるようにします。

> **ヒント:**

> 動的トークン(/ja-jp/workspace-environment-management/2109/reference/dynamic-tokens.html)を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

Ini ファイル操作リスト

既存の ini ファイル操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

.ini ファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい Ini ファイル操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。**Ini ファイル操作**リストに表示される、.ini ファイル操作の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.ini ファイル操作の状態。.ini ファイル操作を有効または無効に切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるときに変更される .ini ファイルの場所を指定します。

ターゲットセクション。この操作のターゲットとなる .ini ファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定した場合、そのセクションが作成されます。

ターゲット値の名前。これは、追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。これは、値そのものを指定します。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびに .ini ファイル操作を実行します。このボックスをオンにすると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、操作を一度だけ実行するようになります。これにより、特に多くの .ini ファイル操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

外部タスク

外部タスクの実行を制御します。外部タスクには、エージェントホストがそれらを実行するための対応するプログラムを持っている限り、スクリプトやアプリケーションの実行が含まれます。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** および **.cmd** スクリプトがあります。

外部タスク機能を使用すると、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。これにより、ユーザー環境をより効果的に管理できます。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

外部タスクリスト

既存の外部タスクのリストです。**検索** を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

外部タスクを追加するには

1. コンテキストメニューの **追加** コマンドを使用します。
2. **新しい外部タスク** ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK** をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。外部タスクの表示名を指定します。これは外部タスクリストに表示されます。

説明。外部タスクに関する追加情報を指定します。

パス。外部タスクへのパスを指定します。このパスはユーザー環境で解決されます。以下を確認してください。

- ここで指定したパスがエージェントホストと一致していること。
- エージェントホストには、タスクを実行するための対応するプログラムがあります。

引数。起動パラメータまたは引数を指定できます。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれます。**パス**および**引数**フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。

外部タスクの状態。外部タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられていても、エージェントはそのタスクを処理しません。

処理のタイミング

- **更新**。ユーザーがエージェントを更新したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されています。
- **再接続**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されています。WEMエージェントが物理Windowsデバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。
- **ログオン**。ユーザーがログオンしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されています。
- **ログオフ**。ユーザーがログオフしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。このオプションは、Citrix User Logon Serviceが実行されていない限り機能しません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

非表示で実行。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。

1回実行。選択すると、**処理のタイミング**セクションでどのオプションを選択したか、およびエージェントが再起動したかどうかにかかわらず、WEMはタスクを1回だけ実行します。デフォルトでは、このオプションは選択されています。

実行順序。各タスクの実行順序を指定できます。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられており、それらのタスクの一部が他のタスクの正常な実行に依存している場合に役立ちます。デフォルトでは、値は0です。実行順序の値が0のタスクが最初に実行され、次に値が1のタスク、次に値が2のタスク、というように実行されます。

タスク完了を待機。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定できます。デフォルトでは、**待機タイムアウト**の値は30秒です。

アクションの種類。外部タスクがどのような種類のアクションであるかを説明します。

トラブルシューティング

この機能を有効にすると、ユーザーが最初にログオフしたときに、WEMエージェントは`Citrix WEM Agent Logoff.log`という名前のログファイルを作成します。ログファイルは、ユーザーのプロファイルのルートフォルダにあります。WEMエージェントは、ユーザーがログオフするたびにログファイルに情報を書き込みます。この情報は、外部タスクに関連する問題を監視およびトラブルシューティングするのに役立ちます。

外部タスクの例

スクリプト (例: PowerShell スクリプト) の場合:

- フォルダーパスとスクリプト名のどちらにも空白が含まれていない場合:
  - **パス** フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - **引数** フィールドに、次のように入力します: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

  あるいは、スクリプトファイルへのパスを **パス** フィールドに直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。**引数** フィールドで、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開かれるかは、ユーザー環境で構成されているファイルの種類に関連付けによって異なります。ファイルの種類に関連付けの詳細については、「ファイル関連付け」を参照してください。
- フォルダーパスまたはスクリプト名に空白が含まれている場合:
  - **パス** フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - **引数** フィールドに、次のように入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーション (例: iexplore.exe) の場合:

- **パス** フィールドに、次のように入力します: `C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。
- **引数** フィールドに、開く Web サイトの URL を入力します: `https://docs.citrix.com/`。

ファイルシステム操作

ユーザーの環境へのフォルダーとファイルのコピーを制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイルシステム操作リスト

既存のファイルおよびフォルダー操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ファイルシステム操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイルシステム操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダー操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステム操作の状態。ファイルシステム操作が有効か無効かを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーへのパスです。

ターゲットパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーの宛先パスです。

既存の場合にターゲットを上書き。ファイルまたはフォルダー操作が、ターゲットの場所に同じ名前の既存のファイルまたはフォルダーを上書きするかどうかを制御します。オフにすると、ターゲットの場所に同じ名前のファイルまたはフォルダーが既に存在する場合、影響を受けるファイルはコピーされません。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。このオプションを選択すると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、操作を一度だけ実行します。これにより、特に多くのファイルシステム操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このファイルまたはフォルダーアクションがどのような種類のアクションであるかを説明します: **コピー**、**削除**、**移動**、**名前の変更**、または**シンボリックリンク**操作。シンボ

リックリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可するために、ユーザーに `SeCreateSymbolicLinkPrivilege` 特権を付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作よりも先に実行できるようにします。実行順序の値が0の操作が最初に実行され、次に値が1の操作、次に値が2の操作、というように続きます。

ユーザー DSN

ユーザー DSN の作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ユーザー DSN リスト

既存のユーザー DSN のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザー DSN を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいユーザー DSN**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザー DSN リストに表示されるユーザー DSN の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザー DSN の状態。ユーザー DSN を有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

DSN 名。ユーザー DSN の機能名です。

ドライバー。DSN ドライバー。現在、SQL Server DSN のみがサポートされています。

サーバー名。ユーザーDSNが接続するSQLサーバーの名前。

データベース名。ユーザーDSNが接続するSQLデータベースの名前。

特定の資格情報を使用して接続。サーバー/データベースに接続するための資格情報を指定できます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにユーザー DSN を作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management はユーザー DSN を更新ごとにではなく、一度だけ作成します。これにより、特に多くの DSN がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

ファイル関連付け

> **重要:**
>
> 構成したファイルタイプの関連付けは、自動的にデフォルトの関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法を選んでください」というウィンドウが表示され、ファイルを開くアプリケーションを選択するよう求められる場合があります。ウィンドウを閉じるには、**OK**をクリックします。同様のウィンドウを再度表示させたくない場合は、次の操作を行います: グループポリシーエディターを開き、**「新しいアプリケーションがインストールされた」通知を表示しない**ポリシー (**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**) を有効にします。

ユーザー環境におけるファイルタイプの関連付けの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用すると、Workspace Environment Managementアクションを拡張して、より強力にすることができます。

ファイル関連付けリスト

既存のファイル関連付けのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ファイル関連付けを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイル関連付け**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ファイル関連付けリストに表示される、ファイル関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイル関連付けが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子。このファイルタイプ関連付けに使用される拡張子です。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID**フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルタイプが存在する場合）。拡張子を直接入力することもできます。ただし、ブラウザ関連付けの場合は、拡張子を直接入力する*必要があります*。詳細については、ブラウザ関連付けを参照してください。

ProgID。アプリケーション (COM) に関連付けられたプログラム識別子。この値は、リストからファイル拡張子を選択すると自動的に入力されます。ProgID を直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションの ProgID を検出するには、OLE/COM オブジェクトビューア (oleview.exe) を使用し、「Object Classes/Ole 1.0 Objects」を参照してください。ProgID の詳細については、「プログラム識別子 (ProgID)」を参照してください。

アクション。アクションの種類 (開く、編集、印刷) を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用される実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。たとえば、UltraEdit テキストエディターの場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションの種類を指定できます。例:

- 開くアクションの場合は、`“%1”` と入力します。
- 印刷アクションの場合は、`/p"%1"` と入力します。

デフォルトアクションとして設定。そのファイル名拡張子のデフォルトとして関連付けを設定するかどうかを切り替えます。

上書き。このファイル関連付けが、指定された拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ (WEM) はエージェントが更新されるたびにファイル関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新ごとにではなく、ファイル関連付けが一度だけ作成されます。これにより、特に多くのファイル関連付けがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

たとえば、ユーザーが選択したプログラム (ここでは iexplore.exe) でテキストファイル (.txt) を自動的に開くように、新しいファイルの種類関連付けを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「**管理コンソール \> アクション \> ファイル関連付け \> ファイル関連付けリスト**」タブで、**追加**をクリックします。
2. **新しいファイル関連付け**ウィンドウで、情報を入力し、**OK**をクリックします。

   - **ファイル関連付けの状態**。**有効**を選択します。
   - **ファイル拡張子**。ファイル名拡張子を入力します。この例では、「.txt」と入力します。
   - **アクション**。**開く**を選択します。
   - **ターゲットアプリケーション**。**参照**をクリックして、該当する実行可能ファイル（.exe ファイル）に移動します。この例では、C:\Program Files (x86)\Internet Explorerフォルダーにあるiexplore.exeを参照します。
   - **コマンド**。「%1」と入力し、%1を二重引用符で囲むようにしてください。
   - **デフォルトアクションとして設定**を選択します。
3. **管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**タブに移動します。
4. アクションを割り当てたいユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
5. **管理コンソール \> 管理 \> エージェント \> 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。
6. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。
7. エージェントが実行されているマシン（ユーザー環境）に移動し、作成されたファイルの種類関連付けが機能することを確認します。

この例では、エンドユーザー環境で.txt拡張子のファイルをダブルクリックすると、そのファイルは自動的にInternet Explorerで開きます。

参考情報

ブラウザーの関連付け

WEMは、以下のブラウザーの関連付けの作成をサポートしています。

- グーグル クローム
- ファイアフォックス
- オペラ
- インターネット エクスプローラー (IE)
- マイクロソフト エッジ
- マイクロソフト エッジ クロミウム

ブラウザの関連付けを作成する際は、次の点に注意してください。

- **ファイル拡張子**フィールドに、`http`または`https`と入力します。
- **ProgID**フィールドに、選択に応じて以下を入力します（大文字と小文字を区別します）。
  - Google Chromeの場合は`ChromeHTML`
  - Firefoxの場合は`firefox`
  - Operaの場合は`OperaStable`
  - Internet Explorer (IE)の場合は`IE`
  - Microsoft Edgeの場合は`edge`
  - Microsoft Edge Chromiumの場合は`edge`または`MSEdgeHTM`

プログラム識別子 (ProgID)

次のフィールドに入力する必要がなくなりました: **アクション**、**ターゲットアプリケーション**、および**コマンド**。正しい**ProgID**を提供できる限り、これらのフィールドは空のままで構いません。一般的なアプリケーションのProgIDのリストを以下に示します。

- アクロバット リーダー DC：`AcroExch.Document.DC`
- Opera ブラウザ: `OperaStable`
- Google Chrome ブラウザ: `ChromeHTML`
- インターネットエクスプローラー: `htmlfile`
- ワードパッド: `textfile`
- メモ帳: `txtfile`

- マイクロソフト ワード 2016: `Word.Document.12`
- マイクロソフト パワーポイント 2016：`PowerPoint.Show.12`
- マイクロソフト エクセル 2016：`Excel.Sheet.12`
- マイクロソフト ビジオ 2016: `Visio.Drawing.15`
- マイクロソフト パブリッシャー 2016: `Publisher.Document.16`

ただし、次の場合には、フィールド（**アクション**、**ターゲットアプリケーション**、および**コマンド**）に入力する必要があります。

- 正しい**ProgID**を提供できない場合。
- ターゲットアプリケーション（例: UltraEdit Text Editor）が、インストール中にレジストリに独自のProgIDを登録しない場合。

フィルター

フィルターには、アクションをユーザーに利用可能にする（アクションを割り当てる）ためのルールと条件が含まれています。ユーザーにアクションを割り当てる前に、ルールと条件を設定してください。

ルール

ルールは複数の条件で構成されます。ルールを使用して、アクションがユーザーに割り当てられるタイミングを定義します。

フィルター規則リスト

既存のルールの一覧です。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルターできます。

フィルター規則を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新規フィルター規則**ダイアログに詳細を入力します。
3. この規則で構成したい条件を、**利用可能**リストから**構成済み**リストに移動します。
4. **OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ルールリストに表示される、ルールの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、ルールに関する追加情報を指定できます。

フィルター規則の状態。ルールが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、エージェントは、割り当てられていてもこのルールを使用するアクションを処理しません。

利用可能な条件。これらは、ルールに追加できるフィルター条件です。注: **DateTime**フィルターは、`YYYY/MM/DD HH:mm`の形式で結果を予期します。

複数の値はセミコロン (;) で区切ることができ、範囲はハイフンで区切ることができます。同じ日付の2つの時刻間の範囲を指定する場合、日付は範囲の両端に含める必要があります。例: 1969/12/31 09:00-1969/12/31 17:00

構成済みの条件。これらは、すでにルールに追加されている条件です。

> **注:**
>
> これらの条件は**AND**ステートメントであり、**OR**ステートメントではありません。複数の条件を追加する場合、フィルターがトリガーされたと見なされるには、それらすべてがトリガーされる必要があります。

条件

条件とは、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成できる特定のトリガーです。

フィルター条件リスト

既存の条件のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

フィルター条件を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター条件**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。条件リストおよびルール作成/編集ウィザードに表示される条件の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、条件に関する追加情報を指定できます。

フィルター条件の状態。フィルターが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ルール作成/編集ウィザードには表示されません。

フィルター条件の種類。使用するフィルター条件の種類です。「フィルター条件」を参照してください。注: 「常にTrue」条件を使用するルールは常にトリガーされます。

設定。これらは個々の条件に対する特定の設定です。「フィルター条件」(/ja-jp/workspace-environment-management/2109/reference/filter-conditions.html)を参照してください。

> **注:**

> IPアドレスを入力する際は、個々のアドレスまたは範囲を指定できます。

> If you specify a range, both bounds must be specified in full. Use the dash character (**-**) to separate IP range bounds (for example **192.168.10.1-192.168.10.5**). Separate multiple ranges or addresses using the semicolon character (**;**) . For example, **192.168.10.1-192.168.10.5;192.168.10.8-192.168.10;192.168.10.17** is a valid value which includes the ranges **.1-.5** and **.8-.10**, plus the individual address **.17**.

割り当て

> **ヒント:**

> ユーザーにアクションを割り当てる前に、次の手順を記載されている順序で実行します。

> - ユーザーを構成します。「Active Directoryオブジェクト」の「ユーザー」を参照してください。
> - 条件を定義します。「条件」を参照してください。
> - フィルター規則を定義します。「規則」を参照してください。
> - アクションを構成します。これについてはここで説明します。

> 割り当てを使用して、ユーザーがアクションを利用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスクリプトの一部を置き換えることができます。

アクションの割り当て

ユーザー

これは、構成済みのユーザーとグループのリストです（「Active Directoryオブジェクト」の「ユーザー」を参照）。ユーザーまたはグループをダブルクリックして、割り当てメニューを表示します。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

> **ヒント:**
>
> Active Directoryのすべてのユーザーにアクションを簡単に割り当てるには、「Everyone」デフォルトグループを使用してアクションを割り当てます。「Everyone」デフォルトグループに割り当てたアクションは、個々のユーザーの**Actions Modeling Wizard**の**Resultant Actions**タブには表示されません。たとえば、action1を「Everyone」デフォルトグループに割り当てた後、action1が**Resultant Actions**タブに表示されない場合があります。

割り当て

選択したユーザーまたはグループにアクションを割り当てることができます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

利用可能。このユーザーまたはグループに割り当て可能なアクションを表示します。

アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして割り当てまたは割り当て解除します。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するためのルールを選択するよう求められます。

割り当て済み。このユーザーまたはグループにすでに割り当てられているアクションを表示します。個々のアクションを展開して構成できます（アプリケーションショートカットの場所、デフォルトプリンター、ドライブ文字など）。

ユーザー/グループにアクションを割り当てるには

1. **ユーザー**リストで、ユーザーまたはグループをダブルクリックします。これにより、割り当てリストが入力されます。
2. **利用可能**リストで、アクションを選択し、右矢印（**>**）ボタンをクリックします。
3. **フィルターの割り当て**ダイアログで、**フィルター ルール**を選択し、**OK**をクリックします。
4. **割り当て済み リスト**で、**有効化**および**無効化**のコンテキストアクションを使用して、割り当ての動作を微調整できます。

注:

スタートメニューにピン留めオプションが機能するためには、アプリケーションショートカットがスタートメニューフォルダーに存在することを確認してください。不明な場合は、**スタートメニューの作成**オプションも有効にしてください。

たとえば、メモ帳を起動するアクションを割り当てるとします。割り当て済みリストには、「自動起動」オプションが提供され、デフォルトで「無効」に設定されています。**有効化**オプションを使用して自動起動を有効にすると、ユーザーが公開デスクトップセッションを起動したときにメモ帳（VDA上のローカルメモ帳）が自動的に起動します（デスクトップの読み込みが完了すると、ローカルメモ帳が自動的に起動します）。

モデリングウィザード

アクションモデリングウィザードは、特定のユーザーの結果アクションのみを表示します（グループには機能しません）。

フィールドとコントロール

アクションモデリングターゲットユーザー。モデル化するユーザーのアカウント名。

結果アクション。ユーザー、またはユーザーが所属するグループに割り当てられたアクション。

ユーザーグループ。ユーザーが所属するグループ。

システム最適化

Workspace Environment Management™ のシステム最適化は、次の要素で構成されています。

- CPU管理
- メモリ管理
- I/O管理
- 高速ログオフ
- シトリックス オプティマイザー

これらの設定は、エージェントホストのリソース使用量を削減するように設計されています。これにより、解放されたリソースが他のアプリケーションで利用できるようになります。その結果、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースであり、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。これは、あるプロセスがユーザーAのセッションでCPUスパイク保護をトリガーした場合、そのイベントはユーザーAのみに記録されることを意味します。ユーザーBが同じプロセスを開始した場合、プロセス最適化の動作はユーザーBのセッション内のプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU管理

これらの設定により、CPU使用率を最適化できます。

CPU管理設定

プロセスはすべてのコアで実行でき、必要なだけCPUを使用できます。Workspace Environment Management™ (WEM) の**CPU管理設定**により、個々のプロセスが使用できるCPU容量を制限できます。CPUスパイク保護は、CPU全体の使用量を削減するようには設計されていません。これは、過剰な割合のCPU使用量を消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPUスパイク保護が有効になっている場合、プロセスが指定されたしきい値に達すると、WEMは自動的にそのプロセスの優先度を一定期間下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先度が低いプロセスよりも高い優先度を持ち、システムはスムーズに動作し続けます。

CPUスパイク保護は、各プロセスを迅速な「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が指定されたサンプル時間内に指定された使用制限を超えると、その優先度は直ちに低下します。指定された時間が経過すると、プロセスのCPU優先度は以前の値に戻ります。プロセスは「スロットリング」されません。**CPUクランプ**とは異なり、優先度のみが低下します。

個々のプロセスの少なくとも1つのインスタンスがしきい値を超えるまで、CPUスパイク保護はトリガーされません。言い換えれば、CPU全体の消費量が指定されたしきい値を超えても、少なくとも1つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。しかし、そのプロセスインスタンスがCPUスパイク保護をトリガーすると、「インテリジェントCPU最適化を有効にする」オプションが有効になっている場合、同じプロセスの新しいインスタンスは（CPU）最適化されます。

特定のプロセスがCPUスパイク保護をトリガーするたびに、そのイベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。これは、user1の特定のプロセスに対するCPU最適化が、user2の同じプロセスの動作に影響を与えないことを意味します。

例えば、Internet Explorerが時々CPUの50～60%を消費している場合、CPUスパイク保護を使用して、VDAのパフォーマンスを脅かすiexplore.exeインスタンスのみを対象とすることができます。（対照的に、CPUクランプはすべてのプロセスに適用されます。）

同じVDAにログオンしている他のユーザーに影響を与えない、ご使用の環境に最適な値を決定するために、サンプル時間を試してみることをお勧めします。

CPUスパイク保護

> **注：**
>
> - 以下の設定における「CPU使用率」は、物理マシンまたは仮想マシン内の「論理プロセッサ」に基づいています。CPUの各コアは、Windowsと同様に論理プロセッサと見なされます。例えば、1つの6コアCPUを搭載した物理マシンは、12個の論理プロセッサを持つと見なされます（Hyper-Threading Technologyはコアが2倍になることを意味します）。8個のCPUを搭載し、それぞれ12コアを持つ物理マシンは、96個の論理プロセッサを持ちます。2つの4コアCPUで構成されたVMは、8個の論理プロセッサを持ちます。
> - 仮想マシンにも同じことが当てはまります。例えば、8個のCPUを搭載し、それぞれ12コア（96個の論理プロセッサ）を持つ物理マシンがあり、4つのマルチセッションOS VDA VMをサポートしているとします。各VMは2つの4コアCPU（8個の論理プロセッサ）で構成されています。VM上でCPUスパイク保護をトリガーするプロセスがそのコアの半分を使用するように制限するには、**CPUコア使用率の制限**を4（VMの論理プロセッサの半分）に設定し、48（物理マシンの論理プロセッサの半分）には設定しません。

> **CPUスパイク保護を有効にする**。プロセスが一定期間（**サンプル時間制限**フィールドで指定）に指定されたCPU使用率を超えた場合、一定期間（**アイドル優先度時間**フィールドで指定）プロセスのCPU優先度を下げます。

- **CPUスパイクの自動防止**。CPUを過負荷にするプロセスのCPU優先度を自動的に下げるには、このオプションを使用します。このオプションは、論理プロセッサ（CPUコア）の数に基づいて、CPUスパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、4つのコアがある場合、このオプションを有効にすると、全体のCPU使用率が23%を超えた場合、全体のCPUリソースの15%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に下がります。同様に、8つのコアがある場合、全体のCPU使用率が11%を超えた場合、CPUリソースの8%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に下がります。
- **CPUスパイク保護のカスタマイズ**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。

- **CPU使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達する必要があるCPU使用率の割合。この制限は、サーバー内のすべての論理プロセッサにわたってグローバルであり、インスタンス単位で決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスは、CPUスパイク保護のトリガーを決定する際にCPU使用率が加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、Server VDAで、複数の同時セッションにおいて、iexplore.exeインスタンスが多数あるとします。各インスタンスは一時的にCPU使用率が約35%に達するため、累積的にiexplore.exeは常に高いCPU使用率を消費しています。ただし、CPU使用率の制限を35%以下に設定しない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。
- **制限サンプル時間**。プロセスのCPU優先度が下がるまでに、そのプロセスがCPU使用率の制限を超過し続ける必要がある時間。
- **アイドル優先度時間**。プロセスのCPU優先度が下げられる時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。
  - 「**CPU優先度**」タブでプロセス優先度が指定されておらず、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）になります。
  - 「**CPU優先度**」タブでプロセス優先度が指定されている場合、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベルになります。
  - プロセスの動作に応じてランダムなレベル。これは、「**CPU優先度**」タブでプロセス優先度が指定されておらず、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

CPUコア使用率の制限を有効にする。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1からXまでの整数を入力します。Xはコアの総数です。Xより大きい整数を入力した場合、WEMはデフォルトで分離されたプロセスの最大消費量をXに制限します。

- **CPUコア使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VMの場合、入力した値は、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM内の論理プロセッサの数にプロセスを制限します。

インテリジェントCPU最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いCPU優

先度が割り当てられます。WEMは、以下のシステムプロセスに対してCPU最適化を実行しないことに注意してください。

- タスクマネージャー
- システムアイドルプロセス
- システム
- サービスホスト
- LSASS
- ウィンイニット
- サービス
- シーエスアールエスエス
- オーディオ ディージー
- MsMpEng
- NisSrv
- エムエスコーアエスブイダブリュー
- ヴイエムウェア解決策設定

インテリジェントI/O最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのプロセスI/O優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いI/O優先度が割り当てられます。

指定されたプロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU管理は、最も一般的なCitrixおよびWindowsのコアサービスプロセスをすべて除外します。ただし、このオプションを使用して、実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でCPUスパイク保護の除外リストからプロセスを**追加**または**削除**できます。通常、アンチウイルスプロセスは除外されます。

> **ヒント:**
>
> - セッションでアンチウイルススキャンがディスクI/Oを占有するのを防ぐには、アンチウイルスプロセスに対して静的なI/O優先度を「低」に設定することもできます。詳細については、「I/O管理」を参照してください。
> - プロセスがCPUスパイク保護をトリガーし、プロセスのCPU優先度が低下すると、WEMはプロセスのCPU優先度を低下させるたびに警告をログに記録します。イベントログの

> 「アプリケーションとサービスログ」にある「Norskale Agent Service」で、
> 「**Initializing process limitation thread for process**」を探してください。

CPU優先度

これらの設定は、プロセスがリソースを競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスのCPU優先度レベルを最適化できるため、CPUプロセッサ時間を競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こすことはありません。プロセスが互いに競合する場合、優先度の低いプロセスは、優先度の高い他のプロセスの後に処理されます。したがって、全体的なCPU消費量の大部分を消費する可能性が低くなります。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、つまり「現在の」優先度は、ベースよりも高くなる場合があります（ただし、ベースより低くなることはありません）。コンピューターで複数のプロセスが実行されている場合、プロセッサ時間はCPU優先度レベルに基づいてそれらの間で共有されます。プロセスのCPU優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。

> **注記：**
>
> 特定のプロセスのCPU優先度レベルを低く設定しても、全体的なCPU消費量が必ずしも減少するわけではありません。他のプロセス（CPU優先度が高い）がCPU使用率に影響を与えている可能性があります。

> **プロセス優先度を有効にする**。選択すると、プロセスのCPU優先度を手動で設定できます。

プロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、**プロセスCPU優先度の追加**ダイアログボックスに詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスCPU優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが再起動されたときに有効になります。

   プロセス名。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windowsエクスプローラー (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

   CPU優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度です。プロセスの優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。リアルタイム、高、通常以上、通常、通常以下、低から選択します。

プロセスを編集するには

プロセスを選択し、**編集**をクリックします。

プロセスを削除するには

プロセスを選択し、**削除**をクリックします。

CPUアフィニティ

プロセスアフィニティを有効にする。有効にすると、プロセスが使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDAで起動されたメモ帳のすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

CPUクランプ

CPUクランプは、プロセスがCPUの処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぎます。WEMは、設定したCPU使用率に達すると、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量のCPUを消費するのを防ぐことができます。

> **注：**
>
> - CPUクランプは、計算コストが高い総当たり的なアプローチです。問題のあるプロセスのCPU使用率を人為的に低く保つには、CPUスパイク保護を使用すると同時に、そのようなプロセスに静的なCPU優先度とCPUアフィニティを割り当てる方が適切です。CPUクランプは、リソース管理が著しく悪いが、優先度を下げることができないプロセスを制御する場合に最適です。
> - プロセスにCPU処理能力の割合を適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定した場合、変更を有効にするには、**Refresh Agent Host Settings** を選択します。

> 設定するクランプの割合は、サーバー内の個々のCPUの総電力に適用され、そのCPUに含まれる個々のコアには適用されません。(つまり、クアッドコアCPUでの10%は、CPU全体の10%であり、1つのコアの10%ではありません)。

プロセスクランプを有効にする。プロセスクランプを有効にします。

追加。実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でプロセスを追加します。

削除。強調表示されたプロセスをクランプリストから削除します。

編集。特定のプロセスに入力された値を編集します。

ヒント：

- WEMがプロセスをクランプしている場合、WEMクライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示することで、プロセスがクランプされていることを確認できます。
- プロセスモニターを確認し、CPU消費量がクランプの割合を超えないことを確認することで、CPUクランプが機能していることを検証することもできます。

メモリ管理

これらの設定により、Workspace Environment Management™ (WEM) を介してアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

これらの設定が有効になっている場合、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEM はその差を *過剰メモリ* と見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEM はプロセスの過剰メモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

アプリケーションがタスクバーから復元されると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

WEM は、ユーザーがデスクトップセッション中に使用している *すべての* アプリケーションを同様の方法で最適化します。複数のユーザーセッションにわたって複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで利用可能になります。これにより、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

ワーキングセットの最適化を有効にする。設定可能な時間アイドル状態であったアプリケーションに対し、アイドル状態ではなくなるまで過剰なメモリを解放するよう強制します。

アイドルサンプル時間 (分)。アプリケーションが過剰なメモリを解放するよう強制されるまでにアイドル状態である必要がある時間。この間、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は 120 分です。

アイドル状態の制限 (パーセント)。プロセスがアイドル状態と見なされる CPU 使用率の割合。デフォルト値は 1% です。5% を超える値を使用することはお勧めしません。そうしないと、アク

ティブに使用されているプロセスがアイドル状態と誤解され、メモリが解放される可能性があります。

指定されたプロセスを除外する。名前でメモリ管理からプロセスを除外できます (例: notepad.exe)。

WEM は、以下のシステムプロセスに対してアプリケーションのメモリ使用量を最適化しません。

- `rdpshell`
- `wfshell`
- `rdpclip`
- `wmiprvse`
- `dllhost`
- `audiodg`
- `msdtc`
- `mscorsvw`
- `spoolsv`
- `smss`
- `winlogon`
- `svchost`
- `taskmgr`
- `System Idle Process`
- `System`
- `LSASS`
- `wininit`
- `msiexec`
- `services`
- `csrss`
- `MsMpEng`
- `NisSrv`
- `Memory Compression`

I/O管理

これらの設定により、特定のプロセスのI/O優先度を最適化し、ディスクおよびネットワークI/Oアクセスを競合しているプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。たとえば、I/O管理設定を使用して、ディスク帯域幅を大量に消費するアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、つまり「現在の」優先度は、ベースよりも高くなる場合があります（ただし、ベースよりも低くなることはありません）。一般的に、Windowsは優先度の低いスレッドよりも優先度の高いスレッドにアクセスを許可します。

I/O優先度

プロセスI/O優先度を有効にする。プロセスI/O優先度の手動設定を有効にします。

I/O優先度リストにプロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、**プロセスI/O優先度の追加**ダイアログで詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログを閉じます。
3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスI/O優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windows Explorer (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

I/O優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度です。プロセスのI/O優先度が高いほど、そのスレッドはより早くI/Oアクセスを取得します。高、標準、低、非常に低から選択します。

プロセスI/O優先度項目を編集するには

プロセス名を選択し、**編集**をクリックします。

I/O優先度リストからプロセスを削除するには

プロセス名を選択し、**削除**をクリックします。

高速ログオフ

高速ログオフは、リモートセッションへのHDX™接続を即座に終了させ、ユーザーにはセッションがすぐに閉じられたかのような印象を与えます。ただし、セッション自体はVDAのバックグラウンドでセッションログオフフェーズを続行します。

> **注：**
>
> 高速ログオフは、Citrix Virtual Apps™およびRDSリソースのみをサポートします。

設定

高速ログオフを有効にする。この構成セット内のすべてのユーザーに対して高速ログオフを有効にします。ユーザーは即座にログアウトされ、セッションログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外する。特定のユーザーグループを高速ログオフから除外できます。

Citrix オプティマイザー

Citrix Optimizerは、ユーザー環境を最適化してパフォーマンスを向上させます。ユーザー環境を迅速にスキャンし、テンプレートベースの最適化推奨事項を適用します。ユーザー環境を最適化するには、次の2つの方法があります。

- 組み込みテンプレートを使用して最適化を実行します。そのためには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、必要な特定の最適化を含む独自のカスタマイズされたテンプレートを作成し、そのテンプレートをWorkspace Environment Management™ (WEM) に追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンのCitrix Optimizerが提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンのCitrix Optimizerは`<https://support.citrix.com/article/CTX224676>`からダウンロードできます。テンプレートビルダー機能を使用すると、WEMにアップロードする独自のカスタムテンプレートを作成できます。
- エージェントホスト（WEMエージェントがインストールされているマシン）で、`<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates`フォルダーに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、任意のフォルダーにコピーします。テンプレートファイルをカスタマイズして、特定の要件を反映させ、その後、カスタムテンプレートをWEMにアップロードします。

設定

Citrix Optimizerを有効にする。Citrix Optimizerを有効または無効にするかどうかを制御します。

毎週実行。選択した場合、WEMは毎週最適化を実行します。**毎週実行**が選択されていない場合、WEMは次のように動作します。

- テンプレートをWEMに初めて追加すると、WEMは対応する最適化を実行します。その後テンプレートに変更を加えない限り、WEMは最適化を1回だけ実行します。変更には、OSに別のテンプレートを適用することや、**利用可能**ペインと**構成済み**ペインの間で最適化エントリを移動させることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEMは最適化を1回実行します。

> **注：**
>
> 非永続VDI環境の場合、WEMは同じ動作に従います。マシンが再起動すると、環境へのすべての変更は失われます。Citrix Optimizerの場合、WEMはマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

> **使用するテンプレートを自動的に選択**。どのテンプレートを使用すべきかわからない場合は、このオプションを使用して、WEMに各OSに最適なものを選択させます。

- **プレフィックスで始まるテンプレートの自動選択を有効にする**。カスタムテンプレートに異なる名前形式が使用できる場合に、このオプションを使用します。プレフィックスをコンマ区切りリストで入力します。カスタムテンプレートは、次の名前形式に従います。
  - `prefix_<os version>_<os build>`
  - `prefix_Server_<os version>_<os build>`

Citrix Optimizerタブには、システム最適化を実行するために使用できるテンプレートのリストが表示されます。**アクション**セクションには、利用可能なアクションが表示されます。

- **追加**。カスタムテンプレートを追加できます。
- **削除**。既存のカスタムテンプレートを削除できます。組み込みテンプレートは削除できません。
- **編集**。既存のテンプレートを編集できます。
- **プレビュー**。選択したテンプレートに含まれる最適化エントリの詳細なビューを表示できます。

カスタムテンプレートを追加するには：

1. **管理コンソール > システム最適化 > Citrix Optimizer > Citrix Optimizer**タブで、**追加**をクリックします。

2. **新しいカスタムテンプレート**ウィンドウで、**参照**をクリックして該当するテンプレートを選択し、リストから該当するOSを選択し、テンプレートに含まれるグループを設定して、**OK**をクリックします。

> **重要：**
>
> - Citrix Optimizerはカスタムテンプレートのエクスポートをサポートしていません。追加後にカスタムテンプレートのローカルコピーを保持してください。

> テンプレートを編集するには、該当するテンプレートを選択し、**編集**をクリックします。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートを選択し、**削除**をクリックします。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートを選択し、**プレビュー**をクリックします。

フィールドとコントロール

テンプレート名。選択したテンプレートの表示名です。

適用可能なOS。オペレーティングシステムのリストです。テンプレートを適用するオペレーティングシステムを1つ以上選択します。リストにないWindows 10 OSに適用できるカスタムテンプレートを追加できます。それらのOSはビルド番号を入力して追加します。OSはセミコロン (;) で区切ってください。例: 2001;2004。

> **重要:**
>
> - 同じOSには1つのテンプレートのみを適用できます。

> **グループ**。**利用可能**ペインには、グループ化された最適化エントリのリストが表示されます。エントリはカテゴリ別にグループ化されています。グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックしてグループを移動します。

状態。テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効になっている場合、エージェントはテンプレートを処理せず、WEMはテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

Citrix Optimizer設定の変更が有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで**SQL設定の更新遅延**オプションに指定した値に応じて、時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、**管理 > エージェント > 統計**タブのコンテキストメニューに移動し、**Citrix Optimizerの処理**を選択します。

> **ヒント:**
>
> - 新しい変更がすぐに有効にならない場合があります。**Citrix Optimizerの処理**を選択する前に、**エージェントホスト設定の更新**を選択することをお勧めします。

ポリシーとプロファイル

これらの設定により、ユーザーGPOを置き換え、ユーザープロファイルを構成できます。

- 環境設定
- Microsoft USV セッティング
- Citrix Profile Management セッティング

環境設定

これらのオプションは、ユーザーの環境設定を変更します。一部のオプションはログオン時に処理され、その他のオプションはエージェントの更新機能を使用してセッション中に更新できます。

スタートメニュー

これらのオプションは、ユーザーのスタートメニューを変更します。

環境設定の処理。このチェックボックスは、エージェントが環境設定を処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、環境設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、エージェントが起動されていても、管理者に対して環境設定は処理されません。

ユーザーインターフェイス: スタートメニュー。これらの設定は、エージェントによってどのスタートメニュー機能が無効になるかを制御します。

> **重要:**

Windows 7以外のオペレーティングシステムでは、**ユーザーインターフェイス: スタートメニュー**の下にあるオプションは、**システムクロックを非表示**と**コンピューターの電源を切るを非表示**を除いて、機能しない場合があります。

ユーザーインターフェイス: 外観。これらの設定により、ユーザーのWindowsテーマとデスクトップをカスタマイズできます。リソースへのパスは、ユーザーの環境からアクセスされるとおりに入力する必要があります。

デスクトップ

ユーザーインターフェイス: デスクトップ。これらの設定は、エージェントによってどのデスクトップ要素が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェイス: Edge UI。これらの設定により、Windows 8.x Edgeユーザーインターフェイスの側面を無効にできます。

Windows エクスプローラー

これらの設定は、エージェントによってどのWindows エクスプローラー機能が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェース: エクスプローラー。これらのオプションを使用すると、**regedit**または**cmd**へのアクセスを無効にし、Windowsエクスプローラーで特定の要素を非表示にできます。

エクスプローラーから指定されたドライブを非表示にする。有効にすると、リストされたドライブはユーザーのマイコンピュータメニューから非表示になります。直接参照すれば、引き続きアクセス可能です。

エクスプローラーから指定されたドライブを制限する。有効にすると、リストされたドライブはブロックされます。ユーザーもそのアプリケーションも、それらにアクセスできません。

コントロールパネル

コントロールパネルを非表示にする。このオプションは、ユーザー環境を保護するためにデフォルトで有効になっています。無効にすると、ユーザーはWindowsコントロールパネルにアクセスできます。

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示する。有効にすると、ここにリストされているものを除くすべてのコントロールパネルアプレットがユーザーから非表示になります。追加のアプレットは、その正規名を使用して追加されます。

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする。有効にすると、リストされたコントロールパネルアプレットのみが非表示になります。追加のアプレットは、その正規名を使用して追加されます。

正規名とともに一般的なコントロールパネルアプレットを参照してください。

既知のフォルダーの管理

指定された既知のフォルダーを無効にする。プロファイル作成時に、指定されたユーザープロファイルの既知のフォルダーが作成されるのを防ぎます。

SBC/HVDチューニング

SBC/HVD (Session-Based Computing/Hosted Virtual Desktop) チューニングを使用すると、Citrix Virtual Apps and Desktops で実行されているセッションのパフォーマンスを最適化できます。パフォーマンスを向上させるように設計されていますが、一部のオプションはユーザーエクスペリエンスをわずかに低下させる可能性があります。

ユーザー環境: 高度なチューニング。これらのオプションを使用すると、SBC/HVD環境でのパフォーマンスを最適化できます。

最大化されたウィンドウのドラッグを無効にする。最大化されたウィンドウのドラッグを無効にします。

スムーズスクロールを無効にする。ページの閲覧中にスムーズスクロール効果を無効にします。

カーソル点滅を無効にする。カーソルの点滅効果を無効にします。

MinAnimateを無効にする。ウィンドウの最小化または最大化時のアニメーション効果を無効にします。

AutoEndTasksを有効にする。タイムアウトしたタスクを自動的に終了します。

WaitToKillAppタイムアウト。アプリケーションを終了するためのタイムアウト値（ミリ秒単位）。デフォルト値は20,000ミリ秒です。

カーソル点滅速度を設定。カーソルの点滅速度を変更します。

メニュー表示遅延を設定。ログオン後にメニューが表示されるまでの遅延（ミリ秒単位）を指定します。

インタラクティブ遅延を設定。サブメニューが表示されるまでの遅延（ミリ秒単位）を指定します。

マイクロソフト USV 設定

これらの設定により、Microsoftユーザー状態仮想化（USV）を最適化できます。

移動プロファイル構成

これらの設定により、Workspace Environment ManagementとMicrosoft移動プロファイルの統合を構成できます。

ユーザー状態仮想化構成の処理。エージェントがUSV設定を処理するかどうかを制御します。無効にすると、USV設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、構成したUSV設定は管理者に適用されません。このオプションを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- **移動プロファイル構成**タブと**移動プロファイル詳細構成**タブの設定はマシンレベルであり、このオプションが有効になっているかどうかにかかわらず適用されます。
- **フォルダーリダイレクト**タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定が管理者に適用されるかどうかを制御します。

Windows移動プロファイルパスの設定。Windowsプロファイルへのパスを指定できます。

RDS移動プロファイルパスの設定。RDS移動プロファイルへのパスを指定できます。

RDSホームドライブパスの設定。RDSホームドライブへのパスと、ユーザー環境で表示されるドライブ文字を指定できます。

移動プロファイル詳細構成

以下は、移動プロファイルの高度な最適化オプションです。

フォルダー除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーの移動プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが移動プロファイルの一部として必要としない大量のデータを含むことが知られている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトのWindows 7除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトのWindows XP除外を事前に入力することもできます。

移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除。有効にすると、エージェントは移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

管理者セキュリティグループをローミングユーザープロファイルに追加する。有効にすると、管理者グループがローミングユーザープロファイルの所有者として追加されます。

ローミングプロファイルフォルダーのユーザー所有権を確認しない。有効にすると、エージェントは処理を実行する前に、ユーザーがローミングプロファイルフォルダーを所有しているかどうかを確認しません。

低速ネットワーク接続を検出しない。有効にすると、接続速度の検出がスキップされます。

リモートユーザープロファイルを待機する。有効にすると、エージェントはリモートユーザープロファイルが完全にダウンロードされてから設定を処理します。

プロファイルのクリーンアップ。既存のプロファイルを削除できる**プロファイルクリーナー**ウィザードを開きます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、**プロファイルフォルダーのスキャン**をクリックしてから、プロファイルクリーナーウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**プロファイルのクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルのクリーンアップ。このボタンは、フォルダー除外設定に従って選択されたプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーのスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルのルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰レベルの数を制御します。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクト構成の処理。このチェックボックスは、エージェントがフォルダーリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、フォルダーリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびどこにリダイレクトするかを制御するオプションを選択します。

ローカルリダイレクトフォルダーの削除。有効にすると、エージェントはリダイレクト用に選択されたフォルダーのローカルコピーを削除します。

Citrix プロファイル管理設定

> **注:**

> 一部のオプションは、特定のバージョンのProfile Managementでのみ機能します。詳細については、Profile Managementのドキュメントを参照してください。

> Workspace Environment Management™ (WEM) は、Citrix Profile Management の現在のバージョンの機能と操作をサポートしています。WEM 管理コンソールでは、**Citrix Profile Management 設定** (ポリシーとプロファイル内) が、Citrix Profile Management の現在のバージョンのすべての設定の構成をサポートしています。

WEM を使用して Citrix Profile Management の機能を構成するだけでなく、Active Directory GPO、Citrix Studio ポリシー、または VDA 上の .ini ファイルを使用することもできます。同じ方法を一貫して使用することをお勧めします。

主な Citrix プロファイル管理設定

基本設定を適用して Profile Management の使用を開始します。基本設定には、処理対象グループ、除外グループ、ユーザー ストアなどが含まれます。

Profile Management 構成を有効にする。有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境に Profile Management 関連のレジストリが作成されます。このオプションは、コンソールで構成した Profile Management 設定を WEM がエージェントに展開するかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management 設定はエージェントに展開されません。

Profile Management を有効にする。エージェントマシンで Profile Management サービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management サービスは機能しません。

エージェントにすでに展開されている設定が処理されなくなるように、Profile Management を完全に無効にしたい場合があります。そのためには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management を有効にする**チェックボックスをオフにし、変更が自動的に適用されるのを待つか、すぐに適用されるように手動で変更を適用します。

   > **注:**
   >
   > 変更が有効になるまでには、詳細設定で**SQL 設定の更新遅延**に指定した値に応じて時間がかかります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新し、関連するすべてのエージェントの Profile Management 設定をリセットします。管理を参照してください。

2. 変更が有効になったら、**Profile Management 構成を有効にする**チェックボックスをオフにします。

処理対象グループを設定する。Profile Management で処理されるグループを指定できます。指定されたグループのみが Profile Management 設定を処理されます。空のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外グループを設定。Profile Managementから除外するグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理。有効にすると、ローカル管理者のログオンは、Profile Managementにおいて非管理者ログオンと同じように扱われます。

ユーザーストアへのパスを設定。ユーザーストアフォルダーへのパスを指定できます。

ユーザーストアを移行。ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されていたフォルダーへのパスを指定できます。以前使用していたユーザーストアパスを入力します。このオプションは、**ユーザーストアへのパスを設定**オプションと組み合わせて使用します。

アクティブライトバックを有効にする。有効にすると、ユーザーのセッション中にプロファイルがユーザーストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

アクティブライトバックレジストリを有効にする。有効にすると、ユーザーのセッション中にレジストリエントリがユーザーストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

オフラインプロファイルサポートを有効にする。有効にすると、接続されていないときに使用するためにプロファイルがローカルにキャッシュされます。

プロファイルコンテナ設定

これらのオプションは、Profile Managementのプロファイルコンテナ設定を制御します。

プロファイルコンテナを有効にする。有効にすると、Profile Managementはリストされたフォルダーをネットワークに保存されているプロファイルディスクにマッピングし、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダー除外を有効にする。有効にすると、Profile Managementはリストされたフォルダーをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダー包含を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたフォルダーをプロファイルコンテナ内に保持します。このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要が

あります。これは、このオプションを**プロファイルコンテナのフォルダー除外を有効にする**オプションと組み合わせて使用する必要があることを意味します。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする。有効にすると、各ローカルプロファイルは、そのプロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。プロファイルストリーミングが使用されている場合、ローカルにキャッシュされたファイルはオンデマンドで作成されます。それ以外の場合は、ユーザーログオン時に作成されます。この設定を使用するには、ユーザープロファイル全体をそのプロファイルコンテナに配置します。この設定は、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナにのみ適用されます。

プロファイルの処理

これらの設定は、Profile Managementのプロファイル処理を制御します。

ログオフ時にローカルキャッシュプロファイルを削除する。有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルキャッシュプロファイルが削除されます。

キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延を設定する。ログオフ時にキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延（秒単位）を指定できます。

既存のプロファイルの移行を有効にする。有効にすると、既存のWindowsプロファイルはログイン時にProfile Managementに移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルは自動的に移行されます。ユーザーがログオンし、ユーザー ストアにユーザープロファイルがない場合、Profile Managementは移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にする。Profile ManagementとWindowsプロファイルが競合する場合のCitrix Workspace™ Environment Managementの処理方法を設定します。

テンプレートプロファイルを有効にする。有効にすると、指定された場所にあるテンプレートプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きします。

テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きします。

すべてのログオンでCitrix必須プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル。有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルを上書きします。

詳細設定

これらのオプションは、Profile Managementの詳細設定を制御します。

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を設定する。エージェントがロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を設定します。

MFTキャッシュファイルのディレクトリを設定する。MFTキャッシュファイルのディレクトリを指定できます。このオプションは*非推奨*であり、将来的に*削除*されます。

アプリケーションプロファイラーを有効にする。有効にすると、アプリケーションベースのプロファイル処理が定義されます。定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。定義ファイルの作成の詳細については、「定義ファイルの作成」を参照してください。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する。有効にすると、古いCookieはログオフ時に削除されます。

リダイレクトされたフォルダーを削除する。有効にすると、リダイレクトされたフォルダーのローカルコピーが削除されます。

自動構成を無効にする。有効にすると、動的構成が無効になります。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする。有効にすると、問題が発生した場合にユーザーは一時プロファイルに切り替わるのではなく、ログオフされます。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム。有効にすると、Profile Management はカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を使用して、匿名統計と使用状況情報を収集することで、Citrix 製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てます。CEIP の詳細については、「Citrix カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) について」を参照してください。

Microsoft Outlook ユーザーの検索インデックスローミングを有効にする。有効にすると、ユーザー固有の Microsoft Outlook オフラインフォルダーファイル (*.ost) と Microsoft 検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。これにより、Microsoft Outlook でメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook 検索インデックスデータベース – バックアップと復元**。有効にすると、Profile Management は検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損が発生した場合、Profile Management はそのコピーに戻します。その結果、検索インデックスデータベースが破損した場合でも、手動でデータベースを再インデックス化する必要がなくなります。

プロファイルコンテナーのマルチセッションライトバックを有効にする。有効にすると、Profile Management は、FSLogix Profile Container と Citrix Profile Management プロファイルコンテナーの両方で、マルチセッションシナリオでの変更を保存します。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、各セッションで行われた変更は同期され、ユーザーのプロファイルコンテナーディスクに保存されます。

ユーザーストアをレプリケートする。有効にすると、Profile Management は、 オプションで指定されたパスに加えて、ログオンおよびログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートします。セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザーストアに同期するには、アクティブライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システム I/O が増加し、ログオフが長くなる可能性があります。この機能は現在、完全なコンテナーソリューションをサポートしていません。

ログ設定

これらのオプションは、Profile Management のログ記録を制御します。

ログ記録を有効にする。Profile Management 操作のログ記録を有効/無効にします。

ログ設定を構成する。ログに含めるイベントの種類を指定できます。

ログファイルの最大サイズを設定する。ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

ログファイルへのパスを設定する。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

これらのオプションは、プロファイル管理のレジストリ設定を制御します。

NTUSER.DAT バックアップ。選択すると、プロファイル管理はNTUSER.DATファイルの最後に正常だったバックアップを保持します。プロファイル管理が破損を検出した場合、最後に正常だったバックアップコピーを使用してプロファイルを回復します。

デフォルト除外リストを有効にする。HKCUハイブ内のレジストリキーのデフォルトリストで、ユーザープロファイルに同期されません。選択すると、このリストで選択されたレジストリ設定は、プロファイル管理プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリ除外を有効にする。このリストのレジストリ設定は、プロファイル管理プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリ包含を有効にする。このリストのレジストリ設定は、プロファイル管理プロファイルに強制的に含まれます。

ファイルシステム

これらのオプションは、プロファイル管理のファイルシステム除外を制御します。

ログオン除外チェックを有効にする。有効にすると、ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、プロファイル管理が何を行うかを構成します。（無効になっている場合、デフォルトの動作は**除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**です）。リストから次のいずれかの動作を選択できます。

除外されたファイルまたはフォルダーを同期する（デフォルト）。ユーザーがログオンすると、プロファイル管理はこれらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。

除外されたファイルまたはフォルダーを無視する。ユーザーがログオンすると、プロファイル管理はユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。

除外されたファイルまたはフォルダーを削除する。ユーザーがログオンすると、プロファイル管理はユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

デフォルト除外リストを有効にする - ディレクトリ。同期中に無視されるディレクトリのデフォルトリスト。選択すると、このリストで選択されたフォルダーはプロファイル管理の同期から除外されます。

ファイル除外を有効にする。有効にすると、リストされたファイルはユーザーのプロファイル管理プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーがプロファイル管理プロファイルの一部として必要としない大量のデータを含むことが知られている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトのWindows 7除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトのWindows XP除外を事前に入力することもできます。

フォルダー除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーのプロファイル管理プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーがプロファイル管理プロファイルの一部として必要としない大量のデータを含むことが知られている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトのWindows 7除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトのWindows XP除外を事前に入力することもできます。

プロファイルクリーンアップ。既存のプロファイルを削除できる**プロファイルクリーナー**ウィザードを開きます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、**プロファイルフォルダーのスキャン**をクリックしてから、プロファイル

クリーナーウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**プロファイルのクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルのクリーンアップ。フォルダー除外設定に従って、選択したプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーのスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰のレベル数を制御します。

同期

これらのオプションは、プロファイル管理の同期設定を制御します。

ディレクトリ同期を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーがユーザー ストアに同期されます。

ファイル同期を有効にする。有効にすると、リストされたファイルがユーザー ストアに同期され、ユーザーは常に最新バージョンのファイルを取得できます。複数のセッションでファイルが変更された場合、最新のファイルがユーザー ストアに保持されます。

フォルダーミラーリングを有効にする。有効にすると、ログオフ時にリストされたフォルダーがユーザー ストアにミラーリングされ、ユーザー ストアに保存されているミラーリングされたフォルダー内のファイルとサブフォルダーがローカルバージョンと同じであることが保証されます。フォルダーミラーリングの仕組みの詳細については、以下を参照してください。

- ミラーリングされたフォルダー内のファイルは、変更されたかどうかに関わらず、セッションログオフ時に常にユーザー ストアに保存されているファイルを上書きします。
- ミラーリングされたフォルダー内のローカルバージョンと比較して、ユーザー ストアに余分なファイルまたはサブフォルダーが存在する場合、それらの余分なファイルとサブフォルダーはセッションログオフ時にユーザー ストアから削除されます。

大容量ファイル処理を有効にする。有効にすると、大容量ファイルがユーザー ストアにリダイレクトされ、ネットワーク経由でそれらのファイルを同期する必要がなくなります。

> **注:**

> 一部のアプリケーションでは、同時ファイルアクセスが許可されていません。Citrixでは、大容量ファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮に入れることをお勧めします。

ストリーミングユーザープロファイル

これらのオプションは、ストリーミングユーザープロファイルの設定を制御します。

プロファイルストリーミングを有効にする。無効にすると、このセクションの設定はどれも処理されません。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする。有効にすると、フォルダーはアクセスされたときにのみフェッチされます。この設定により、ユーザーログオン時にすべてのフォルダーを走査する必要がなくなり、帯域幅を節約し、ファイルの同期時間を短縮できます。

常にキャッシュする。有効にすると、指定されたサイズ（MB単位）以上のファイルは常にキャッシュされます。

保留領域ロックファイルのタイムアウトを設定する: サーバーが応答しなくなったときにユーザーストアがロックされたままの場合、指定された時間後にファイルが保留領域からユーザーストアに書き戻されるようにファイルを解放します。

ストリーミングユーザープロファイルグループを設定する。このリストは、ストリーミングプロファイルが使用されるユーザーグループを決定します。

プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリを有効にする。選択すると、プロファイル管理はこのリスト内のフォルダーをストリーミングせず、ユーザーがログオンしたときにすべてのフォルダーがユーザーストアからローカルコンピューターにすぐにフェッチされます。

クロスプラットフォーム設定

これらのオプションは、クロスプラットフォーム設定を制御します。

クロスプラットフォーム設定を有効にする。無効にすると、このセクションの設定はどれも処理されません。

クロスプラットフォーム設定グループを設定する。クロスプラットフォームプロファイルが使用されるユーザーグループを指定できます。

クロスプラットフォーム定義へのパスを設定する。クロスプラットフォーム定義ファイルへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを設定する。クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースを有効にする。クロスプラットフォーム設定のソースプラットフォームを有効にします。

セキュリティ

これらの設定により、Workspace Environment Management 内でのユーザーアクティビティを制御できます。

アプリケーションセキュリティ

> **重要:**

> ユーザーが実行できるアプリケーションを制御するには、Windows AppLockerインターフェイスを使用するか、Workspace Environment Managementを使用してWindows AppLockerルールを管理できます。これらのアプローチはいつでも切り替えることができますが、両方のアプローチを同時に使用することはお勧めしません。

> これらの設定により、ルールを定義することで、ユーザーが実行を許可されているアプリケーションを制御できます。この機能はWindows AppLockerに似ています。Workspace Environment Managementを使用してWindows AppLockerルールを管理する場合、エージェントはアプリケーションセキュリティタブのルールをエージェントホスト上のWindows AppLockerルールに処理（変換）します。エージェントによるルールの処理を停止しても、ルールは構成セットに保持され、AppLockerはエージェントによって最後に処理された一連の指示を使用して実行を継続します。

アプリケーションセキュリティ

このタブには、現在のWorkspace Environment Management構成セット内のアプリケーションセキュリティルールが一覧表示されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいてリストをフィルタリングできます。

セキュリティタブでトップレベル項目「アプリケーションセキュリティ」を選択すると、ルール処理を有効または無効にするための次のオプションが利用可能になります。

- **アプリケーションセキュリティルールの処理**。選択すると、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セットのルールを処理し、それらをエージェントホスト上のAppLockerルールに変換します。選択されていない場合、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールは無効になり、エージェントはルールをAppLockerルールに処理しません。（この場合、AppLockerルールは更新されません。）

  > **注:**
  >
  > このオプションは、Workspace Environment Management管理コンソールがWindows 7 SP1またはWindows Server 2008 R2 SP1（またはそれ以前のバージョン）にインストールされている場合は利用できません。

- **DLLルールの処理**。選択すると、エージェントは現在の構成セットのDLLルールをエージェントホスト上のAppLocker DLLルールに処理します。このオプションは、**アプリケーションセキュリティルールの処理**を選択した場合にのみ利用可能です。

  > **重要:**
  >
  > DLLルールを使用する場合、許可されているすべてのアプリで使用される各DLLに対して、「許可」権限を持つDLLルールを作成する必要があります。

  > **注意:**
  >
  > DLLルールを使用すると、ユーザーのパフォーマンスが低下する可能性があります。これは、AppLockerがアプリが実行を許可される前に、アプリがロードする各DLLをチェックするためです。

- **上書き**および**マージ**設定により、エージェントがアプリケーションセキュリティルールを処理する方法を決定できます。

  - **上書き**。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
  - **マージ**。既存のルールとルールをマージできます。競合が発生した場合、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。マージ中にルール適用設定を変更す

る必要がある場合は、マージモードでは異なる場合に古い値が保持されるため、上書きモードを使用してください。

ルールコレクション

ルールはAppLockerルールコレクションに属します。各コレクション名には、含まれるルールの数（例：(12)）が示されます。コレクション名をクリックして、ルールリストを次のいずれかのコレクションにフィルタリングします。

- **実行可能ルール**。アプリケーションに関連付けられている.exeおよび.com拡張子のファイルを含むルール。
- **Windowsルール**。クライアントコンピューターおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラーファイル形式（.msi、.msp、.mst）を含むルール。
- **スクリプトルール**。次の形式のファイルを含むルール：.ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js。
- **パッケージルール**。パッケージ化されたアプリ（ユニバーサルWindowsアプリとも呼ばれる）を含むルール。パッケージ化されたアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じIDを共有します。したがって、1つのルールでアプリ全体を制御できます。Workspace Environment Managementは、パッケージ化されたアプリのパブリッシングルールのみをサポートします。
- **DLLルール**。次の形式のファイルを含むルール：.dll、.ocx。

ルールリストをコレクションにフィルタリングすると、**ルール適用**オプションを使用して、AppLockerがエージェントホスト上のそのコレクション内のすべてのルールをどのように適用するかを制御できます。次のルール適用値が可能です。

オフ（デフォルト）。ルールは作成され、「オフ」に設定されます。これは、ルールが適用されないことを意味します。

オン。ルールは作成され、「適用」に設定されます。これは、エージェントホストでアクティブであることを意味します。

監査。ルールは作成され、「監査」に設定されます。これは、ルールがエージェントホスト上で非アクティブな状態であることを意味します。ユーザーがAppLockerルールに違反するアプリを実行すると、そのアプリは実行が許可され、アプリに関する情報がAppLockerイベントログに追加されます。

AppLockerルールをインポートするには

AppLockerからエクスポートされたルールをWorkspace Environment Managementにインポートできます。インポートされたWindows AppLocker設定は、**セキュリティ**タブの既存のルールに追加

されます。無効なアプリケーションセキュリティルールは自動的に削除され、レポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンで、**AppLockerルールをインポート**をクリックします。
2. AppLockerからエクスポートされた、AppLockerルールを含むXMLファイルを参照します。
3. **インポート**をクリックします。

ルールはアプリケーションセキュリティルールリストに追加されます。

ルールを追加するには

1. サイドバーでルールコレクション名を選択します。たとえば、実行可能ルールを追加するには、「実行可能ルール」コレクションを選択します。
2. **ルールを追加**をクリックします。
3. **表示**セクションで、次の詳細を入力します。
   - **名前**。ルールリストに表示されるルールの表示名。
   - **説明**。リソースに関する追加情報（オプション）。
4. **タイプ**セクションで、オプションをクリックします。
   - **パス**。ルールはファイルパスまたはフォルダパスに一致します。
   - **発行元**。このルールは、選択した発行元と一致します。
   - **ハッシュ**。このルールは、特定のハッシュコードと一致します。
5. **Permissions**セクションで、このルールがアプリケーションの実行を**許可**するか**拒否**するかをクリックします。
6. このルールをユーザーまたはユーザーグループに割り当てるには、**Assignments**ペインで、このルールを割り当てるユーザーまたはグループを選択します。「Assigned」列には、割り当てられたユーザーまたはグループの「チェック」アイコンが表示されます。

> **ヒント:**
>
> - 通常のWindowsの選択修飾キーを使用して複数の選択を行うか、**Select All**を使用してすべての行を選択できます。
> - ユーザーは、Workspace Environment Management Usersリストにすでに存在している必要があります。

- ルール作成後にルールを割り当てることができます。

7. **Next**をクリックします。
8. 選択したルールタイプに応じて、ルールが一致する条件を指定します。
   - **パス**。ルールが一致するファイルパスまたはフォルダーパスを指定します。フォルダーを選択すると、そのフォルダー内およびその下のすべてのファイルがルールと一致します。
   - **発行元**。署名された参照ファイルを指定し、Publisher Infoスライダーを使用してプロパティの一致レベルを調整します。
   - **ハッシュ**。ファイルを指定します。このルールは、ファイルのハッシュコードと一致します。
9. **Next**をクリックします。
10. 必要な例外を追加します（オプション）。「Add exception」で例外タイプを選択し、**Add**をクリックします。（必要に応じて例外を**Edit**および**Remove**できます）。
11. ルールを保存するには、**作成**をクリックします。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターで、ルールを割り当てるユーザーとユーザーグループを含む行を選択し、**OK**をクリックします。**すべて選択**を使用してすべての選択を解除することで、選択したルールを全員から割り当て解除することもできます。

注: 複数のルールを選択して**編集**をクリックすると、それらのルールに対するルール割り当ての変更は、選択したすべてのユーザーとユーザーグループに適用されます。つまり、既存のルール割り当ては、それらのルール間でマージされます。

デフォルトのルールを追加するには

デフォルトのルールを追加をクリックします。AppLockerのデフォルトルールのセットがリストに追加されます。

ルールを編集するには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターが表示され、選択した項目に適用される設定を調整できます。

ルールを削除するには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**削除**をクリックします。

アプリケーションセキュリティルールをバックアップするには

現在の構成セット内のすべてのアプリケーションセキュリティルールをバックアップできます。ルールはすべて単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**復元**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。 リボンで、**バックアップ**をクリックし、**セキュリティ設定**を選択します。

アプリケーションセキュリティルールを復元するには

Workspace Environment Managementのバックアップコマンドで作成されたXMLファイルから、アプリケーションセキュリティルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ**タブに切り替えるか更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポート可能なレポートダイアログに一覧表示されます。

復元プロセス中に、現在の構成セット内のユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元するかどうかを選択できます。再割り当ては、バックアップされたユーザー/グループが現在の構成セット/Active Directoryに存在する場合にのみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当て解除されたままになります。復元後、それらはCSV形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。

1\. リボンで、**復元**をクリックして復元ウィザードを開始します。

2\. セキュリティ設定を選択し、**次へ**を2回クリックします。

3\. **フォルダーから復元**で、バックアップファイルを含むフォルダーを参照します。

4\. **AppLockerルール設定**を選択し、**次へ**をクリックします。

5\. ルール割り当てを復元するかどうかを確認します。

はい。ルールを復元し、現在の構成セット内の同じユーザーおよびユーザーグループに再割り当てします。

いいえ。ルールを復元し、割り当てを解除したままにします。

6\. 復元を開始するには、**設定の復元**をクリックします。

プロセス管理

これらの設定により、特定のプロセスをホワイトリストまたはブラックリストに登録できます。

プロセス管理

プロセス管理を有効にする。これは、プロセスホワイトリスト/ブラックリストが有効かどうかを切り替えます。無効になっている場合、**プロセスブラックリスト**タブと**プロセスホワイトリスト**タブの設定は考慮されません。

> **注:**
>
> このオプションは、セッションエージェントがユーザーのセッションで実行されている場合にのみ機能します。これを行うには、**メイン構成**エージェント設定を使用して、ユーザー/セッションタイプに応じて起動する**エージェントの起動**オプション（**ログオン時/再接続時/管理者向け**）を設定し、**エージェントタイプ**を「UI」に設定します。これらのオプションについては、詳細設定で説明されています。

プロセスブラックリスト

これらの設定により、特定のプロセスをブラックリストに登録できます。

プロセスブラックリストを有効にする。これにより、プロセスブラックリストが有効になります。実行可能ファイル名（例：cmd.exe）を使用してプロセスを追加する必要があります。

ローカル管理者を対象外にする。プロセスブラックリストからローカル管理者アカウントを除外します。

指定されたグループを除外する。プロセスブラックリストから特定のユーザーグループを除外できます。

プロセスホワイトリスト

これらの設定により、特定のプロセスをホワイトリストに登録できます。プロセスブラックリストとプロセスホワイトリストは相互に排他的です。

プロセスホワイトリストを有効にする。これにより、プロセスホワイトリストが有効になります。実行可能ファイル名（例：cmd.exe）を使用してプロセスを追加する必要があります。**注** 有効にすると、**プロセスホワイトリストを有効にする**は、ホワイトリストにないすべてのプロセスを自動的にブラックリストに登録します。

ローカル管理者を対象外にする。プロセスホワイトリストからローカル管理者アカウントを除外します（すべてのプロセスを実行できます）。

指定されたグループを除外する。プロセスホワイトリストから特定のユーザーグループを除外できます（すべてのプロセスを実行できます）。

Active Directory オブジェクト

これらのページを使用して、Workspace Environment Management™ (WEM) で管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位を指定します。

> **注：**

> エージェントが管理できるように、ユーザー、コンピューター、グループ、およびOUをWEMに追加します。

ユーザー

既存のユーザーとグループのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. Windowsのダイアログでユーザーまたはグループ名を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ユーザーまたはグループの名前です。

説明。**アイテムの編集**ダイアログにのみ表示されます。ユーザーまたはグループに関する追加情報を指定できます。

アイテムの優先度。異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を構成できます。優先度は、割り当てたアクションが処理される順序を決定します。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど優先度が高くなります。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

> **重要：**

グループポリシー設定を割り当てる場合、ここで構成した優先度は機能しません。それらの優先度を設定するには、**管理コンソール > 割り当て**を使用します。詳細については、「グループポリシー設定のコンテキスト化」を参照してください。

アイテムの状態。ユーザーまたはグループを有効にするか無効にするかを選択できます。無効になっている場合、アクションを割り当てることはできません。

複数のユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから を選択します。
2. テキストボックスに複数のユーザー名またはグループ名を追加し、セミコロンで区切ってからをクリックします。

マシン

現在のサイト（構成セット）に追加されたコンピューターのリストです。ここにリストされているコンピューターのみがWorkspace Environment Managementによって管理されます。これらのコンピューター上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに登録すると、構成セットに必要なマシン依存の設定が送信されます。 を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ヒント:

これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに正しく登録されているかを確認するには、「管理」セクションの「エージェント」を参照してください。

現在の構成セットにコンピューターまたはコンピューターグループを追加するには

1. コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. ダイアログで、コンピューターまたはコンピューターグループを選択し、 をクリックします。

組織単位内のコンピューターを構成セットに追加するには

1. コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. ダイアログで、組織単位を選択し、 をクリックします。

コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの詳細を編集するには

1. リスト内の項目を選択します。

2. 「**編集**」コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
3. 「アイテムの編集」ダイアログで、以下の詳細（読み取り専用ではないもの）を編集し、「**OK**」をクリックします。

名前*。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの名前です。

識別名*。選択したコンピューターまたはコンピューターグループの識別名（DN）です。このフィールドを使用すると、同じ名前を持つ異なるOUを区別できます。

説明。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUに関する追加情報です。

種類*。選択された種類（コンピューター、グループ、または組織単位）です。

アイテムの状態。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの状態（有効または無効）です。無効になっている場合、コンピューター、コンピューターグループ、またはOUにはアクションを割り当てることができません。

アイテムの優先度。これにより、異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を設定できます。優先度は、割り当てたアクションが処理される順序を決定します。値が大きいほど、優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合など）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

* Active Directoryから報告される読み取り専用の詳細。

詳細設定

Active Directoryの動作を構成するためのオプション。

Active Directory検索タイムアウト。Active Directory検索がタイムアウトするまでの時間（ミリ秒）です。デフォルト値は1000ミリ秒です。検索が完了する前にタイムアウトするのを避けるため、少なくとも500ミリ秒のタイムアウト値を使用することをお勧めします。

Transformer の設定

これらのオプションを使用すると、Transformer 機能を構成できます。Transformer を使用すると、エージェントは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトする Web またはアプリケーションランチャーとして接続できます。Transformer を使用して、任意の Windows PC を、完全に元に戻せる「キオスク」モードを使用して、高性能なシンクライアントに変換します。

一般

一般設定

これらの設定は、Transformer の外観と基本設定を制御します。

Transformer を有効にする。有効にすると、このサイトに接続されているエージェントホストは自動的に *キオスクモード* になります。キオスクモードでは、エージェントホストは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトする Web またはアプリケーションランチャーになります。ユーザー環境はロックダウンされ、ユーザーはエージェントとのみ対話できます。このオプションを無効にすると、**一般**ページまたは**詳細設定**ページのどちらの設定も処理されません。

Web インターフェイス URL。この URL は、ユーザーの仮想デスクトップの Web フロントエンドとして使用されます。これは、Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Desktops™ 環境へのアクセス URL です。

カスタムタイトル。有効にすると、Workspace Environment Management™ Agent キオスクウィンドウにカスタムタイトルバーが与えられます。

ウィンドウモードを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management Agent キオスクはウィンドウモードで起動します。ユーザーは引き続き Windows 環境からロックアウトされます。

言語選択を許可する。有効にすると、ユーザーは Transformer インターフェイスの言語を選択できます。

ナビゲーションボタンを表示する。有効にすると、「進む」、「戻る」、「ホーム」の Web ナビゲーションボタンがエージェントキオスクウィンドウに表示されます。「ホーム」は、ユーザーを上記の Web インターフェイス URL に戻します。

時計を表示する。有効にすると、Transformer UI に時計が表示されます。

12時間表示の時計を表示する。有効にすると、12時間表示の時計（午前/午後）が表示されます。デフォルトでは、Transformer の時計は24時間表示です。

アプリケーションパネルを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management で割り当てられたユーザーのアプリケーションを含むパネルが表示されます。

アプリケーションパネルを自動的に非表示にする。有効にすると、アプリケーションパネルは使用されていないときに自動的に非表示になります。

ロック解除パスワードの変更。**Ctrl+Alt+U**を押してユーザーの環境のロックを解除するために使用できるパスワードを指定できます。これは、管理者とサポートエージェントが制限なしにユーザー環境のトラブルシューティングを行うことを可能にするように設計されています。

サイト設定

サイトリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにURLのリストが追加されます。

ツール設定

ツールリストを有効にする。有効にすると、キオスクインターフェイスにツールのリストが追加されます。

詳細設定

プロセスランチャー

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management Agentのキオスクモードを、Webインターフェイスを表示する代わりにプロセスランチャーにすることができます。

プロセスランチャーを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Managementエージェントがプロセスランチャーモードになります。プロセスランチャーモードでは、Workspace Environment Managementエージェントは**Process Command Line**で指定されたプロセスを起動します。終了した場合、プロセスは再起動されます。

プロセスコマンドライン。特定のプロセス（たとえば、RDP接続を起動するためのmstsc.exeへのパス）のコマンドラインを入力できます。

プロセス引数。上記のコマンドラインに対する引数（たとえば、mstsc.exeの場合、接続するマシンのIPアドレス）を指定できます。

VMware Viewの最後のユーザー名をクリアする。有効にすると、VMwareデスクトップセッションを起動したときに、ログオン画面で前回のユーザーのユーザー名がクリアされます。

VMware Viewモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーはVMware Viewモードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**End of Session Options**を実行できます。

Microsoft RDSモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーはMicrosoft Remote Desktop Services (RDS) モードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションま

たはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**End of Session Options**を実行できます。

Citrixモードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーはCitrixモードでユーザーのマシン上で実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**End of Session Options**を実行できます。

詳細設定と管理設定

ブラウザレンダリングの修正。有効にすると、キオスクウィンドウが、エージェントホストマシンに現在インストールされているInternet Explorer (IE) のバージョンと互換性のあるブラウザモードで強制的に実行されます。デフォルトでは、これによりキオスクウィンドウはIE7互換モードで強制的に実行されます。

ログオフ画面のリダイレクト。有効にすると、ユーザーがログオフページにアクセスするたびに、自動的にログオンページにリダイレクトされます。

スクリプトエラーの抑制。有効にすると、検出されたスクリプトエラーが抑制されます。

SSLサイトの修正。有効にすると、SSL警告が完全に非表示になります。

Citrixセッション中のキオスクの非表示。有効にすると、ユーザーがCitrixセッションに接続している間、Citrix Workspace™ Environment Management Agentキオスクが非表示になります。

常に管理者メニューを表示。有効にすると、キオスク管理者メニューが常に表示されます。これにより、すべてのユーザーがキオスク管理者メニューにアクセスできるようになります。

タスクバーとスタートボタンの非表示。有効にすると、ユーザーのタスクバーとスタートメニューが非表示になります。無効の場合、ユーザーは引き続きデスクトップにアクセスできます。

Alt-Tabのロック。有効にすると、Alt-Tabコマンドが無視され、ユーザーがエージェントから切り替えることができなくなります。

Zオーダーの修正。有効にすると、キオスクインターフェイスに「非表示」ボタンが追加され、ユーザーはキオスクをバックグラウンドに移動できるようになります。

Citrix Desktop Viewerのロック。有効にすると、Desktop Viewerがロックダウンモードに切り替わります。これは、Windows Desktop Lock用Citrix Workspaceアプリがインストールされている場合に発生するロックダウンと同等です。これにより、ローカルアプリケーションとの統合が向上します。このオプションは、以下のすべての条件が満たされている場合にのみ機能します。

- エージェントホストにログオンしているユーザーが管理者グループのメンバーではないこと。
- **一般設定**タブの**Transformerを有効にする**オプションが有効になっていること。

- **ログオン/ログオフと電源設定**タブの**自動ログオンモードを有効にする**オプションが有効になっていること。

表示設定の非表示。有効にすると、Transformer UIの**設定**の下にある**表示**が非表示になります。

キーボード設定を非表示。有効にすると、Transformer UI の**設定**の下にある**キーボード**を非表示にします。

マウス設定を非表示。有効にすると、Transformer UI の**設定**の下にある**マウス**を非表示にします。

音量設定を非表示。有効にすると、Transformer UI の**設定**の下にある**音量**を非表示にします。

クライアント詳細を非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**クライアント詳細**を非表示にします。**クライアント詳細**から、バージョン番号などの情報を確認できます。

プログレスバーを無効にする。有効にすると、埋め込み Web ブラウザのプログレスバーを非表示にします。

Windowsバージョンを非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**Windowsバージョン**を非表示にします。

ホームボタンを非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるホームアイコンを非表示にします。

プリンター設定を非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるプリンターアイコンを非表示にします。ユーザーは Transformer UI でプリンターを管理できません。

Receiverを事前起動。有効にすると、Citrix Workspaceアプリを起動し、キオスクモードウィンドウを表示する前にロードが完了するまで待機します。

ロック解除を無効にする。有効にすると、エージェントは **Ctrl+Alt+U** のロック解除ショートカットではロック解除できません。

ログオフオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**ログオフ**を非表示にします。

再起動オプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**再起動**を非表示にします。

シャットダウンオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**シャットダウン**を非表示にします。

最終言語を無視。Transformer UI は複数の言語をサポートしています。**全般ペイン**で**言語選択を許可**オプションが有効になっている場合、ユーザーは Transformer UI の言語を選択できます。エージェントは、このオプションが有効になるまで、選択された言語を記憶します。

ログオン/ログオフと電源設定

自動ログオンモードを有効にする。有効にすると、ユーザーはエージェントによってデスクトップ環境に自動的にログオンし、Windowsログオン画面をバイパスします。

セッション起動時にWebポータルからログオフする。有効にすると、ユーザーのデスクトップセッションが起動したときに、ページで指定されたWebフロントエンドからログオフします。

セッション終了オプション。ユーザーがセッションを終了したときに、エージェントが実行中の環境に対してどのようなアクションを実行するかを指定できます。

指定時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された現地時刻に、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）で実行された後、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

バッテリーの状態を確認しない。Transformerのユースケースでは、エージェントはバッテリーの状態を確認し、バッテリー残量が少なくなるとユーザーに警告します。有効にすると、エージェントはこのチェックを実行しません。

詳細設定

これらの設定は、エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを変更します。

構成

これらのオプションは、基本的なエージェントの動作を制御します。

メイン構成

エージェントアクション。これらの設定は、アクションタブで構成されたアクションをエージェントが処理するかどうかを決定します。これらの設定は、ログオン時、および更新時（自動または手動更新（ユーザーまたは管理者によってトリガーされる））に適用されます。

アプリケーションの処理。選択すると、エージェントはアプリケーションアクションを処理します。

プリンターの処理。選択すると、エージェントはプリンターアクションを処理します。

ネットワークドライブの処理。選択すると、エージェントはネットワークドライブアクションを処理します。

仮想ドライブの処理。選択すると、エージェントは仮想ドライブアクションを処理します。（仮想ドライブとは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名のことです。）

レジストリ値の処理。選択すると、エージェントはレジストリエントリアクションを処理します。

環境変数の処理。選択すると、エージェントは環境変数アクションを処理します。

ポートの処理。選択すると、エージェントはポートアクションを処理します。

Iniファイル操作の処理。選択すると、エージェントは.iniファイルアクションを処理します。

外部タスクの処理。選択すると、エージェントは外部タスクアクションを処理します。

ファイルシステム操作を処理。選択すると、エージェントはファイルシステム操作アクションを処理します。

ファイル関連付けを処理。選択すると、エージェントはファイル関連付けアクションを処理します。

ユーザーDSNを処理。選択すると、エージェントはユーザーDSNアクションを処理します。

エージェントサービスアクション。これらの設定は、エージェントサービスがエンドポイントでどのように動作するかを制御します。

ログオン時にエージェントを起動。ログオン時にエージェントを実行するかどうかを制御します。

再接続時にエージェントを起動。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに、エージェントを実行するかどうかを制御します。

管理者向けにエージェントを起動。ユーザーが管理者である場合にエージェントを実行するかどうかを制御します。

エージェントの種類。ユーザーがエージェントと対話するときに、ユーザーインターフェイス (UI) またはコマンドラインプロンプト (CMD) のどちらが表示されるかを制御します。

(仮想) デスクトップ互換性を有効にする。エージェントが実行されているデスクトップとの互換性を確保します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントを起動

するために必要です。物理デスクトップまたはVDIデスクトップのユーザーがいる場合は、このオプションを選択します。

公開アプリケーションでCMDエージェントのみを実行。有効にすると、公開アプリケーションでは、エージェントはUIモードではなくCMDモードで起動します。CMDモードでは、エージェントのスプラッシュ画面の代わりにコマンドプロンプトが表示されます。

クリーンアップアクション

このタブに表示されるオプションは、エージェントが更新されたときに、エージェントがショートカットまたはその他の項目 (ネットワークドライブやプリンター) を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てた場合、ショートカットまたは項目の作成も制御できることがわかります。これは、**割り当て > アクションの割り当て > アクションの割り当て**タブの**割り当て済み**ペインでアクションのオプションを構成することで実行できます。Workspace Environment Management™ は、これらのオプションを特定の優先順位に従って処理します。

1. **クリーンアップアクション**タブに表示されるオプション
2. **割り当て済み**ペインで割り当てられたアクションに対して構成されたオプション

たとえば、**割り当て済み**ペインで割り当てられたアプリケーションに対して**デスクトップの作成**オプションを有効にしており、アプリケーションのショートカットがすでにデスクトップに作成されているとします。**クリーンアップアクション**タブで**デスクトップショートカットの削除**オプションを有効にしている場合でも、エージェントが更新されたときにショートカットはデスクトップに残ります。

起動時のショートカット削除。エージェントは、更新時に選択された種類のすべてのショートカットを削除します。

起動時のネットワークドライブ削除。有効にすると、エージェントは更新時にすべてのネットワークドライブを削除します。

起動時のネットワークプリンター削除。有効にすると、エージェントは更新時にすべてのネットワークプリンターを削除します。

自動作成されたプリンターを保持。有効にすると、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。

特定のプリンターを保持。有効にすると、エージェントはこのリスト内のプリンターを削除しません。

エージェントオプション

これらのオプションは、エージェントの設定を制御します。

エージェントログの有効化。エージェントログファイルを有効にします。

ログファイル。ログファイルの場所。デフォルトでは、これはログインユーザーのプロファイルルートです。

デバッグモード。これにより、エージェントの詳細ログが有効になります。

オフラインモードの有効化。無効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合でも、キャッシュにフォールバックしません。

オンライン時でもキャッシュを使用。有効にすると、エージェントは常にキャッシュから設定とアクションを読み取ります（キャッシュはエージェントサービスがサイクルするたびに構築されます）。

キャッシュを使用してアクション処理を高速化。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから関連設定を取得してアクションを処理します。これにより、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻したい場合は、このオプションを無効にしてください。

> **重要:**
>
> - エージェントのローカルキャッシュは、定期的にインフラストラクチャサービスと同期されます。したがって、アクション設定の変更が有効になるまでには、**エージェントキャッシュ更新遅延**オプション（**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブ）で指定した値に応じて、ある程度の時間がかかります。
> - 遅延を減らすには、より低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、**Administration > Agents > Statistics**タブに移動し、該当するエージェントを右クリックして、コンテキストメニューから**Refresh Cache**を選択します。

> **環境設定の更新**。有効にすると、エージェントの更新時にユーザー環境設定の更新がトリガーされます。環境設定の詳細については、「環境設定」を参照してください。

システム設定の更新。有効にすると、エージェントの更新時にWindowsシステム設定（Windows Explorerやコントロールパネルなど）の更新がトリガーされます。

環境設定の変更時に更新。有効にすると、環境設定が変更されたときに、エージェントはエンドポイントでWindowsの更新をトリガーします。

デスクトップの更新。有効にすると、エージェントの更新時にデスクトップ設定の更新がトリガーされます。デスクトップ設定の詳細については、「デスクトップ」を参照してください。

外観の更新。有効にすると、エージェントの更新時にWindowsテーマとデスクトップの壁紙の更新がトリガーされます。

非同期プリンター処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します。

非同期ネットワークドライブ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

初期環境クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- ユーザーネットワークプリンター。
    - **Cleanup Actions**タブで**自動作成されたプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。
    - **Cleanup Actions**タブで**特定のプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントはリストで指定されたプリンターを削除しません。
- ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。

初回デスクトップUIクリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。

アプリケーションの存在を確認。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。

アプリ変数を展開。有効にすると、変数はデフォルトで展開されます（エージェントが変数を検出したときの通常の動作については、環境変数を参照してください）。

クロスドメインユーザーグループ検索を有効にする。有効にすると、エージェントはすべてのActive Directoryドメインでユーザーグループを照会します。**注**: これは非常に時間のかかるプロセスであり、必要な場合にのみ選択してください。

ブローカーサービスタイムアウト。エージェントがインフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合に、自身のキャッシュに切り替えるまでのタイムアウト値。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ディレクトリサービスタイムアウト。エージェントホストマシン上のディレクトリサービスに対するタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはユーザーグループ関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ネットワークリソースタイムアウト。ネットワークリソース（ネットワークドライブまたはネットワーク上にあるファイル/フォルダーリソース）を解決するためのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはアクションが失敗したと見なします。デフォルト値は500ミリ秒です。

エージェントの最大並列処理度。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は0（プロセッサによって物理的に許可される最大数のスレッド）です。1はシングルスレッド、2はデュアルスレッドなどです。通常、この値を変更する必要はありません。

通知を有効にする。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりしたときに、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。Citrix®は、品質の低いネットワーク接続ではこのオプションを有効にしないことを推奨します。そうしないと、接続状態の変更通知がエンドポイント（エージェントホスト）に頻繁に表示される可能性があります。

詳細オプション

エージェントアクションの実行を強制。これらの設定が有効になっている場合、変更が加えられていない場合でも、エージェントホストは常にそれらのアクションを更新します。

未割り当てアクションを元に戻す。これらの設定が有効になっている場合、エージェントホストは次回更新時に、割り当てられていないアクションを削除します。

自動更新。有効にすると、エージェントホストは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新遅延は30分です。

再接続アクション

再接続時のアクション処理。これらの設定は、ユーザー環境への再接続時にエージェントホストが処理するアクションを制御します。

高度な処理

フィルター処理の強制。有効にすると、これらのオプションは、エージェントホストが更新ごとにフィルターを再処理するように強制します。

サービスオプション

これらの設定は、エージェントホストサービスを構成します。

エージェントキャッシュの更新遅延。この設定は、Citrix WEM Agent Host Serviceがキャッシュを更新するまで待機する時間を制御します。更新により、キャッシュはWEMサービスデータベースと同期されます。デフォルトは30分です。

SQL設定の更新遅延。この設定は、Citrix WEM Agent Host ServiceがSQL接続設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは15分です。

エージェントの追加起動遅延。この設定は、Citrix WEM Agent Host Serviceがエージェントホスト実行可能ファイルを起動するまで待機する時間を制御します。

> **ヒント:**
>
> エージェントホストにまず必要な作業を完了させたいシナリオでは、エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）が待機する時間を指定できます。VUEMAppCmd.exeは、Citrix Virtual Apps and Desktopsで公開されたアプリケーションが起動する前に、エージェントホストが環境の処理を完了することを保証します。待機時間を指定するには、エージェントホスト構成グループポリシーで利用可能なVUEMAppCmdの追加同期遅延設定を構成します。詳細については、「WEMエージェントのインストールと構成」を参照してください。

> **デバッグモードを有効にする**。これにより、このサイトに接続するすべてのエージェントホストの冗長ログが有効になります。

ie4uinitチェックをバイパスする。デフォルトでは、Citrix WEM Agent Host Serviceは、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前にie4uinitが実行されるのを待機します。この設定により、エージェントホストサービスはie4uinitを待機しないように強制されます。

エージェント起動の除外。有効にすると、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対してCitrix WEM Agent Hostは起動されません。

コンソール設定

禁止ドライブ。このリストに追加されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てる際のドライブ文字選択から除外されます。

割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可。有効にすると、割り当てで使用されているドライブ文字は、他の割り当てでも引き続き使用できます。

StoreFront™

このタブを使用して、StoreFrontストアをWorkspace Environment Managementに追加します。その後、**Actions > Applications > Application List**タブに移動して、それらのストアで利用可能なアプリケーションを追加できます。これにより、公開されたアプリケーションをアプリケーションショートカットとしてエンドポイントに割り当てることができます。詳細については、「アプリケーション」を参照してください。Transformer（キオスク）モードでは、割り当てられたStoreFrontアプリケーションアクションが**Applications**タブに表示されます。StoreFrontストアの詳細については、「StoreFrontのドキュメント」を参照してください。

ストアを追加するには

1. **追加**をクリックします。
2. **ストアの追加**ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。ストアは構成セットに保存されます。

ストアURL。Workspace Environment Managementを使用してリソースにアクセスしたいストアのURLです。URLはhttp://hostnameの形式で指定する必要があります。ここで、hostnameはストアの完全修飾ドメイン名であり、portはプロトコルのデフォルトポートが利用できない場合にストアとの通信に使用されるポートです。

> **重要：**
>
> - 使用するストアURLは、外部ネットワークから直接アクセス可能である必要があり、Citrix ADCなどのソリューションの背後にあってはなりません。
> - この機能は、多要素認証を使用するStoreFrontでは動作しません。

> **説明**。ストアを説明するオプションのテキストです。

ストアを編集するには

リストからストアを選択し、**編集**をクリックしてストアのURLまたは説明を変更します。

ストアを削除するには

リストからストアを選択し、**削除**をクリックして、構成セットからストアを削除します。

変更を適用するには

適用をクリックして、ストア設定をエージェントにすぐに適用します。

エージェントの切り替え

このタブにあるオプションを使用すると、オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えることができます。

> **重要:**

> エージェントの切り替えは、構成セットレベルで機能します。実行する切り替え操作は、構成セット内のエージェントのみに影響します。

> **サービスエージェントに切り替える**。有効にすると、エージェントはオンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替わります。その後、エージェントが接続するCitrix Cloud™ Connectorを指定できます。これは、既存のオンプレミス展開をWEMサービスに移行する場合に役立ちます。

> **警告:**

> オンプレミス展開をWEMサービスに移動する場合にのみ、このオプションを有効にしてください。この移動は、WEM管理コンソールを通じて元に戻すことはできません。

> **Citrix Cloud Connectorを構成する**。Cloud ConnectorのFQDNまたはIPアドレスを入力して、Citrix Cloud Connectorを構成できます。**追加**をクリックして、一度に1つのCloud Connectorを追加します。高いサービス可用性を確保するために、Citrixは各リソースの場所に少なくとも2つのCloud Connectorをインストールすることを推奨しています。したがって、少なくとも2つのCitrix Cloud Connectorを構成する必要があります。

Citrix Cloud Connector™構成をスキップする。グループポリシーを使用してCitrix Cloud Connectorを構成する場合は、このオプションを選択します。

> **重要:**

エージェントの切り替え設定が有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで構成した**SQL設定の更新遅延**設定に応じて、時間がかかる場合があります。

オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えた後、エージェントがWEMサービスに接続できない場合があり、ロールバックが必要になることがあります。その場合は、AgentConfigurationUtility.exeコマンドラインを使用します。例:

- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name> --agentport <port number> --syncport <port number>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch --usegpo -o`

UIエージェントのパーソナライズ

これらのオプションを使用すると、UIモードのエージェントのルックアンドフィールをパーソナライズできます。これらのオプションは、UIエージェントがユーザー環境でどのように表示されるかを決定します。

注：

これらのオプションは、UIモードのエージェントにのみ適用されます。CMDモードのエージェントには適用されません。

UIエージェントオプション

これらの設定により、ユーザー環境におけるセッションエージェント（UIモードのみ）の外観をカスタマイズできます。

カスタム背景画像パス。指定すると、エージェントの起動時または更新時に、Citrix Workspace Environment Managementのロゴの代わりにカスタムスプラッシュスクリーンが表示されます。画像はユーザー環境からアクセスできる必要があります。400*200 pxの.bmpファイルを使用することをお勧めします。

読み込み円の色。読み込み円の色をカスタム背景に合わせて変更できます。

テキストラベルの色。読み込みテキストの色をカスタム背景に合わせて変更できます。

UIエージェントスキン。UIエージェントから開くダイアログに使用する事前構成済みのスキンを選択できます。たとえば、**アプリケーションの管理**ダイアログや**プリンターの管理**ダイアログなどです。**注**: この設定ではスプラッシュスクリーンは変更されません。

エージェントスプラッシュスクリーンの非表示。有効にすると、エージェントの読み込み中または更新中にスプラッシュスクリーンが非表示になります。この設定は、エージェントが最初に更新されるときには適用されません。

公開アプリケーションのエージェントアイコンを非表示。有効にすると、公開アプリケーションにエージェントアイコンが表示されません。

公開アプリケーションでエージェントのスプラッシュスクリーンを非表示にする。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのエージェントスプラッシュスクリーンが非表示になります。

管理者のみがエージェントを閉じることができます。有効にすると、管理者のみがエージェントを終了できます。その結果、エージェントメニューの**終了**オプションは、非管理者向けのエンドポイントでは無効になります。

ユーザーがプリンターを管理できるようにする。有効にすると、エージェントメニューの**プリンターの管理**オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして**プリンターの管理**ダイアログを開き、デフォルトのプリンターを設定したり、印刷設定を変更したりできます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

ユーザーがアプリケーションを管理できるようにする。有効にすると、エージェントメニューの**アプリケーションの管理**オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして**アプリケーションの管理**ダイアログを開き、次のオプションを設定できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- **デスクトップ**。アプリケーションのショートカットをデスクトップに追加します。
- **スタートメニュー**。スタートメニューフォルダーにアプリケーションのショートカットを作成します。
- **クイック起動**。アプリケーションをクイック起動ツールバーに追加します。
- **タスクバー (P)**。タスクバーにアプリケーションのショートカットを作成します。
- **スタートメニュー (P)**。アプリケーションをスタートメニューにピン留めします。

> **注:**

> 自己修復モードで作成されたショートカットは、このメニューを使用して削除できません。 クイック起動オプションは、Windows XPおよびWindows Vistaでのみ利用可能です。

管理者がエージェントを閉じられないようにする。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。

アプリケーションショートカットを有効にする。有効にすると、エージェントメニューに**マイアプリケーション**オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは**マイアプリケーション**メニューからアプリケーションを実行できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

管理リフレッシュフィードバックを無効にする。有効にすると、管理者が管理コンソールを通じてエージェントのリフレッシュを強制した場合でも、このオプションはユーザー環境に通知を表示しません。

ユーザーがアクションをリセットできるようにする。エージェントメニューに**アクションのリセット**オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。**アクションのリセット**オプションを使用すると、現在のユーザーは自分の環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが**アクションのリセット**を選択すると、**アクションのリセット**ダイアログが表示されます。このダイアログでは、ユーザーはリセットする内容を詳細に制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、**リセット**をクリックできます。これにより、対応するアクション関連のレジストリエントリが削除されます。

> **注記:**
>
> - エージェントメニューには、次の2つのオプションが常に利用可能です。「**更新**」と「**バージョン情報**」。「**更新**」オプションは、WEMエージェント設定の即時更新をトリガーします。その結果、管理コンソールで構成された設定はすぐに有効になります。「**バージョン情報**」オプションは、使用中のエージェントのバージョン詳細を表示するダイアログを開きます。

ヘルプデスクオプション

これらのオプションは、エンドポイント上のユーザーが利用できるヘルプデスク機能を制御します。

ヘルプリンクアクション。エンドポイント上のユーザーが「**ヘルプ**」オプションを利用できるかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがヘルプを要求できるウェブサイトリンクを入力します。

カスタムリンクアクション。エージェントメニューに「**サポート**」オプションを表示するかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできるウェブサイトリンクを入力します。

画面キャプチャを有効にする。エージェントメニューに「**キャプチャ**」オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーはこのオプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには、次のオプションがあります。

- **新規キャプチャ**。ユーザー環境のエラーのスクリーンショットを撮ります。
- **保存**。スクリーンショットを保存します。
- **サポートに送信**。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

サポートに送信オプションを有効にする。画面キャプチャツールに「**サポートに送信**」オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはこのオプションを使用して、スクリーンショットとログファイルを指定されたサポートメールアドレスに、指定された形式で直接送信できます。この設定には、動作する構成済みのメールクライアントが必要です。

カスタム件名。有効にすると、画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメール件名テンプレートを指定できます。

メールテンプレート。画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメールコンテンツテンプレートを指定できます。このフィールドは空にできません。

> **注記:**
>
> メールテンプレートで使用できるハッシュタグのリストについては、「動的トークン」を参照してください。 **##UserScreenCaptureComment##ハッシュタグ**がメールテンプレートに含まれている場合にのみ、ユーザーはコメントを入力するオプションが表示されます。

> **SMTP を使用してメールを送信**。有効にすると、MAPI の代わりに SMTP を使用してサポートメールを送信します。

SMTP のテスト。上記で入力された SMTP 設定をテストし、それらが正しいことを確認します。

省電力

指定した時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは実行中のマシンを指定された時刻に自動的にシャットダウンします。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、マシンが指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）になった後、エージェントは実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。

管理

次の項目で**管理**ペインが構成されます。

- **管理者**。Workspace Environment Management™ の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを介して構成セットにアクセスする権限を付与できます。
- **ユーザー**。ユーザー統計を表示できます。
- **エージェント**。エージェント統計を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、統計のアップロードなどの管理タスクを実行できます。
- **ログ**。Workspace Environment Management での管理アクティビティを表示できます。ログは次の目的で使用できます。
    - 構成変更後における問題の診断とトラブルシューティング。
    - 変更管理を支援し、構成を追跡します。
    - 管理アクティビティを報告します。

管理者

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを介して構成セットにアクセスする権限を付与できます。

構成済み管理者リスト

構成済み管理者のリストで、その権限レベル（**フルアクセス**、**読み取り専用**、または**詳細アクセス**。詳細は以下を参照）が表示されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

管理者を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. 「ユーザーまたはグループの選択」ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

名前。現在編集しているユーザーまたはグループの名前。

説明。ユーザーまたはグループに関する追加情報。

グローバル管理者。選択したユーザー/グループがグローバル管理者であることを指定するには、選択します。選択したユーザー/グループがサイト管理者であることを指定するには、クリアします。グローバル管理者の権限は、すべてのサイト（構成セット）に適用されます。サイト管理者の権限は、サイトごとに構成されます。

権限。これにより、選択したユーザー/グループに対して次のいずれかのアクセスレベルを指定できます。**注**: 管理者は、アクセス権のある設定のみを表示できます。

フルアクセス管理者は、指定されたサイト（構成セット）のあらゆる側面を完全に制御できます。フルアクセス権を持つグローバル管理者のみが、Workspace Environment Management管理者の追加/削除を行うことができます。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

読み取り専用管理者は、コンソール全体を表示できますが、設定を一切変更することはできません。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

詳細アクセスは、管理者が次のいずれかまたは複数の権限セットを持っていることを示します。

アクション作成者はアクションを作成および管理できます。

アクションマネージャーはアクションを作成、管理、および割り当てることができます。アクションを編集または削除することはできません。

フィルターマネージャーは条件とルールを作成および管理できます。割り当てられたアプリケーションで使用されているルールは、フィルターマネージャーが編集または削除することはできません。

割り当てマネージャーはユーザーまたはグループにリソースを割り当てることができます。

システムユーティリティマネージャーはシステムユーティリティ設定（CPU、RAM、プロセス管理）を管理できます。

ポリシーおよびプロファイルマネージャーはポリシーおよびプロファイル設定を管理できます。

構成済みユーザーマネージャーは構成済みユーザーリストからユーザーまたはグループを追加、編集、および削除できます。割り当てられたアクションを持つユーザーまたはグループは、構成済みユーザーマネージャーが編集または削除することはできません。

Transformer Managers は、Transformer の設定を管理できます。

Advanced Settings Managers は、高度な設定（アクション処理、クリーンアップアクションなどの有効化または無効化）を管理できます。

Security Managers は、Security タブのすべてのコントロールにアクセスできます。

状態。これは、選択したユーザー/グループが有効か無効かを制御します。無効にすると、そのユーザー/グループは Workspace Environment Management の管理者とは見なされず、管理コンソールを使用できません。

種類。このフィールドは読み取り専用で、選択したエンティティがユーザーかグループかを示します。

Global Administrator がクリアされている場合、以下のコントロールが有効になります。

サイト名。このインフラストラクチャサービスが接続されているデータベースに属するすべての Workspace Environment Management サイト（構成セット）。

有効。指定された Workspace Environment Management サイト（構成セット）に対してこの管理者を有効にするには、これを選択します。無効にすると、そのユーザー/グループはそのサイトの管理者とは見なされず、アクセスできません。

権限。このインフラストラクチャサービスに接続されている各 Workspace Environment Management サイト（構成セット）について、選択したユーザー/グループの権限レベルを選択します。

ユーザー

このページには、Workspace Environment Management 展開に関する統計が表示されます。

統計

このページには、エージェントホストがデータベースに接続したユーザーの概要が表示されます。

ユーザーの概要。現在のサイト（構成セット）とすべてのサイト（構成セット）の両方で、Workspace Environment Management ライセンスを予約した合計ユーザー数が表示されます。また、過去24時間および過去1か月間の新規ユーザー数も表示されます。

ユーザー履歴。現在のサイト（構成セット）に関連付けられているすべてのユーザーの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻、最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントの種類（UIまたはCMD）、およびバージョンが含まれます。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

エージェント

このページには、Workspace Environment Management展開環境内のエージェントに関する統計が表示されます。

統計

このページには、Workspace Environment Managementデータベースに記録されているWorkspace Environment Managementエージェントの概要が表示されます。

エージェントの概要。現在の構成セットとすべての構成セットの両方について、Workspace Environment Managementライセンスを予約しているエージェントの合計数が表示されます。また、過去24時間および過去1か月間に追加されたエージェントも報告されます。

エージェントの履歴。構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻、最後に接続したデバイスの名前、およびエージェントのバージョンが含まれます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

同期状態列の次のアイコンは、エージェントキャッシュとWorkspace Environment Managementデータベースの最終同期の結果を示します。

- 成功（チェックマークアイコン）。最終同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
- 不明（疑問符アイコン）。同期が進行中であるか、同期がまだ開始されていないか、同期結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
- 失敗（Xアイコン）。最終同期が失敗したことを示します。

Profile Managementの正常性ステータス列には、展開環境におけるProfile Managementの正常性ステータスが表示されます。

Profile Managementの正常性ステータスは、Profile Managementが最適に構成されているかどうかを判断するために、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントホストの出力ファイル（`%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.xml`）から特定の問題を特定できます。この機能は、毎日、またはWEMエージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、管理コンソールで選択したエージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**Profile Management構成チェックの更新**を選択します。各ステータスチェックはステータスを返します。最新のステータスを表示するには、**更新**をクリックします。**Profile Managementの正常性ステータス**列のアイコンは、Profile Managementの正常性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

- 良好（チェックマークアイコン）。Profile Managementが良好な状態であることを示します。
- 警告（三角形の感嘆符アイコン）。Profile Managementが最適ではない状態であることを通知します。最適ではない設定は、展開環境におけるProfile Managementのユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側での対応を必要とするものではありません。
- エラー（Xアイコン）。Profile Managementが誤って構成されており、Profile Managementが正常に機能しない原因となっていることを示します。
- 利用不可（疑問符アイコン）。Profile Management が見つからないか、有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックがお客様の経験を反映していない場合、または発生している問題を検出しない場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

最近接続済み列の次のアイコンは、エージェントが特定の期間内に統計情報をWorkspace Environment Managementデータベースにアップロードしたことを示します。エージェントはオンラインです。列のフィールドが空白の場合、エージェントはオフラインであることを示します。

- オンライン（チェックマークアイコン）

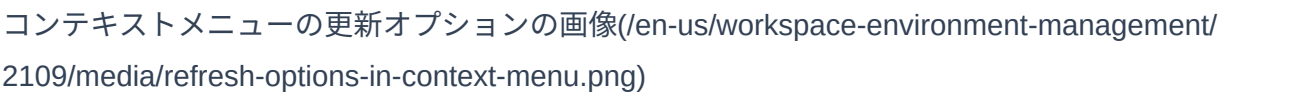
期限切れレコードのクリア。Workspace Environment Managementデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が24時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。

エージェントを更新するには

エージェントを更新すると、インフラストラクチャサーバーと通信します。インフラストラクチャサーバーは、Workspace Environment Managementデータベースでエージェントホストの**ID**を検証します。

1. **更新**をクリックして、エージェントのリストを更新します。
2. コンテキストメニューで、**Workspace Agent(s) の更新**を選択します。

コンテキストメニューのオプション


コンテキストメニューの更新オプションの画像(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/refresh-options-in-context-menu.png)

キャッシュの更新。エージェントのローカルキャッシュ（WEM構成データベースのエージェント側レプリカ）の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、エージェントのローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。

エージェントホスト設定の更新。エージェントサービス設定を適用します。これらの設定には、詳細設定、最適化設定、トランスフォーマー設定、およびその他のユーザーに割り当てられていない設定が含まれます。

Workspace Agent の更新。ユーザーに割り当てられたアクションをWEMエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。

> **重要:**
>
> - **Workspace Agentsの更新**オプションは、自動的に起動される（エンドユーザーまたはスクリプトによって起動されない）UIモードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMDモードのエージェントでは機能しません。
> - すべての設定を更新できるわけではありません。一部の設定（環境設定やグループポリシー設定など）は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

> **統計のアップロード**。インフラストラクチャサービスに統計をアップロードします。

プロファイル管理設定のリセット。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。プロファイル管理設定がエージェントに適用されていない場合は、**プロファイル管理設定のリセット**をクリックします。このオプションが利用可能になるには、**更新**をクリックする必要がある場合があります。

> **注：**
>
> WEM管理コンソールから**プロファイル管理設定のリセット**を構成した後も設定がエージェントに適用されない場合は、回避策としてCTX219086を参照してください。

> **Microsoft USV設定のリセット**。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV設定がエージェントに適用されていない場合は、**Microsoft USV設定のリセット**をクリックし、次に**更新**をクリックします。

プロファイル管理構成チェックの更新。エージェントホストでステータスチェックを実行し、プロファイル管理が最適に構成されているかどうかを判断します。

レコードの削除。データベースからエージェントレコードを削除できます。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションはグレー表示されます。

アクションのリセット。適用可能なマシン上のすべてのアクション関連レジストリエントリをパージすることにより、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

Citrix Optimizerの処理。Citrix Optimizer設定の変更がすぐに有効になるように、設定をエージェントに適用します。

登録

このページには、データベースに記録されているWorkspace Environment Managementエージェントの登録ステータスが表示されます。

> **重要：**
>
> エージェントは1つの構成セットにのみ登録する必要があります。
>
> 以下の情報が報告されます。

マシン名。エージェントが実行されているコンピューターの名前。

状態。エージェントホストコンピューター上のエージェントの登録ステータス。アイコンと、登録の成功または失敗に関する詳細情報を示す以下の説明によって示されます。

エージェントがどのサイトにもバインドされていません。エージェントがどのサイト（構成セット）にもバインドされていないため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

エージェントが1つのサイトにバインドされています。インフラストラクチャサーバーは、そのサイト（構成セット）に必要なマシン依存の設定をエージェントに送信しています。

エージェントが複数のサイトにバインドされています。エージェントが複数のサイト（構成セット）にバインドされているため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

登録エラーを解決するには

次のいずれかを実行します。

- Active Directory階層（コンピューター、コンピューターグループ、OU間の関係）を編集する

または

- コンピューターが1つのサイト（構成セット）のみにバインドされるように、Workspace Environment Management階層（管理コンソールのActive Directoryオブジェクトセクション）を編集します。

これらの変更を行った後、インフラストラクチャサーバーでエージェントを更新します。

ログ

管理

このタブには、データベース内のWorkspace Environment Management設定に加えられたすべての変更のリストが表示されます。デフォルトでは、ログは手動で更新されるまで空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***この操作は元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにその操作が行われたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

エージェント

このタブには、Workspace Environment Managementエージェントに加えられたすべての変更が一覧表示されます。**更新**をクリックするまで、ログは空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***この操作は元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにその操作が行われたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

監視

これらのページには、ユーザーログインとマシンの起動に関する詳細なレポートが含まれています。さまざまな形式ですべてのレポートを**エクスポート**できます。

日次レポート

日次ログインレポート。このサイトに接続しているすべてのユーザーのログイン時間の毎日の概要です。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの各ユーザーの個別のログオン時間を示す詳細ビューが表示されます。

日次起動レポート。このサイトに接続しているすべてのデバイスの起動時間の毎日の概要です。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの個別の起動時間を示す詳細ビューが表示されます。

ユーザー傾向

ログイン傾向レポート。このレポートは、選択した期間の各日の全体的なログイン傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

起動傾向レポート。このレポートは、選択した期間の各日の全体的な起動傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスの種類。このレポートは、このサイトに接続しているリストされている各オペレーティングシステムのデバイスの数を日別に表示します。各デバイスの種類をダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

ユーザーおよびデバイスレポート

ユーザーレポート。このレポートでは、選択した期間における単一ユーザーのログイン傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスレポート。このレポートでは、選択した期間における単一デバイスの起動傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

構成

レポートオプション

これらのオプションを使用すると、レポート期間と稼働日を制御できます。また、値が報告されない最小**起動時間**と**ログイン時間** (秒単位) を指定することもできます。

リファレンス

CMDモードとUIモードのエージェント

Workspace Environment Management™ エージェントは、CMDモードとUIモードで実行できます。

エージェントをログオン時に実行するように構成する場合、CMDモードまたはUIモードのどちらで起動するかを制御できます。そのためには、**Administration Console > Advanced Settings > Configuration > Main Configuration**タブにある**エージェントの種類**設定を使用します。詳細については、「詳細設定」を参照してください。

エージェントをログオン時に自動的に実行するように構成しない場合、管理者またはエンドユーザーは、エージェントマシン上でエージェントをCMDモードまたはUIモードで起動できます。そのためには、エージェントのインストールフォルダーに移動し、次の2つの.exeファイルを特定します。

- **VUEMCmdAgent.exe**。エージェントをCMDモードで実行できます。
- **VUEMUIAgent.exe**。エージェントをUIモードで実行できます。

CMDモードとUIモードの違い

CMDモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、CMDモードはコマンドプロンプトを表示します。CMDモードは起動後に自動的に終了します。
- 起動時、CMDモードはユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- 現在、CMDモードはコマンドライン操作をサポートしていません。

UIモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、UIモードはエージェントのスプラッシュスクリーンを表示します。
- UIモードでは、次のオプションが表示されます。

- **マイアプリケーション**。自分に割り当てられているアプリケーションを表示できます。
- **画面キャプチャ (Capture Screen)**。画面キャプチャツールを開くことができます。このオプションを有効にするには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**タブで**画面キャプチャを有効にする (Enable Screen Capture)**を有効にする必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション (Helpdesk Options)」を参照してください。
- **アクションのリセット (Reset Actions)**。**アクションのリセット (Reset actions)**ツールを開き、環境でリセットするアクションを指定できます。

このオプションを有効にするには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるアクションのリセットを許可する (Allow Users to Reset Actions)**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション (UI Agent Options)」を参照してください。

- **アプリケーションの管理 (Manage Applications)**。**アプリケーションの管理 (Manage applications)**ツールを開き、アプリケーションを管理できます。

このオプションを有効にするには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるアプリケーションの管理を許可する (Allow Users to Manage Applications)**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション (UI Agent Options)」を参照してください。

- **プリンターの管理 (Manage Printers)**。**プリンターの管理 (Manage printers)**ツールを開き、デフォルトのプリンターを構成し、印刷設定を変更できます。

このオプションを有効にするには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるプリンターの管理を許可する (Allow Users to Manage Printers)**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション (UI Agent Options)」を参照してください。

- **更新 (Refresh)**。エージェントを更新し、ユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- **ヘルプ (Help)**。ヘルプを求めることができるWebサイトを開くことができます。

このオプションを有効にするには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**タブで**ヘルプリンクアクション (Help Link Action)**を指定する必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション (Helpdesk Options)」を参照してください。

- **バージョン情報 (About)**。エージェントのバージョンに関する情報を表示します。
- **終了 (Exit)**。エージェントを閉じることができます。

アクションをリセットし、アプリケーションとプリンターを管理するには、UIモードでエージェントを使用する必要なく、次のツール（エージェントのインストールフォルダーで利用可能）を直接使用できます。

- **ResetActionsUtil.exe**。**アクションのリセット (Reset actions)**ツールを開くことができます。
- **AppsMgmtUtil.exe**。**アプリケーションの管理 (Manage applications)**ツールを開くことができます。
- **PrnsMgmtUtil.exe**。「**プリンターの管理**」ツールを開くことができます。

CMDモードとUIモードの主な違い：

- CMDエージェントは設定を適用してから終了します。WEMエージェントを、特定の時点（ログオンや再接続など）でCMDエージェントを開始するように構成できます。必要に応じて、管理者はCMDエージェントを手動で呼び出すことができます。
- UIエージェントは実行を継続します。WEMエージェントホストサービスは、UIエージェントを開始または停止します。UIエージェントは、エンドユーザーにセルフサービスオプションを提供します。管理者がUIエージェントを手動で起動することはお勧めしません。

> **注：**
>
> セッション内でCMDエージェントとUIエージェントを同時に実行することはできません。

一般的なコントロールパネルアプレット

Windowsで一般的なコントロールパネルアプレットは次のとおりです。

アプレット名	**正規名**
アクションセンター	Microsoft.ActionCenter
管理ツール	Microsoft.AdministrativeTools
自動再生	Microsoft.AutoPlay

生体認証デバイス	Microsoft.BiometricDevices
BitLocker ドライブ暗号化	Microsoft.BitLockerDriveEncryption
色の管理	Microsoft.ColorManagement
資格情報マネージャー	Microsoft.CredentialManager
日付と時刻	Microsoft.DateAndTime
既定のプログラム	Microsoft.DefaultPrograms
デバイスマネージャー	Microsoft.DeviceManager
デバイスとプリンター	Microsoft.DevicesAndPrinters
ディスプレイ	Microsoft.Display
コンピューターの簡単操作センター	Microsoft.EaseOfAccessCenter
ファミリーセーフティ	Microsoft.ParentalControls
ファイル履歴	Microsoft.FileHistory
フォルダーオプション	Microsoft.FolderOptions
フォント	Microsoft.Fonts
ホームグループ	Microsoft.HomeGroup
インデックスのオプション	Microsoft.IndexingOptions
赤外線	Microsoft.Infrared
インターネットオプション	Microsoft.InternetOptions
iSCSI イニシエーター	Microsoft.iSCSIInitiator
iSNS サーバー	Microsoft.iSNSServer
キーボード	Microsoft.Keyboard
言語	Microsoft.Language

位置情報の設定	Microsoft.LocationSettings
マウス	Microsoft.Mouse
エムピーアイオーコンフィギュレーション	Microsoft.MPIOConfiguration
ネットワークと共有センター	Microsoft.NetworkAndSharingCenter
通知領域のアイコン	Microsoft.NotificationAreaIcons
ペンとタッチ	Microsoft.PenAndTouch
個人設定	Microsoft.Personalization
電話とモデム	Microsoft.PhoneAndModem
電源オプション	Microsoft.PowerOptions
プログラムと機能	Microsoft.ProgramsAndFeatures
回復	Microsoft.Recovery
地域	Microsoft.RegionAndLanguage
RemoteApp とデスクトップ接続	Microsoft.RemoteAppAndDesktopConnections
サウンド	Microsoft.Sound
音声認識	Microsoft.SpeechRecognition
記憶域スペース	Microsoft.StorageSpaces
同期センター	Microsoft.SyncCenter
システム	Microsoft.System
タブレットPC設定	Microsoft.TabletPCSettings
タスクバーとナビゲーション	Microsoft.Taskbar
トラブルシューティング	Microsoft.Troubleshooting
TSAppInstall	Microsoft.TSAppInstall

ユーザーアカウント	Microsoft.UserAccounts
Windows エニータイム アップグレード	Microsoft.WindowsAnytimeUpgrade
Windows ディフェンダー	Microsoft.WindowsDefender
Windows ファイアウォール	Microsoft.WindowsFirewall
Windows モビリティ センター	Microsoft.MobilityCenter
Windows トゥー ゴー	Microsoft.PortableWorkspaceCreator
Windows アップデート	Microsoft.WindowsUpdate
ワーク フォルダー	Microsoft.WorkFolders

動的トークン

ワークスペース環境管理の任意のアクション(/ja-jp/workspace-environment-management/2109/user-interface-description/actions/applications.html)で動的トークンを使用すると、その機能を強化できます。

動的トークンは、以下のフィールドで使用できます。

- アプリケーション
  - アプリケーションの種類が**インストールアプリケーション**の場合: **コマンドライン**、**作業ディレクトリ**、および**パラメータ**
  - アプリケーションの種類が**ファイル/フォルダ**の場合: **ターゲット**
  - アプリケーションの種類が**URL**の場合: **ショートカットURL**
  - **アイコンファイル**
- プリンター
  - **ターゲットパス**
- ネットワークドライブ
  - **ターゲットパス**および**表示名**
- 仮想ドライブ

    - **ターゲットパス**
- レジストリ
    - **ターゲットパス**、**ターゲット名**、および**ターゲット値**

> **注：**
>
> **ターゲット値**フィールドは、環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに機能しません。

- 環境変数
    - **変数値**
- ポート
    - **ポートターゲット**
- Ini ファイル
    - **ターゲットパス**、**ターゲットセクション**、**ターゲット値名**、および**ターゲット値**

> **注：**
>
> **ターゲットセクション**、**ターゲット値名**、および**ターゲット値**フィールドは、環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに機能しません。

- 外部タスク
    - **パス**および**引数**
- ファイルシステム操作
    - **ソースパス**および**ターゲットパス**
- 特定のフィルター条件
    - 例: 条件タイプが**Active Directory属性の一致**の場合: **テスト対象のActive Directory属性**と**一致結果**

> **注:**
>
> フィルター条件でサポートされているフィールドの完全なリストについては、「フィルター条件のサポートマトリックス」を参照してください。

文字列操作

スクリプト内で文字列を操作して、ドライブをマッピングしたり、アプリケーションを起動したりする必要がある場合があります。Workspace Environment Management™エージェントでは、次の文字列操作がサポートされています。

メソッド	説明	例
#左(文字列,長さ)#	左から指定された数の文字を返します。	`#Left(abcdef,2)#` は `ab` を返します
#右(文字列,長さ)#	右から指定された数の文字を返します。	`#Right(abcdef,2)#` は `ef` を返します
#Truncate(文字列,長さ)#	文字列の長さが指定された長さ以下の場合、文字列全体を返します。文字列の長さが指定された長さより大きい場合、左から指定された数の文字を返します。	`#Truncate(abcdef,3)#` は `abc` を返します
&Trim(文字列)&	文字列の先頭と末尾にあるすべての空白文字を削除します。	`&Trim( a b c )&` は `a b c` を返します
&RemoveSpaces(文字列)&	文字列内のすべての空白文字を削除します。	`&RemoveSpaces( a b c )&` は `abc` を返します
&Expand(文字列)&	文字列に\%で囲まれた環境変数が含まれている場合、その変数を展開します。	`&Expand(%userprofile%\destop)&` は `C:\Users\Jill\desktop` を返します
\$Split(string,[splitter],index)\$	[] で囲まれた区切り文字に基づいて文字列を部分文字列に	`$Split(abc-def-hij,[-],2)$` は `hij` を返します

メソッド	説明	例
	分割し、インデックス付きの部分文字列を返します。	
#Mid(文字列,開始インデックス)#	文字列内の指定されたインデックスから開始し、それ以降のすべての文字を返します。	`#Mid(abcdef,2)#` は `cdef` を返します
!Mid(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された数の文字を返します。	`!Mid(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
!Substring(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された数の文字を返します。	`!Substring(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
#Mod(文字列,長さ)#	文字列を長さで除算し、余りを返します。文字列は整数に変換できる必要があります。	`#Mod(7,3)#` は `1` を返します

注:

- 文字列操作は、ハッシュタグとActive Directory属性でもサポートされています。たとえば、現在のドメインユーザーの名前属性が `Administrator` の場合、`#Left([ADAttribute:NAME],2)#` は `Ad` を返し、`$Split(##ClientIPAddress##,[\.],2)$` は `157` を返します。
- `!Mid(string,startindex,length)!` と `!Substring(string,startindex,length)!` の操作は常に最後に実行されます。

ハッシュタグ

ハッシュタグは、Workspace Environment Managementアイテムの処理で広く使用されている置換機能です。次の例は、ハッシュタグの使用方法を示しています。

.iniファイルに書き込むには、.iniファイルのパスで%UserName%を使用すると、Workspace Environment Managementがそれを処理し、最終ディレクトリを展開します。ただし、**

Workspace Environment Managementが.ini自体に書き込む値を評価することは、より複雑です。%UserName%**を文字通り書き込むか、展開された値を書き込むかを選択できます。

柔軟性を高めるために、**##UserName##**がハッシュタグとして存在します。これにより、値に%UserName%を使用すると文字通り書き込まれ、**##UserName##**は展開された値を書き込みます。

例については、次の表を参照してください。

トークン	説明	例
##UserName##	展開された環境変数「%username%」を返します	ジル
##UserProfile##	展開された環境変数「%userprofile%」を返します	C:\Users\Jill
##FullUserName##	Active Directory内のユーザーのフルネームを返します	ジル・チョウ
##UserInitials##	Active Directory内のユーザー名のイニシャルを返します	JC
##UserAppData##	特殊フォルダー「RoamingAppData」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Roaming
##UserPersonal##	特殊フォルダー「Documents」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Documents
##UserDocuments##	特殊フォルダー「Documents」の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Documents
##UserDesktop##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - デスクトップ	C:\Users\Jill\Desktop
##UserFavorites##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - お気に入り	C:\Users\Jill\Favorites

トークン	説明	例
##UserTemplates##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - テンプレート	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Templates
##UserStartMenu##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - スタートメニュー	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\スタートメニュー
##UserStartMenuPrograms##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - プログラム	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##UserLocalAppData##	特別なフォルダー - LocalAppData の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Local
##UserMusic##	特別なフォルダー - Music の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Music
##UserPictures##	特別なフォルダー - Pictures の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Pictures
##UserVideos##	特別なフォルダー - Videos の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Videos
##UserDownloads##	特別なフォルダー - Downloads の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Downloads
##UserLinks##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - リンク	C:\Users\Jill\Links
##UserContacts##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - 連絡先	C:\Users\Jill\Contacts
##UserSearches##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - 保存された検索	C:\Users\Jill\Searches

トークン	説明	例
##共通プログラム##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - 共通プログラム	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##ComputerName##	マシンの名前を返します	WIN10EN-LR3B66L
##ClientName##	クライアントマシンの名前を返します	W2K16ST-5IS28JP
##ClientIPAddress##	クライアントマシンのIPアドレスを返します	10.150.153.138
##IpAddress##	マシンのIPアドレスを返します	10.150.153.213
##ADSite##	マシンがメンバーであるActive Directoryサイトを返します	NKG
##DefaultRegValue##	-	常にstring.Empty
##UserLDAPPath##	現在のユーザーの識別名を返します	CN=Jill Chou,OU=ユーザーアカウント,OU=APAC,DC=citrite,DC=net
##VUEMAgentFolder##	エージェントフォルダーを返します	C:\プログラムファイル(x86)\Citrix\Workspace Environment Management エージェント
##RDSSessionID##	リモートデスクトップセッションIDを返します	2
##RDSSessionName##	リモートデスクトップセッション名を返します	RDP-Tcp#72
##ClientRemoteOS##	仮想デスクトップへの接続に使用されるマシンのオペレーティングシステムを返します	ウィンドウズ

トークン	説明	例
##ClientOSInfos##	マシンのOS情報を返します	Windows 10 Enterprise 64 ビット

ハッシュタグ **##UserScreenCaptureComment##** は、製品の特定の箇所で使用するために実装されています。このタグは、**詳細設定** > **UIエージェントのパーソナライズ** > **ヘルプデスクオプション** の下の「メールテンプレート」に含めることができます。これを含めると、エージェントの画面キャプチャユーティリティで、画面キャプチャの下にコメントフィールドが表示されます。コメントは、メールテンプレートでタグを配置した場所にサポートメールに含まれます。

アクティブ ディレクトリ属性

Active Directory属性を操作するには、WEMは、 の値を関連するActive Directory属性に置き換えます。 は、任意のActive Directory属性の動的トークンです。指定された属性の値をチェックする関連フィルターがあります。

ユーザーの組織単位 (OU) 構造の場合、WEMは、 の値を関連するActive Directory OU名に置き換えます。Active Directoryパスは、Active Directory内の完全なユーザーパス (LDAP) であり、 はそのサブセットです。

たとえば、ユーザーが属するOUのネットワークドライブを構築したいとします。ネットワークドライブパスで動的トークン を使用して、ユーザーのOUを動的に解決できます。動的トークンを使用する方法は2つあります。

- ネットワークドライブパスで 動的トークンを直接使用します。たとえば、次のパスを使用できます: `\\Server\Share\[UserParentOU:0]\`。
- OUという環境変数を設定し、その値を に設定します。その後、`\\Server\Share\%OU%\` としてドライブをマップできます。

> **注:**
>
> - 数字の「0」を、OU構造で到達したいレベルに対応する数値に置き換えることができます。
> - パスに変数を追加できます。これを行うには、OUレイアウトと一致する正確なフォルダー構造があることを確認してください。

> Active Directory属性をフィルタリング目的で使用することもできます。**管理 > フィルター > 条件 > フィルター条件リスト** タブで、**追加** をクリックすると、新しいフィルター条件ウィンドウを開くことができます。新しいフィルター条件ウィンドウには、Active Directory属性に関連付けられた次の4つのフィルター条件タイプが表示されます。

- Active Directory属性の一致
- Active Directoryグループの一致
- Active Directory パスマッチ
- Active Directory サイトマッチ

Active Directory 属性マッチの場合、動的トークンは です。 Active Directory グループマッチには動的トークンがありません。この条件タイプはグループメンバーシップの確認に使用されるためです。 Active Directory パスマッチの場合、完全な LDAP パスの動的トークンは ##UserLDAPPath## です。 Active Directory サイトマッチの場合、動的トークンは ##ADSite## です。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
[ADAttribute:attrName]	ドメインユーザーの指定された属性を返します	`[ADAttribute:name]` は `Administrator` を返します
[PrinterAttribute:printername|attrName]	指定されたドメインプリンターの指定された属性を返します	[PrinterAttribute:printer1|name] は printer1 を返します
[UserParentOU: level]	現在のユーザーの親 OU の指定されたレベルを返します	`CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=net` 内の `[UserParentOU:1]` は `APAC` を返します

レジストリ

レジストリを操作するには、WEM は `[RegistryValue:<Registry path>]` の値を関連するレジストリ値に置き換えます。たとえば、次の値を指定できます。

-

XML ファイル

XML ファイルを操作するには、WEM は `[GetXmlValue:<XML path>|<tag name>]` の値を XML ファイル内の特定のタグ値に置き換えます。XML パスは、実際のパス、またはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetXmlValue:C:\citrix\test.xml\|summary\] または
- \[GetXmlValue:%xmlpath%\|summary\]

INI ファイル

.ini ファイルを操作するには、WEM は `[GetIniValue:<INI path>|<section name in the .ini file>|<key name in the .ini.file>]` をキー値に置き換えます。INI パスは、実際のパス、またはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetIniValue:C:\citrix\test.ini\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\] または
- \[GetIniValue:%inipath%\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\]

詳細情報

フィルター条件のサポート性マトリックス

次の表は、テストされた値または一致する結果が動的トークンをサポートするすべての条件タイプを一覧表示します。

条件タイプ	テスト値	一致結果
ComputerNameの一致	-	はい
ClientNameの一致	-	はい
環境変数の一致	いいえ	はい
レジストリ値の一致	はい	はい
WMI クエリ結果の一致	-	はい
XenApp® ファーム名の一致	-	はい
XenApp ゾーン名の一致	-	はい

条件タイプ	テスト値	一致結果
XenDesktop® ファーム名の一致	-	はい
XenDesktop デスクトップグループ名の一致	-	はい
Active Directory 属性の一致	はい	はい
名前または値がリストにある	はい	はい
コンピューター名が一致しない	-	はい
クライアント名が一致しない	-	はい
環境変数が一致しない	いいえ	はい
レジストリ値が一致しません	はい	はい
WMIクエリ結果が一致しません	-	はい
XenAppファーム名が一致しません	-	はい
XenAppゾーン名が一致しません	-	はい
XenDesktopファーム名が一致しません	-	はい
XenDesktopデスクトップグループ名が一致しない	-	はい
Active Directory属性が一致しない	はい	はい
名前または値がリストにない	はい	はい
動的値が一致する	はい	はい
動的値が一致しない	はい	はい

条件タイプ	テスト値	一致結果
ファイルバージョンの照合	はい	はい
ファイルバージョンの不一致	はい	はい
公開リソース名	-	はい
名前がリストにある	はい	はい
名前がリストにない	はい	はい
ファイル/フォルダーが存在する	-	はい
ファイル/フォルダーが存在しない	-	はい

環境設定のレジストリ値

この記事では、Workspace Environment Management の環境設定に関連付けられているレジストリ値について説明します。

環境設定スタートメニュー(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-admin-console-environmental-settings-01.png)

共通プログラムを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoCommonGroups
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を削除	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoRun
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

管理ツールを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced
値の名前	Start_AdminToolsRoot
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ヘルプを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoSMHelp
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

ヘルプを非表示にする	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

検索を非表示	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoFind
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWS UPDATEを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoWindowsUpdate
値の型	DWORD
有効値	1
無効値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーをロック	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	LockTaskbar
値の型	DWORD

タスクバーをロック	
有効値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

システムクロックを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	HideClock
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

デバイスとプリンターを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced
値の名前	Start_ShowPrinters
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンピューターのシャットダウンを非表示	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer

コンピューターのシャットダウンを非表示	
値の名前	NoClose
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

強制ログオフボタン	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	ForceStartMenuLogoff
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

通知領域のクリーンアップをオフにする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoAutoTrayNotify
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

パーソナライズされたメニューをオフにする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	インテリメニューズ
値の型	DWORD
有効値	0
無効値	1
処理	ログオン時のサービス

最近使ったプログラムの一覧をクリア	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	ClearRecentProgForNewUserInStartMenu
値の型	DWORD
有効値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

特定のテーマファイルを設定	
親キー	HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization
値の名前	ThemeFile
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない

特定のテーマファイルを設定	
処理	ログオン時のサービス

背景色の設定	
親キー	HKCU\Control Panel\Colors
値の名前	背景
値の型	REG_SZ
有効な値	設定された色 (R G B)
無効な値	値が存在しない、または以前に設定された値の場合は 0 0 0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

特定のビジュアルスタイルを設定	
親キー	HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization
値の名前	SetVisualStyle
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

壁紙を設定	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System
値の名前	壁紙
値の型	REG_SZ

壁紙を設定	
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System
値の名前	WallpaperStyle
値の型	REG_SZ
有効な値	スタイル値に依存
無効な値	値は存在しません
処理	ログオン時のサービス
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System
値の名前	TileWallpaper
値の型	REG_SZ
有効値	スタイル値に依存
無効値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

マイコンピュータアイコンを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum
値名	{20D04FE0-3AEA-1069-A2D8-08002B30309D}

マイコンピュータアイコンを非表示にする	
値の型	DWORD
有効値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

ごみ箱アイコンを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum
値の名前	{645FF040-5081-101B-9F08-00AA002F954E}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

マイドキュメントアイコンを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum
値の名前	{450D8FBA-AD25-11D0-98A8-0800361B1103}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

スタートではなくデスクトップに移動	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\StartPage
値の名前	OpenAtLogon
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

システムのプロパティを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoPropertiesMyComputer
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ごみ箱のプロパティを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoPropertiesRecycleBin
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

ごみ箱のプロパティを無効にする	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

マイ ドキュメントのプロパティを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoPropertiesMyDocuments
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

ネットワーク接続を非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoNetworkConnections

ネットワーク接続を非表示にする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクマネージャーを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System
値の名前	DisableTaskMgr
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

スイッチャーを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI
値の名前	DisableTLcorner
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

チャームヒントを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI
値の名前	DisableCharmsHint
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

環境設定 Windows エクスプローラー(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-admin-console-environmental-settings-03.png)

レジストリ編集ツールへのアクセスを防止する	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System
値の名前	DisableRegistryTools
値の型	DWORD
有効な値	サイレントRegeditを無効にする？2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コマンドプロンプトへのアクセスを防止する	
親キー	HKCU\Software\Policies\System
値の名前	DisableCMD
値の型	DWORD

コマンドプロンプトへのアクセスを防止する	
有効な値	サイレントCmdスクリプトを無効にする？2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンテキストメニューの管理項目を削除	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoManageMyComputerVerb
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークコンテキストメニュー項目を削除	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効値	1
無効値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーでライブラリを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum
値の名前	{031E4825-7B94-4dc3-B131-E946B44C8DD5}
値の型	DWORD
有効値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

エクスプローラーでネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

プログラムのコントロールパネルを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Programs
値の名前	NoProgramsCPL
値の型	DWORD
有効な値	1

プログラムのコントロールパネルを非表示にする	
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWSセキュリティを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoNtSecurity
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoViewContextMenu
値の型	DWORD
有効値	1
無効値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
値の名前	NoTrayContextMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーから指定されたドライブを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoDrives
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

エクスプローラーからの指定ドライブの制限	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoViewOnDrive
値の型	DWORD
有効な値	選択されたドライブ文字によって値が異なります
無効な値	Null (値を削除する必要があります)

エクスプローラーからの指定ドライブの制限	
処理	ログオン時のサービス

環境設定コントロールパネル(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-admin-console-environmental-settings-04.png)

コントロールパネルを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	NoControlPanel
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理中	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	RestrictCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可された各アプレットについて	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\ RestrictCpl

許可された各アプレットについて	
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer
値の名前	DisallowCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可されていない各アプレットについて	
親キー	HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\ DisallowCpl
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み

許可されていない各アプレットについて	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定された既知のフォルダーを無効にする	
親キー	HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer
値の名前	DisableKnownFolders
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

無効化された各フォルダーについて	
親キー	HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer\ DisableKnownFolders
値の名前	無効化されたフォルダー名
値の型	REG_SZ
有効な値	無効なフォルダー名
無効な値	ヌル / 削除済み
処理	ログオン時のサービス

環境設定 SBC/HVD チューニング(/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-admin-console-environmental-settings-06.png)

ドラッグフルウィンドウを無効にする	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値の名前	DragFullWindows
値の型	REG_SZ
有効値	0
無効値	1
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅の無効化	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値名	DisableCursorBlink
値の型	DWORD
有効値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

AUTOENDTASKS を有効にする	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値の名前	AutoEndTasks
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

WAITTOKILLAPP タイムアウト	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値の名前	WaitToKillAppTimeout
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	20000 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅速度の設定	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値の名前	CursorBlinkRate
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	500 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

メニュー表示遅延の設定	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値の名前	MenuShowDelay
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	400 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

対話型遅延の設定	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値の名前	InteractiveDelay
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	Null / 削除済み
処理	ログオン時のサービス

SMOOTHSCROLL を無効にする	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値の名前	SmoothScroll
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

MINANIMATE を無効にする	
親キー	HKCU\Control Panel\Desktop
値の名前	MinAnimate
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理中	ログオン時のサービス

フィルター条件

Workspace Environment Managementには、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成するために使用する、次のフィルター条件が含まれています。管理コンソールでこれらの条件を使用する方法の詳細については、「フィルター」を参照してください。

次のフィルター条件を使用する際は、次の2つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされている場合:
  - 「クライアント」は、エージェントホストに接続するクライアントデバイスを指します。
  - 「コンピューター」と「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。
- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「クライアント」を含む条件は適用されません。

条件名	常にTRUE
予期される値のタイプ	N/A
予期される結果のタイプ	N/A
予期される構文	N/A
戻り値	真。

条件名	COMPUTERNAME マッチ
期待される値の型	N/A
期待される結果の型	文字列。
期待される構文	単一の名前テスト: Computername 複数のテスト (OR): Computername1;Computername2 ワイルドカード (複数にも適用可能): ComputerName*
戻り値	現在のコンピューター名がテストされた値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	CLIENTNAME マッチ
期待される値の型	N/A
予期される値の型	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト: Clientname 複数のテスト (OR): Clientname1;Clientname2 ワイルドカード (複数にも適用可能): ClientName*
戻り値	現在のクライアント名がテストされた値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	IPアドレスの一致
予期される値の型	N/A
予期される結果の型	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: IpAddress 複数のテスト (OR): IpAddress1;IpAddress2 ワイルドカード (複数にも適用可能): IpAddress* 範囲 (複数にも適用可能): IpAddress1-IpAddress2
戻り値	現在のコンピューターのIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントIPアドレスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: ClientIpAddress 複数のテスト (OR): ClientIpAddress1;ClientIpAddress2 ワイルドカード (複数にも対応): ClientIpAddress* 範囲 (複数にも対応): IpAddress1-IpAddress2

条件名	クライアントIPアドレスの一致
戻り値	現在のクライアントIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトの一致
予期される値のタイプ	N/A
期待される結果のタイプ	テストするActive Directoryサイトの正確な名前。
期待される構文	Active Directoryサイト名。
戻り値	指定されたサイトが現在のサイトと一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	スケジューリング
期待される値のタイプ	N/A
期待される結果のタイプ	曜日 (例: 月曜日)。
期待される構文	単一の名前テスト: DayOfWeek 複数のテスト (OR): DayOfWeek1; DayOfWeek2
戻り値	今日がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	環境変数の一致
期待される値の型	文字列。テスト対象の変数の名前。
期待される結果の型	文字列。テスト対象の変数の期待値。
期待される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?
戻り値	環境変数が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	レジストリ値の一致
期待される値の型	文字列。テストするレジストリ値の完全なパスと名前。例: レジストリキー **HKCU\Software\Citrix\TestValueName**
期待される結果の種類	文字列。テスト対象のレジストリエントリの期待値。
期待される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	WMIクエリ結果の一致
期待される値の種類	N/A
期待される結果の種類	文字列。
期待される構文	有効なWMIクエリ。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql>`を参照してください。
戻り値	クエリが成功し、結果がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーの国の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	2文字のISO言語名。
戻り値	ユーザーのISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーUI言語の一致
予期される値の型	N/A
予期される結果のタイプ	文字列。2文字のISO言語名。例: FR。
予期される構文	2文字のISO言語名。例: FR。
戻り値	ユーザーUIのISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーSBCリソースタイプ
予期される値のタイプ	N/A
予期される結果のタイプ	リストから選択。
予期される構文	N/A
戻り値	ユーザーコンテキスト（公開デスクトップまたはアプリケーション）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	OSプラットフォームの種類
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	マシンのプラットフォームの種類（x64またはx86）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	接続状態
予期される値の型	N/A
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
期待される構文	N/A

条件名	接続状態
戻り値	接続状態（オンラインまたはオフライン）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS™ バージョン一致
期待される値のタイプ	N/A
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Apps バージョン。例: 6.5
期待される構文	N/A
戻り値	バージョンが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSファーム名の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。Citrix Virtual Appsファーム名（バージョン6.5まで）。例：Farm。
予期される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSゾーン名の一致
予期される値の型	N/A
予期される結果のタイプ	文字列。Citrix Virtual Apps Zone 名 (バージョン 6.5 まで)。例: Zone。
予期される構文	N/A
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS™ ファーム名の一致
予期される値のタイプ	N/A
予期される結果のタイプ	文字列。Citrix Virtual Desktops Farm 名 (バージョン 5 まで)。例: Farm。
予期される構文	N/A
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デスクトップグループ名の一致
予期される値のタイプ	N/A
予期される結果のタイプ	文字列。Citrix Virtual Desktops デスクトップグループの例: Group。
予期される構文	N/A
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX PROVISIONING™ イメージモード
予期される値のタイプ	N/A
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
期待される構文	N/A
戻り値	現在のCitrix Provisioningイメージモードが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントOS
期待される値のタイプ	N/A

条件名	クライアントOS
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
期待される構文	N/A
戻り値	現在のクライアントオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	ACTIVE DIRECTORYパスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。テストされたActive Directoryパスの名前。
予期される構文	単一名テスト: 厳密なLDAPパスの一致 ワイルドカードテスト: OU=Users* 複数のエントリ: エントリをセミコロン(;)で区切る
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	ACTIVE DIRECTORY属性の一致
予期される値のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory属性の名前。
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory属性の予期される値。
予期される構文	単一値テスト: 値 複数値エントリ: エントリをセミコロン (;) で区切る nullでないことのテスト: ?
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前または値がリストにある
予期される値のタイプ	文字列。Integrity List managerユーティリティによって生成されたXMLリストの完全なファイルパス。
予期される結果のタイプ	文字列。リスト内で検索する名前/値の予期される値。
予期される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに値が見つかった場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	コンピューター名不一致
否定条件の動作	**コンピューター名一致**を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**コンピューター名一致**を参照してください。

条件名	クライアント名不一致
否定条件の動作	ClientName Matchを実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**ClientName Match**を参照してください。

条件名	IPアドレス不一致
否定条件の動作	IP Address Matchを実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**IP Address Match**を参照してください。

条件名	クライアントIPアドレス不一致
否定条件の動作	クライアントIPアドレスの一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**クラ**

条件名	クライアントIPアドレス不一致
	イアントIPアドレスの一致」を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイト不一致
否定条件の動作	Active Directoryサイトの一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**Active Directoryサイトの一致**」を参照してください。

条件名	環境変数不一致
否定条件の動作	環境変数の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**環境変数の一致**」を参照してください。

条件名	レジストリ値不一致
否定条件の動作	レジストリ値の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**レジストリ値の一致**」を参照してください。

条件名	WMIクエリ結果不一致
否定条件の動作	WMIクエリ結果一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**WMIクエリ結果一致**を参照してください。

条件名	ユーザーの国不一致
否定条件の動作	ユーザーの国一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**ユーザーの国一致**を参照してください。

条件名	ユーザーUI言語不一致
否定条件の動作	ユーザーUI言語一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**ユーザーUI言語一致**を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSバージョン不一致
否定条件の動作	Citrix Virtual Appsバージョン一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**Citrix Virtual Appsバージョン一致**を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSファーム名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Appsファーム名一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**Citrix Virtual Appsファーム名一致**を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSゾーン名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Appsゾーン名一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**Citrix Virtual Appsゾーン名一致**を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPSファーム名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktopsファーム名一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**Citrix Virtual Desktopsファーム名一致**を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPSデスクトップグループ名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Desktop Group Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Desktop Group Name Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスが一致しない
否定条件の動作	Active Directory Path Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory Path Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性が一致しない
否定条件の動作	Active Attribute Path Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Attribute Path Match** を参照してください。

条件名	名前または値がリストにない
否定条件の動作	Name or Value is in List を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Name or Value is in List** を参照してください。

条件名	クライアントリモートOSの一致
予期される値のタイプ	N/A
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	N/A

条件名	クライアントリモートOSの一致
戻り値	現在のリモートクライアントオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアントリモートOSの不一致
否定条件の動作	クライアントリモートOSの一致を実行し、逆の結果 (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse)を返します。詳細については、条件「**クライアントリモートOSの一致**」を参照してください。

条件名	動的値の一致
期待される値の型	文字列。環境変数または動的トークンを使用する任意の動的式。
期待される結果の型	文字列。テストされた式の期待される値。
期待される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?
戻り値	動的式の結果値が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	動的値不一致
否定条件の動作	動的値一致を実行し、逆の結果を返します (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse)。詳細については、条件 **動的値一致** を参照してください。

条件名	トランスフォーマーモードの状態
期待される値の型	N/A
期待される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
期待される構文	N/A

条件名	トランスフォーマーモードの状態
戻り値	現在のTransformerの状態が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアントOS不一致
否定条件の動作	クライアントOSの一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**クライアントOSの一致**を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループの一致
期待される値のタイプ	N/A
期待される結果のタイプ	文字列。
期待される構文	単一の名前テスト: グループNetBIOS名 (DOMAIN\Groupname) 複数テスト (OR): Groupname1;Groupname2
戻り値	現在のユーザーグループのいずれかがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループ不一致
否定条件の動作	Active Directoryグループ一致を実行し、逆の結果を返します (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse)。詳細については、条件 **Active Directoryグループ一致** を参照してください。

条件名	ファイルバージョン一致
期待される値のタイプ	文字列。テストするファイルの完全パスと名前。
	例: **C:\Test\TestFile.dll**

条件名	ファイルバージョン一致
期待される結果タイプ	文字列。テスト対象ファイルの期待されるファイルバージョン値。
期待される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ファイルバージョン不一致
否定条件の動作	ファイルバージョン一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**ファイルバージョン一致**」を参照してください。

条件名	ネットワーク接続状態
期待される値のタイプ	N/A
期待される結果タイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	N/A
戻り値	現在のネットワーク接続状態が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

重要:

公開リソース名をフィルター条件タイプとして使用する前に、次の点に留意してください。公開リソースが公開アプリケーションである場合は、アプリケーションのブラウザ名を**一致する結果**フィールドに入力します。公開リソースが公開デスクトップである場合は、デスクトップの公開名を**一致する結果**フィールドに入力します。

条件名	公開リソース名
予期される値のタイプ	N/A
予期される結果のタイプ	文字列。公開リソースの名前 (Citrix Virtual Apps/Citrix Virtual Desktops/RDS)。
予期される構文	単一名テスト: 公開リソース名 複数テスト (OR): Name1;Name2 ワイルドカードテスト: Name*
戻り値	現在の公開リソース名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにある
予期される値の型	文字列。Integrity List managerユーティリティによって生成されたXMLリストの完全なファイルパス。
予期される結果の型	文字列。リスト内で検索する名前の予期される値。
予期される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに名前が一致するものがある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにない
否定条件の動作	「Name is in List」を実行し、逆の結果 (偽の場合は真、真の場合は偽) を返します。詳細については、条件「**Name is in List**」を参照してください。

条件名	ファイル/フォルダーが存在する
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。

条件名	ファイル/フォルダーが存在する
予期される構文	テストするファイルシステムエントリ (ファイルまたはフォルダー) の完全パス。
戻り値	指定されたファイルシステムエントリが存在する場合は真、それ以外の場合は偽。

条件名	ファイル/フォルダーが存在しない
否定条件の動作	「File/Folder exists」を実行し、逆の結果 (偽の場合は真、真の場合は偽) を返します。詳細については、条件「**File/Folder exists**」を参照してください。

条件名	DATETIME マッチ
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列としてのDateTime。テストする日付/時刻。
予期される構文	単一の日付: 06/01/2016 日付範囲: 06/01/2016-08/01/2016 複数のエントリ: entry1;entry2 範囲と単一の日付は混在できます。
戻り値	実行日時が指定されたいずれかのエントリと一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	DATETIME 不一致
否定条件の動作	DateTime マッチを実行し、逆の結果を返します (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse)。詳細については、条件 **DateTime マッチ** を参照してください。

FIPS サポート

Workspace Environment Management™ (WEM) を FIPS 環境で実行できます。WEM の以下の構成は FIPS に関連しています。

- **管理コンソール > アクション > プリンター** のプリンター資格情報:

- **管理コンソール > アクション > ネットワークドライブ** のネットワークドライブ資格情報:

- **管理コンソール > アクション > ユーザー DSN** のユーザー DSN 資格情報:

- **管理コンソール > 詳細設定 > UI エージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション** の SMTP 資格情報:

- **管理コンソール > Transformer 設定 > 全般 > 全般設定** のパスワードロック解除設定:

- **管理コンソール > Transformer 設定 > 詳細 > ログオン/ログオフと電源設定** の自動ログオン資格情報:

FIPS 環境で WEM を実行する際は、以下の考慮事項に留意してください。

- WEM 2003以前の環境からエクスポートされた以下の項目は、WEM環境に復元することはできません。
  - アクション（プリンター、ネットワークドライブ、ユーザーDSN）およびそれらのアクションを含むアクショングループ
  - 設定（エージェント構成設定およびトランスフォーマー設定）
  - 構成セット

アップグレードに関する考慮事項

WEMをFIPSモードで実行する場合は、WEMインフラストラクチャサービスと管理コンソールをアップグレードする前に、以下の考慮事項に注意してください。

- 環境で*WEM 2006以降*が実行されている場合は、まず2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替えるか、*その逆*も可能です。
- 環境で*WEM 2003以前*が実行されている場合は、まず2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替える必要があります。

エージェントに関する考慮事項

FIPS環境でWEMエージェントを実行するには、エージェントのバージョンが*2006以降*であることを確認してください。

Citrix ADC を使用したロードバランシング

この記事では、すべてのアクティブなロードバランス構成で、2つ以上のインフラストラクチャサーバーを含むWorkspace Environment Management™ (WEM) サーバーグループを展開する方法について説明します。この記事では、WEM管理コンソールおよびWEMエージェントからの受信要求をロードバランスするようにCitrix ADCアプライアンスを構成する方法の詳細を説明します。

Citrix ADC で、次の WEM ポートをリッスンできます。

- 管理ポート（既定では8284）
- エージェントサービスポート（既定では8286）
- キャッシュデータ同期ポート（既定では8288）

2つのインフラストラクチャサーバー（インフラストラクチャサーバー1とインフラストラクチャサーバー2）を含むWEMサーバーグループを展開するとします。次の手順を実行します。

1. Citrix ADC 管理 GUI にログオンし、 **［Configuration］** をクリックします。
2. **［Traffic Management］** > **［Load Balancing］** > **［Servers］** > **［Add］** の順に移動し、 **［Add］** をクリックしてインフラストラクチャサーバー1を追加します。インフラストラクチャサーバー2を追加するには繰り返します。
3. **［Traffic Management］** > **［Load Balancing］** > **［Service Groups］** の順に移動し、 **［Add］** をクリックして *管理コンソールサービス* のサービスグループを作成します。
   - **［Protocol］**。 **［TCP］** を選択します。
   - **［Cache Type］**。 **［SERVER］** を選択します。
4. ［Load Balancing Service Group］ページで、 **［No Service Group Member］** をクリックします。

5. ［Create Service Group Member］ページで、 **［Server Based］** を選択し、右矢印をクリックして、インフラストラクチャサーバー1を選択します。インフラストラクチャサーバー2についても手順3～5を繰り返します。

    - **［Port］**。たとえば、管理コンソール用に8284と入力します。

6. *エージェントサービス*と*キャッシュ同期サービス*のサービスグループを作成するには、ステップ3から5に従ってください。

    - **ポート**。エージェントサービスポートには8286と入力します。キャッシュデータ同期ポートには8288と入力します。

7. **Traffic Management > Load Balancing > Virtual Servers** に移動し、**Add** をクリックして、*管理コンソールサービス*用の仮想サーバーを追加します。

    - **プロトコル**。**TCP** を選択します。
    - **IPアドレスタイプ**。**IPアドレス** を選択します。
    - **IPアドレス**。仮想IPを入力します。詳細については、「Citrix ADCが所有するIPアドレスの構成」を参照してください。
    - **ポート**。たとえば、管理コンソールには8284と入力します。

8. 「**負荷分散仮想サーバーサービスグループバインディングなし**」をクリックします。
9. サービスグループバインディングページで、右矢印をクリックし、対応するサービスグループを選択して、**Bind** をクリックします。
10. エージェントサービスポートとキャッシュデータ同期ポートでリッスンする仮想サーバーを作成するには、ステップ7から9に従ってください。

    - **ポート**。エージェントサービスポートには8286と入力します。キャッシュデータ同期ポートには8288と入力します。

ログパーサー

Workspace Environment Management™ には、エージェントのインストールディレクトリにログパーサーアプリケーションが含まれています。

WEMエージェントログパーサー (/en-us/workspace-environment-management/2109/media/wem-agent-log-parser.png)

WEM Agent Log Parser を使用すると、Workspace Environment Management エージェントのログファイルを開き、検索およびフィルタリングできるようになります。このパーサーは、イベン

ト、警告、例外の合計数（リボンの右上）を要約します。また、ログファイルに関する詳細（最初に接続したインフラストラクチャサービスの名前とポート、エージェントのバージョンとユーザー名）も含まれています。

ポート情報

Workspace Environment Management™ は、次のポートを使用します。

送信元	宛先	種類	ポート	詳細
インフラストラクチャサービス	エージェントホスト	TCP	49752	「エージェントポート」。インフラストラクチャサービスから指示を受信する、エージェントホスト上のリスニングポート。
管理コンソール	インフラストラクチャサービス	TCP	8284	「管理ポート」。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。
エージェント	インフラストラクチャサービス	TCP	8286	「エージェントサービスポート」。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。
エージェントキャッシュ同期プロセス	インフラストラクチャサービス	TCP	8288	「キャッシュデータ同期ポート」。Workspace Environment Management 1912以降に適用されます。

送信元	宛先	種類	ポート	詳細
				Workspace Environment Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換えます。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するためのポート。
インフラストラクチャサービス	Citrixライセンスサーバー	TCP	27000	「Citrix License Serverポート」。Citrix License Serverがリッスンし、インフラストラクチャサービスがライセンス検証のために接続するポート。
インフラストラクチャサービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	7279	Citrix License Server内の専用Citrixコンポーネント（デーモン）がライセンス検証に使用するポート。
監視サービス	インフラストラクチャサービス	TCP	8287	「WEM監視ポート」。監視サービスが使用

送信元	宛先	種類	ポート	詳細
				するインフラストラクチャサーバー上のリッスンポート。

ログファイルを表示

Workspace Environment Management™ (WEM) に関連するログを収集して表示できます。これらのログは、自分で問題をトラブルシューティングしたり、Citrixテクニカルサポートに支援を求める際に提供したりするために使用します。以下のログを収集できます。

- WEMエージェント(#logs-related-to-the-agent)
- WEMインフラストラクチャサービス(#logs-related-to-the-infrastructure-service)
- WEM管理コンソール(#logs-related-to-the-administration-console)
- WEMデータベース(#logs-related-to-the-wem-database)

エージェント関連ログ

WEMエージェントに関連するログを収集できます。WEMエージェントがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **WEMエージェントログ**
  - **Citrix WEM Agent Init.log**。CMDまたはUIモードでエージェントの問題をトラブルシューティングできる初期化ログです。このログは、ログオン時または更新時に作成されます。エージェントが起動に失敗した場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは*例外*として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザープロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。
  - **Citrix WEM Agent.log**。CMDまたはUIモードでエージェントの問題をトラブルシューティングできるプライマリログです。このログには、エージェントが処理した命令が一覧表示されます。現在ユーザーにアクションが割り当てられなかった場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは*例外*として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザープロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。デフォルトを変更するには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > エージェントオプション** に移動し、**エージェントログの有効化** 設定を構成します。詳細を表示するには、**エージェントオプション** タブで **デバッグモード** を有効にします。または、次のレジストリキーを構成してログを有効にすることもできます。

Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェント ホスト

名前: AgentDebugModeLocalOverride

種類: DWORD

値: 0

値を1に設定するとログファイルが有効になり、0に設定すると無効になります。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動してください。既定では、ログ記録は無効になっています。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムを再インストールする必要がある深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Citrix WEM Agent Host Service Debug.log**。Citrix WEM Agent Host Serviceに関する問題のトラブルシューティングに役立つログです。既定では、このログファイルは`%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent`にあります。ログ記録を有効にするには、**Administration Console > Advanced Settings > Configuration > Service Options**タブで、関連する構成セットの**Debug Mode**を有効にしてください。または、次のレジストリキーを構成してログ記録を有効にすることもできます。

  コンピューター\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェント ホスト

  名前: AgentServiceDebugModeLocalOverride

  種類: DWORD

  値: 0

値を1に設定するとログファイルが有効になり、0に設定すると無効になります。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動してください。既定では、ログ記録は無効になっています。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムを再インストールする必要がある深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Windowsイベントログ**。Windowsイベントログに書き込まれる情報です。ログは、**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > WEM Agent Service**ペインで表示します。
- **Windows Communication Foundation (WCF)トレース**。WEMエージェントとWEMインフラストラクチャサービス間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログ記録を有効にするには、WCFトレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundation traces」を参照してください。

インフラストラクチャサービスに関連するログ

WEMインフラストラクチャサービスに関連するログを収集できます。WEMインフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **Windowsイベントログ**。Windowsイベントログに書き込まれる情報です。ログは、**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > Norskale Broker Service** ペインで表示します。
- **Citrix WEM Infrastructure Service Debug.log**。Citrix WEMインフラストラクチャサービス (Norskale Broker Service.exe) の問題のトラブルシューティングに役立つログです。デフォルトでは、このログファイルは`%PROGRAMFILES(X86)%\ Norskale\Norskale Infrastructure Services`にあります。このログファイルを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

  a. スタートメニューから**WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を開きます。

  b. **Advanced Settings**タブで、**Enable debug mode**を選択します。

  c. **Save Configuration**をクリックし、**Yes**をクリックしてサービスを開始し、変更を適用します。

d. **WEM Infrastructure Service Configuration Utility**ウィンドウを閉じます。

- **WCFトレース**。WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCFトレースを有効にする必要があります。詳しくは、「Windows Communication Foundation traces」を参照してください。

管理コンソールに関連するログ

WEM管理コンソールに関連するログを収集できます。管理コンソールがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **Citrix WEM Console Trace.log**。WEM管理コンソールの問題のトラブルシューティングに役立つログです。デフォルトでは、このログファイルはユーザープロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。ログを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

  a. スタートメニューから**WEM Administration Console**を開き、**Connect**をクリックします。

  b. **New Infrastructure Server Connection**ウィンドウで情報を確認し、**Connect**をクリックします。

  c. **About**タブで、**Options**をクリックし、**Enable Debug Mode**を選択します。

  d. **Apply**をクリックして変更を適用します。

- **WCFトレース**。WEM管理コンソールとWEMデータベース間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCFトレースを有効にする必要があります。詳しくは、「Windows Communication Foundation traces」を参照してください。

WEMデータベースに関連するログ

WEMデータベースに関連するログを収集できます。ログは、WEMデータベース管理ユーティリティを使用してデータベースを作成またはアップグレードするときに作成されます。詳細については、次のログファイルを参照してください。

- **Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log**。WEMデータベースに関する問題のトラブルシューティングに役立つログです。このログファイルはデフォルトで作成され、`C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services`にあります。

ウィンドウズ コミュニケーション ファンデーション トレース

Windows Communication Foundation (WCF) トレースを表示して、次の問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

- エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信(#troubleshoot-communications-between-the-agent-and-the-infrastructure-service)
- WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信(#troubleshoot-communications-related-to-the-wem-infrastructure-service)
- WEM管理コンソールに関連する通信(#troubleshoot-communications-between-the-wem-administration-console-and-the-wem-database)

エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信のトラブルシューティング

WEMエージェントがWEMインフラストラクチャサービスと適切に通信しない場合は、VUEMUIAgent.exeサービスのWCFトレースを表示できます。WCFトレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEMエージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**「終了」**を選択してエージェントを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent`にあるVUEMUIAgent.exe.configファイルを見つけ、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`<configuration>`と`</configSections>`マーカーの間のセクションに次のスニペットを挿入します。
5. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\vuemUIAgent-Traces.svclog" />
```

```
            </listeners>
        </source>
    </sources>
</system.diagnostics>
```

6. エージェントマシンで、Cドライブに「Trace」というルートフォルダを作成します (C:\Trace)。フォルダが既に存在する場合は、この手順をスキップしてください。
7. 発生した問題を再現し、VUEMUIAgent.exe プロセスを終了します。
8. `C:\Trace` にある `vuemUIAgent-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

Citrix.Wem.Agent.Service.exe サービスの WCF トレースを表示することもできます。次の手順に従ってください。

1. WEM エージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**終了**を選択してエージェントを閉じます。
3. Citrix WEM Agent Host Service を終了します。
4. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` にある Citrix.Wem.Agent.Service.exe.configファイルを見つけ、ファイルのバックアップコピーを作成します。
5. ファイルをメモ帳またはワードパッドで開き、`</configSections>` マーカーの直後の4行目から、次のスニペットをファイルに挿入します。
6. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>
    <sources>
            <source name="System.ServiceModel"
                    switchValue="Information, ActivityTracing"
                    propagateActivity="true">
            <listeners>
```

```
            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\NorskaleAgentHostService-
Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

7. エージェントマシンで、Cドライブに「Trace」というルートフォルダを作成します (C:\Trace)。フォルダが既に存在する場合は、この手順をスキップしてください。
8. Citrix WEM Agent Host Service という Windows サービスを開始し、発生した問題を再現します。
9. `C:\Trace` にある `NorskaleAgentHostService-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信のトラブルシューティング

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合、Norskale Broker Service の WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順に従ってください。

1. WEMインフラストラクチャサービスがインストールされているマシンにログオンします。
2. Norskale Infrastructure Serviceを終了します。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Norskale\Norskale Infrastructure Services` にあるNorskale Broker Service.exe.configファイルを見つけ、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. NotepadまたはWordPadでファイルを開き、`<configuration>` マーカーの直後の3行目から、次のスニペットをファイルに挿入します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>
```

```
            <source name="System.ServiceModel"
                    switchValue="Information, ActivityTracing"
                    propagateActivity="true">
            <listeners>
            <add name="traceListener"
                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"
                initializeData= "c:
\trace\NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog" />
            </listeners>
        </source>
    </sources>
</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. WEMインフラストラクチャサービスマシンで、Cドライブに「Trace」というルートフォルダーを作成します（C:\Trace）。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
7. Norskale Infrastructure Serviceを開始し、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace`で`NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog`という名前のログファイルを表示します。

WEM管理コンソールとWEMデータベース間の通信のトラブルシューティング

WEM管理コンソールとWEMデータベース間の通信に関連する問題が発生した場合は、Norskale Administration Console.exeサービスのWCFトレースを表示できます。WCFトレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEM管理コンソールマシンにログオンします。
2. WEM管理コンソールを閉じます。

3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Norskale\Norskale Administration Console`にあるNorskale Administration Console.exe.configファイルを見つけ、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. NotepadまたはWordPadでファイルを開き、`<configuration>`マーカーの直後の3行目から、次のスニペットをファイルに追加します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\WEMConsole-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. 管理コンソールマシンで、Cドライブに「Trace」というルートフォルダを作成します (C:\Trace)。フォルダが既に存在する場合は、この手順をスキップしてください。
7. WEM管理コンソールを開き、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace`で、`WEMConsole-Traces.svclog`という名前のログファイルを表示します。

WEM 整合性条件リストマネージャー

WEM Integrity Condition List Manager は、フィルタリング目的の XML ファイルを作成するのに役立つ強力なツールです。このツールは、**リストに名前がある**、**リストに名前がない**、**リストに名前または値がある**、および **リストに名前または値がない**というフィルター条件タイプで使用されます。管理コンソールでのこれらの条件の使用方法の詳細については、フィルターを参照してください。

この記事では、WEM Integrity Condition List Manager を使用して、フィルタリング目的の XML ファイルを作成する方法について説明します。たとえば、WEM Integrity Condition List Manager を **リストに名前がある** と組み合わせて使用してアクションをフィルターするとします。

1. WEM 整合性条件リストマネージャーを開きます。
2. 空白の領域を右クリックし、コンテキストメニューで **追加** を選択します。
3. **名前** フィールドに名前を入力します。

> **注:**
>
> WEM エージェントが実行されているマシン (エージェントホスト) の名前を入力します。

4. **XML ファイルを保存** をクリックし、目的のフォルダーを参照して、**保存** をクリックします。
5. 保存した XML ファイルを開き、提供した情報が正しく保存されていることを確認します。
6. 保存したXMLファイルをエージェントホスト上のフォルダーにコピーします。

> **注：**
>
> 管理コンソールマシンにXMLファイルを保存した場合、この機能は動作しません。

7. **Administration Console \> Filters \> Conditions \> Filter Condition List**タブに移動し、**Add**をクリックします。



8. 情報を入力し、**OK**をクリックします。



> **注：**
>
> - **フィルター条件タイプ**。**Name is in List**を選択します。
> - **XMLリストファイル**: C:\\Users\\\<user1\>\\Desktop\\test1.xml (エージェントホスト上のファイルアドレス)
> - **テスト値**。WEM Integrity Condition List Managerの**Name**フィールドに入力した名前に対応する動的トークンを入力します。この例では、エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）の名前を入力しました。したがって、動的トークン「##ComputerName##」を使用する必要があります。動的トークンの使用方法の詳細については、「動的トークン」を参照してください。

9. **Administration Console \> Filters \> Rules \> Filter Rule List**タブに移動し、**Add**をクリックします。



10. **Name**フィールドにフィルター名を入力します。



11. **利用可能**ペインから**構成済み**ペインに構成済みの条件を移動し、**OK**をクリックします。



12. **管理コンソール \> アクション \> アプリケーション \> アプリケーションリスト**タブに移動し、アプリケーションを追加します。



13. **管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**タブに移動します。



14. 目的のユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします（この例では、エージェントホストを選択します）。



15. **利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインにアプリケーションを移動します。



16. フィルターを選択し、**OK**をクリックします。



17. 割り当てられたアプリケーションのオプションを有効にします（この例では、**デスクトップの作成**と**タスクバーにピン留め**を有効にします）。



18. **管理コンソール \> 管理 \> エージェント \> 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。



19. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで を選択します。

> **注：**
>
> 設定を有効にするには、エージェントが実行されているマシンに移動して、Citrix WEM Agent を更新することもできます。



20. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）に移動して、構成された条件が機能することを確認します。



この例では、アプリケーションはエージェントマシンに正常に割り当てられました。デスクトップに作成され、タスクバーにピン留めされました。

XML プリンターリストの構成

Workspace Environment Management™ には、XML プリンターリストファイルを使用してユーザープリンターを構成する機能が含まれています。

XML プリンターリストファイルを作成したら、管理コンソールで**アクションの種類**オプションを**デバイスマッピングプリンターファイルを使用**に設定して、プリンターアクションを作成します。

> **注:**
>
> 特定の Windows 資格情報を必要としないプリンターのみがサポートされています。

XML プリンターリストファイルの構造

XML ファイルは UTF-8 でエンコードされており、次の基本的な XML 構造を持っています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>



    <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
2001/XMLSchema-instance">

    ...

    </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

すべてのクライアントと関連デバイスは、次の種類のオブジェクトで表されます。

```
SerializableKeyValuePair&lt;string, List&lt;VUEMUserAssignedPrinter>>>
```

各デバイスは次のように表されます。

```
    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

                ...
```

```
            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value>

    </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

各デバイスブロックは、特定のクライアントまたはコンピューター名と一致している必要があります。**\<Key>** タグには関連する名前が含まれます。**\<Value>** タグには、指定されたクライアントに割り当てられたプリンターと一致する**VUEMUserAssignedPrinter**オブジェクトのリストが含まれます。

```
    <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



 <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

        <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

            <Key>DEVICE1</Key>

            <Value>

                <VUEMUserAssignedPrinter>

             ...

                </VUEMUserAssignedPrinter>

            </Value>

        </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

       </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

VUEMUserAssignedPrinter タグの構文

構成された各プリンターは、次の属性を使用して**\<VUEMUserAssignedPrinter>**タグで定義する必要があります。

\<IdPrinter>。これは、構成されたプリンターの Workspace Environment Management プリンター ID です。各プリンターは異なる ID を持つ必要があります。**注** Workspace Environment Management 管理コンソールで構成された XML プリンターリストアクションも、独自の ID を持つプリンターアクションであり、XML リストで個別に構成されたプリンターの ID とは異なる必要があります。

\<IdSite>。関連する Workspace Environment Management サイトのサイト ID が含まれます。これは既存のサイトの ID と一致する必要があります。

\<State>。プリンターの状態を指定します。1 はアクティブ、0 は無効です。

\<ActionType>。常に0である必要があります。

\<UseExtCredentials>。0である必要があります。特定のWindows資格情報の使用は現在サポートされていません。

\<isDefault>。1の場合、プリンターはデフォルトのWindowsプリンターです。0の場合、デフォルトとして構成されていません。

\<IdFilterRule>。常に1である必要があります。

\<RevisionId>。常に1である必要があります。プリンターのプロパティが後で変更された場合、エージェントホストに通知し、プリンターアクションが再処理されるように、この値を1増やしてください。

\<Name>。これは、Workspace Environment Managementエージェントホストによって認識されるプリンター名です。このフィールドは空白にすることは**できません**。

\<Description>。これは、Workspace Environment Managementエージェントホストによって認識されるプリンターの説明です。このフィールドは空白にできます。

\<DisplayName>。これは使用されず、空白のままにする必要があります。

\<TargetPath>。これはプリンターへのUNCパスです。

\<ExtLogin>。接続用のWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウント名が含まれます。。

\<ExtPassword>。接続用のWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウントのパスワードが含まれます。。

\<Reserved01>。これには詳細設定が含まれています。**いかなる方法でも**変更しないでください。

```
&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabled&lt;/
Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption
```

特定のプリンターオブジェクトの自己修復をアクティブにするには、上記のコンテンツをコピーして貼り付け、強調表示されている**0**の値を**1**に変更するだけです。

プリンターオブジェクトの例

次の例では、クライアントまたはコンピューター**DEVICE1**に2つのアクティブなプリンターを割り当てます。

- UNC パス「**\\\\server.example.net\\HP LaserJet 2200 Series**」上の「**HP LaserJet 2200 Series**」（既定のプリンター）
- UNC パス「**\\server.example.net\\Canon C5531i Series**」上の「**Canon C5531i Series** プリンター」

また、クライアントまたはコンピューター DEVICE2 に、1 台のアクティブなプリンターを割り当てます。

- UNC パス **\\\\server.example.net\\HP LaserJet 2200 Series** 上の **HP LaserJet 2200 Series**

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

  <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>1</IdPrinter>
```

```
                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>1</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value>

      <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>
```

```
                <IdPrinter>2</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>0</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>Canon C5531i Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\Canon C5531i Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

      <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

```
        <Key>DEVICE2</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>1</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>0</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>
```

```
            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

   </ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

用語集

この記事には、Workspace Environment Management™ (WEM) ソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義が含まれています。

オンプレミス用語のみ

Citrix Cloud™ サービス用語のみ

Admin Broker Port。「管理ポート」のレガシー用語です。

管理コンソール。インフラストラクチャサービスに接続するインターフェイスです。管理コンソールを使用して、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの管理コンソールは、Citrix Cloud ベースの Citrix virtual apps™ サーバーでホストされます。Web ブラウザーを使用して、サービスの **Manage** タブから管理コンソールを使用して WEM のインストールを管理します。

管理ポート 。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートです。ポートの既定値は 8284 で、AdminPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、エージェントサービスとセッションエージェントの2つのコンポーネントで構成されます。これらのコンポーネントはエージェントホストにインストールされます。

Agent Host executable。「セッションエージェント」のレガシー用語です。

Agent Host machine。「エージェントホスト」のレガシー用語です。

Agent Host service。「エージェントサービス」のレガシー用語です。

Agent Broker Port。「エージェントサービスポート」のレガシー用語です。

Agent Cache Synchronization Port。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語です。

エージェントホスト。エージェントがインストールされているマシンです。

エージェントホスト構成GPO。エージェントのインストール時にADMまたはADMXファイルとして提供されるグループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレート。管理者はこれらのファイルをActive Directoryにインポートし、その後、適切な組織単位に設定を適用します。

エージェントポート 。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェントホスト上のリスニングポート。たとえば、管理コンソールからエージェントを強制的に更新するために使用されます。ポートのデフォルトは49752です。

エージェントサービス。VDAまたはTransformerのユースケースにおける物理Windowsデバイスに展開されるサービスです。管理コンソールを使用して構成する設定を適用する責任があります。

エージェントサービスポート 。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。ポートのデフォルトは8286で、AgentPortコマンドライン引数に対応します。

エージェント同期ブローカーポート。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語。

ブローカー。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

ブローカーアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

ブローカーサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

ブローカーサービスアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

キャッシュ同期ポート 。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期させるためのポート。ポートのデフォルトは8285で、AgentSyncPortコマンドライン引数に対応します。

Citrixライセンスサーバーポート 。Citrixライセンスサーバーがリッスンしており、インフラストラクチャサービスがライセンス検証のために接続するポート。ポートのデフォルトは27000です。

Citrix Cloud Connector™ 。リソースロケーション内のマシンがCitrix Cloudと通信できるようにするソフトウェア。各リソースロケーションで少なくとも1台のマシン（クラウドコネクタ）にインストールされます。

構成セット。Workspace Environment Managementの構成設定のセット。

コネクションブローカー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

データベース。Workspace Environment Managementの構成設定を含むデータベース。

Workspace Environment Management のオンプレミスバージョンでは、データベースは SQL Server インスタンスに作成されます。Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの設定は Microsoft Azure SQL Database サービスに保存されます。

データベースサーバーアカウント 。データベース作成ウィザードが SQL インスタンスに接続して Workspace Environment Management データベースを作成するために使用するアカウント。

DSN。データソース名 (DSN) には、データベース名、ディレクトリ、データベースドライバー、ユーザーID、パスワード、その他の情報が含まれます。特定のデータベース用に DSN を作成すると、アプリケーションでその DSN を使用してデータベースから情報を呼び出すことができます。

インフラストラクチャサーバー 。Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューター。

インフラストラクチャサーバー管理ポート。「管理ポート」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサーバーにインストールされているサービスで、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server、Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソール、エージェントホスト) と同期します。このサービスは以前「ブローカー」と呼ばれていました。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

インフラストラクチャサービスアカウント 。インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するアカウント。デフォルトでは、このアカウントは vuemUser SQL アカウントですが、データベース作成時に、インフラストラクチャサービスが使用する他の Windows 資格情報をオプションで指定できます。

インフラストラクチャサービスサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスインストールプロセスによってインフラストラクチャサーバーにインストールされるサービス。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

初期管理者グループ 。データベース作成時に選択されるユーザーグループ。このグループのメンバーのみが、管理コンソールのすべての Workspace Environment Management サイトに対するフルアクセス権を持ちます。デフォルトでは、このグループがこのアクセス権を持つ唯一のグループです。

統合接続 。データベース作成ウィザードが SQL アカウントではなく、現在の Windows アカウントを使用して SQL インスタンスに接続すること。

キオスクモード。エージェントが Web またはアプリケーションランチャーとなり、ユーザーを単一のアプリまたはデスクトップエクスペリエンスにリダイレクトするモード。これにより、管理者はユーザー環境を単一のアプリまたはデスクトップにロックダウンできます。

監視ブローカーポート。「WEM 監視ポート」のレガシー用語。

混合モード認証 。SQL Serverにおいて、Windows認証とSQL Server認証の両方を有効にする認証モードです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するためのデフォルトのメカニズムです。

ライセンスサーバーポート。「Citrix License Server port」のレガシー用語です。

ネットワークドライブ。LAN、サーバー、またはNASデバイス上の物理ストレージデバイスです。

リソースの場所 。サブスクライバーにサービスを提供するために必要なリソースを含む場所（パブリックまたはプライベートクラウド、支店、データセンターなど）です。

SaaS 。*Software as a service*は、サードパーティプロバイダーがアプリケーションをホストし、インターネット経由で顧客に提供するソフトウェア配布モデルです。

セルフサービスウィンドウ。エンドユーザーがWorkspace Environment Managementで構成された機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できるインターフェイスです。このインターフェイスは、「UIモード」のセッションエージェントによって提供されます。

サービスプリンシパル名 (SPN)。サービスインスタンスの一意の識別子です。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。

セッションエージェント。ユーザーセッションのアプリショートカットを構成するエージェントです。エージェントは「UIモード」と「コマンドライン」モードで動作します。UIモードは、ステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスを提供し、エンドユーザーはそこから特定の機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できます。

サイト。「構成セット」のレガシー用語です。

SQLユーザーアカウント 。インストール中に作成される「vuemUser」という名前のSQLユーザーアカウントです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

トランスフォーマー。Workspace Environment Managementエージェントが制限されたキオスクモードで接続する機能です。

仮想ドライブ。**subst**コマンドまたは**DefineDosDevice**関数を使用して作成されたWindows仮想ドライブ（MS-DOSデバイス名とも呼ばれます）。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングします。

仮想IPアドレス (VIP)。実際の物理ネットワークインターフェイス（ポート）に対応しないIPアドレスです。

VUEM。Virtual User Environment Management。これは、製品の一部の箇所に表示されるレガシーなNorskale用語です。

vuemUser 。Workspace Environment Managementデータベース作成時に作成されるSQLアカウントです。これは、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

WEM Broker。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

WEM monitoring port 。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバー上のリスニングポート。ポートはデフォルトで8287です。（未実装）

WEM UI Agent executable。「セッションエージェント」のレガシー用語。

Windows account impersonation。サービスがWindowsアカウントのIDで実行される場合。

Windows AppLocker。ファイルの一意のIDに基づいて、組織内で特定のアプリケーションを実行できるユーザーまたはグループを指定できるWindows機能。AppLockerを使用すると、アプリケーションの実行を許可または拒否するルールを作成できます。

Windows authentication。SQL Serverにおいて、特定のWindowsユーザーアカウントとグループアカウントがSQL Serverへのログインを信頼されるデフォルトの認証モード。SQL Serverの代替認証モードは混合モード認証です。

Windows security。「Windows認証」のレガシー用語。

Workspace Environment Management (WEM) service 。WEM管理コンポーネントをSaaSサービスとして提供するCitrix Cloudサービス。